

- (イ) 御正忌、春秋彼岸會 盆法會ハ各一週間宛降誕會
ハ一日間夫々晝夜二席ノ説教ハ内地ト同シ
- (ロ) 日曜日説教晝夜二席
- (ハ) 家庭法話 是ハ各家庭ニツキ家内一同ニ對シ法話
ヲ試ミ又ハ教義上ノ質問ニ答フルモノニシテ是等ハ平
素事務上又ハ地理上説教ニ參詣スルニ不便ナル家庭ニ
對シテナスモノニシテ現今已ニ請ヲ受ケ居ルモノ三家
アリ各家一回ツトス
- (ニ) 軍隊布教滿洲守備步兵ノ各隊ニ對シ毎月一回ツ、
説教ス但海城、鞍山站ノ如キ遠隔地ニアルモノハ時々
缺勤スルコトアリト云フ
- (ホ) 監獄教誨牛莊領事館監獄囚人ニ對シ每週一回
- (ヘ) 求道會 是ハ營口永世街二本町在住藝者酌婦及各
抱樓主ヨリ成レル佛教會ニシテ毎月一回輪番ヲ以テ各
樓ニ開キ重ニ教誨的ノ説教ヲナスモノトス
- (ト) 營口醫院藝酌婦ニ對スル求道ハ每週一回ニシテ是
ハ重ニ佛教的婦德涵養ニ務ム
- (チ) 御花講 是ハ純粹ノ信者ヨリ成リ全ク教義ノ講話
ヲナスモノトス毎月一回ナリ

- 三、信徒ノ員數 内地ト異リ營口ノ如キハ全ク土着人ニア
ラサルヲ以テ各家ニ付テ其宗教派ヲ差別スルコト能ハサ
ルノミナラス各人ト雖モ夫々元來ノ主義ト時期ノ都合ト
ニ依リ或ハ眞宗トナリ或ハ淨土宗トナリ或ハ甚シキハ基
督教ト變スル等一定ノ標準立テ難キヲ以テ信徒又ハ門徒
ト云フモノ、正確ナル數ヲ知ル能ハサルモ現在檀徒數約
三百戶信徒數百戶ト見テ大差ナカルヘシ
- 四、所屬財產及維持ノ方法 布教師夫婦ニ對シテハ本願寺ヨ
リ手當アリ他ノ助力ヲ須キス又敷地地代ハ無料トス
所屬財產トシテハ厨裡一棟及物置若力部屋等ニ充テタル
モノ一棟外ニ小屋二棟アルノ外現在基本金三百餘圓ヲ存
ス此厨裡及附屬建物ハ明治四十一年春本願寺ヨリ買收シ
タルモノニシテ基本金三百餘圓ハ營口在住信者ノ寄附ニ
係ルモノナリ現時ニ於テハ特ニ寄附ヲ勸誘スルコトナク
レトモ在住信者等ノ連中ハ基本金ヲ作ル目的ヲ以テ頼母
子講ヲ立テ居ルヲ以テ基本金ハ漸次増加シツ、アル形勢
ナリ此外時々信者等ノ寄附ヲ待ツノ外特別ニ維持ノ方
法ナシ
- 五、境内地ノ所屬境内地ハ官有財產ニシテ之ヲ無賃借シタ
ルモノナリ
- 六、境内及建物ノ坪數境内千八十餘坪本堂五十一坪附屬家
屋五十坪ナリ
- (2) 淨土院正念寺 本寺ハ元ト鎮西派淨土宗營口教會所ト
稱シ末寺ト云フニアラス本國宗務所ノ直接管理ニ屬ス明治
三十八年六月頃宗務所ノ出張調査委員ノ報告ニヨリ教會所

設立ノ必要ヲ認メラレ同年十一月朔日本教會所ヲ營口永世
街二百八十一號地ニ開設シ恒州現靈(布教師)着任同十二
月二十四日淨土宗營口教會所ノ看板ヲ掲ケシモノナリ次テ
補助布教師佐橋大成着任現靈ニ代ル佐橋ハ同年九月二十四
日ヲ以テ佛教協會ヲ組織ス是淨信會ノ前身ナリ同年十二月
十四日主任トシテ椿性圓來着任橋ト協力シテ布教ニカメ
同年十二月二十四日同教會社ヲ元神廟街和田保裏ニ移ス明
治四十年二月十五日日本小兒ニ對シ英語支那語漢語ヲ教授
スル夜學校ヲ同寺内ニ設ク然ルニ該家屋ハ家賃高價ナル
爲メニ維持ノ方法ナク同年七月五日新市街千代田街二十九
號地ニ移轉スルト共ニ夜學校ハ自然消滅ニ歸シタリ是ヨリ
先キ同年二月十五日發會ニ係ル茶ノ湯婦人會ハ尙引續キ開
催ス四十年九月樺主任ハ現任布教師角田俊善ト交替ス四十
二年六月ニ至リ信徒ノ間ニ於テ寺院建立ノ議ナリ同八月寄
附募集ノ許可ヲ得寄附金ヲ募リ宗務所ヨリ特ニ補助シタル
一千圓ヲ加ヘ始メテ寺院ノ建立ヲ見ルニ至レリ現時ノモノ
即チ是ナリ明治四十四年十一月角田俊善歸山柴田玄鳳來營
大正三年十月柴田玄鳳歸山竹内學道來營大正四年九月竹内
歸山現住藤尾麟裕來營大正六年四月九日現在ノ寺院名淨土
宗正念寺ト改ム宗派系統ハ淨土宗鎮西派智恩院ニ屬ス

一、布教ノ方法 毎土曜日晝夜二席ノ説教アリ元來本教會
所開設ノ目的ハ支人教化ナリト雖モ其實未タ其運ニ至ラ
ス説教等全ク在留日本人ニ對スルノミ眞正ノ信者ヲ男女
二部ニ分チ男子部ヲ淨信會ト名ツケ會員凡二十名アリ毎
月第二土曜日午後一時ヨリノ會合説教ヲ以テ其會合トシ

婦人部ヲ淨信婦人會ト名ツケ會員凡三十名アリ毎月第一
土曜日午後一時ヨリノ會合ヲ以テ本會ノ會合ニ充ツ其他
日本醜業婦ニ對シ時々一所ニ集會シテ講話スルコトアル
モ一定セス大石橋及當地守備ノ軍隊ニ對シ講話スルコト
アルモ亦時々見舞旁々之ヲ爲スニ過キスシテ一定ノモノ
ニアラス

二、擔當布教師ノ資格及選定方法 布教使タルモノハ必ス
内地ニ於テ教師以上ノモノタリ内地ニ於ケル教師ハ尋常
科(中學程度)卒業者ナリ然ルニ外國ニアルモノハ尙進シ
テ大學校ニ於テ七ヶ年ノ修業ヲ卒ヘタルモノ多キ有様
ナリ

元來外國布教ニ從事セント願フモノ甚少キヲ以テ篤志者
ニシテ志願スレハ直ニ許可サル、有様ナリ此ノ如キ形勢
ナルカ故ニ是迄ハ外國布教ニ關シテ何等特別ノ豫備教育
ノ設ケナカリシト雖モ現今漸ク外國布教ニ志スモノ多キ
ヲ加フルヲ以テ自然是等ニ關スル設置モ宗務所ニ於テナ
ス而シテ今任命ノ手續ヲ見ルニ假令ハ此處ニ一出願者ア
ルトキハ内國八教區並ニ數個新開教區ヲ總轄スル宗務所
ノ布教部長ハ本人ノ願書ヲ組長小教區長教區長ノ手ヨリ
順次上申シ來リタルモノニ意見ヲ附シテ管長ニ上申シ管
長ノ名ヲ以テ辭令ヲ發セラレ、モノナリ

三、信徒ノ員數 正確ナル信徒ノ員數ヲ知ルコト難キハ他
宗ト異ル所ナシ現在檀徒約八十戶信徒二十戶ナリ

四、所屬財產及維持ノ方法 所屬財產ハ皆無ナリ布教使
ニ對シテハ毎月宗務所ヨリ少許ノ衣食手當アリ(俸給ヲ

四角ナル一小堂宇ニ過キス其所在タルヤ公園内ニアルヲ以テ特ニ敷地ヲ區劃セルモノナシ
三、氏子信徒ノ數 一定シタルモノナシ

(4) 高野山大師教會

一、宗派系統 眞言宗高野山古義派
一、開山ハ明治四十三年二月大西道源來營ヲ機トシ信徒相集リ弘法教會ヲ設立シタルニ創リ大正三年九月設立許可セラル大正五年僧侶青木隆雄來營シタルモ同人ハ素行不良ニシテ住職許可サレス同年三月菅野經禪來山同月十四日寺號改稱大正六年二月菅野歸山教師補吉永秀海來山大正七年四月淺野浮來山大正八年七月大連本部ヨリ派遣ノ中田覺船ト交替シタルトモ中田覺船幾程モナク歸山目下派遣申請中ナリトス
一、檀徒ノ數十七戶信徒數百戶

(5) 曹洞宗布教所

一、大正四年八月四日設立許可サレ大連常安寺ヨリ布教師補門行則分派來營檀徒ノ教化ニ從事ス
一、布教方法毎月八日禪話會十八日觀音講ヲ開催シ教義上ノ質問ニ答ヘ法話ヲ試ルコト、セリ
一、信徒數約百戶漸時檀信徒ノ増加スルニ從ヒ說法修業上現在ノ道場ニテハ狹隘ヲ感シ來レルヲ以テ大正九年度ニハ寺院ヲ建築スル計畫中ニテ敷地ハ既ニ民團役所ヨリ七百坪貸下ヲ認可サレタリトイフ

(6) 法華宗

其筋ヘ目下請願中ニ屬スルモノナレ共大正八年九月法華

給セス) 此外寺ニ關スル諸費用經費ニ對スル一定收入ハ皆無ナリ但寺ノ敷地々代ハ無料ナリ而シテ四十一年四月信徒總代會ヲ組織シ二十五名ノ信者ヲ推舉シ其内一名ノ主務總代及四名ノ計務總代ヲ置キタリ以テ本寺スル諸般設備諸經費ノ收支ノ評議協贊員トナシタリ
五、寺ノ建坪並ニ敷地坪數及所有者 敷地四百坪ニシテ建坪百十四坪ナリ而シテ地所ハ官有地ニシテ民團役所ノ管理ニ屬ス

(3) 稻荷神社 本社ハ内地伏見稻荷社ノ分社ニシテ明治四十三年七月新市街旭公園内ニ新建セラレタリ本社遷座ノ由緒ハ明治四十一年中營口居留民ノ一部ニ稻荷神社建立ノ議起リ二三ノ者提唱者トナリ遂ニ伏見稻荷ヲ請進スルコト、ナリ四十一年十二月神體大連ニ到着シ之ヲ當地ニ奉迎シタルモノナリ次テ四十二年三月ニ至リ一度堂宇ノ建立ヲ見タレトモ體裁甚善カラス議更ニ再建ニ決シ同年七月始メテ落成シタルモノハ即チ現時ノモノ是ナリ七月九日盛大ナル請進式ヲ舉行セリ堂宇ノ建立費用ハ皆寄附金ニ俟チタルモノナリ

一、所屬財產及維持ノ方法 所屬財產ナク維持ノ方法トシテハ月額金十五圓ノ補助ヲ民團役所ヨリ受ケ現時山本金藏ナルモノ社ノ附近ニ居住シ本職ノ外朝夕神ニ親仕シ戸口ノ錠前保管ヨリ燈明ノ點火等一切之ヲ引キ受ケ參詣人ノ賽錢ハ山本之ヲ受ク凡三ヶ月ニシテ其額十圓内外ナリト云フ
二、建物敷地ノ坪數 建物ハ間口一間半ト奥行二間半トノ

宗僧江見乾丈ナル新進氣鋭ノ師來營シ川越重治外敷名ノ發願者ト共ニ日蓮主義維持會ヲ設立シ會場ヲ南本街ニ置キ一般有志ニ對シ毎日曜日ニ法華經講義哲學研究說教其他懷疑煩悶者ノ相談相手トナリ熱心ニ日蓮主義ノ宣傳ニ從事シツアリ

第十節 會館及公所

支那ニ於テハ會館カ商業の團體ノ機關トシテ又公所カ政治的ノ意味ヲ有スル團體の機關トシテ各所ニ設立セラル當地ニ於ケルモノモ亦同様ナリ其活動組織等ニ至ツテハ特ニ之ヲ論述スルヲ須ヒサルヲ以テ之ヲ略ス今當地ニ於ケルモノヲ舉クレハ左ノ如シ
粵東會館廣東官商ノ設立ニ係リ舊市街西部商務總會ノ對門ニアリ
福建公所福建官商ノ設立ニ係リ大官塘北岸ニ在リ
三江公所江蘇浙江安徽官商ノ設立ニ係リ火神廟南東隅ニアリ

第十一節 新聞社

當地ニハ邦人經營ノ滿洲新報ヲ除クノ外支那側ニハ元光緒三十三年七月始メテ張某ノ主幹セル醒世報トテ言文一致體ノ一新聞紙發行セラレシカ翌年收賄ノ廉ヲ以テ六月官憲ヨリ封禁セラレ記者ハ境外ニ放逐セラレ、ニ至レリ又商報館トテ般宗璜ノ發行ニ係リ一紙アリシカ僅カニ三ヶ月ニシテ經費缺乏ノ爲メ廢刊セリ

第十二節 各種局所

一、漁業總局

奉天省ノ漁民保護ハ光緒三十二年大守黃家傑ノ提倡興辦ニ係ル當時官民出資シ即チ官股三、民股七、ノ割合ヲ以テ株金ヲ募集シテ十萬元ヲ得遂ニ蓋平縣内ニ漁業局ヲ設立シ船舶ヲ購入シ兵丁ヲ募集シ以テ漁民保護ニ努メタリシモ其成績不良ナリシヲ以テ黃家傑ハ參撤セラレ太守王立堂之ヲ接辨シタルモ其位置扼要ノ地ニ非サルヲ以テ當地ニ移シ更ニ規模ヲ擴張シテ總局トナシ分局ヲ錦州蓋平、復州、孤山、

營商日報光緒三十三年十月ニ至リ營商日報ノ發刊ヲ見現ニ當地唯一ノ支那新聞タリ同報ハ當港商會中ノ商人カ株金ヲ集メテ開設シタルモノニシテ西營口大街ニアリ主筆ニハ山東省黃縣人高景房アリ商務總會總理潘玉田同協理李序園等主トシテ之ヲ幫助スレトモ賣行少ク收支相償ハス爲ニ動モスレハ記者ノ辭去繁ク頗ル經營ニ苦シミ居リシカ宣統二年ニ至リ當地道臺其他官邊ノ協助ニヨリ今尙ホ繼續シツ、アリ現今ノ發行部數約八百内外ナリ其主義トスル所ハ本埠商業ノ振興發達ヲ圖ルニ在リ現ニ營口商務總會ノ機關新聞ナリ

滿洲新報明治四十一年十一月三日ノ創立ニ成リ當地官有財產管理委員會ノ補助ニヨリ經營ス記者ハ總テ本邦人ノミニシテ其發行部數約千ナリ
此外亞東報民舌報及國民黨機關報等アリシカ何レモ經費困難ノ爲廢刊セリ

莊波、及遼河ノ上流等六處ニ設ケ砲艇四艘帆船十餘艘ヲ置
キ專ラ漁民ヲ保護シ海盜ヲ緝捕シ漁業公司ノ事務ヲ整頓ス
ルニ努メタリ宣統元年太守ノ昇任ト共ニ李候補道復タ之ヲ
接辦セリ宣統二年更ニ沿海ニ各城防陸軍ヲ節制シ馬賊ヲ捉
得シ就地正法ヲ兼掌スルニ至リ該局ノ局務ハ從前ニ比シ多
ク振作セリ該局ニハ總辦一名兵船管帶四名書記二名水兵二
百餘使役十餘名ヲ有セリ而シテ經費ハ每年漁期ニ於テ小旗
ヲ給與シ漁船ノ大小ニヨリ收費ス其額十餘元四元五元等均
シカラズ又平常保護費ヲ徵收シ平均一ケ年約一萬餘元ニ上
ルモ其收入支出ニ償ハサルヲ以テ毎年四萬餘元ヲ總督ヨリ
撥給ストノ聞ヘアリ且現在所用ノ兵丁ハ極メテ勇敢砲艇ハ
沿海航行ニ最モ適スルヲ以テ將來支那海軍ノ成立ト共ニ海
軍ニ編入スル豫定ナリト云フ

二、稅捐總局

本埠ニハ從前海關ノ設ケアリシ以外ニ釐金局ノ設置アリテ
百貨ノ釐金ヲ徵收シ來リシモ光緒三十二年趙奉天總督ハ釐
金局ヲ裁撤シ改メテ稅捐總局トナシ專ラ一切消場捐及各項
ノ稅捐ノ科トヲ掌ラシムルニ至リ昔日ノ釐金局ヲ修造シテ
一大樓房ヲ建設セシモノ即チ之ナリ局内ニハ總辦一名總督
選派ノモノニ係ル以下委員三、四名文案員四、五名稽查員
十數名收捐員數名ヲ置ク而シテ收支ハ毎年等シカラサルモ
收入約四十萬元支出約二三萬元ナリト云フ

三、探運局

東三省ニ於テモ民間需用スル食鹽ハ從前商民ノ隨意販運ニ
任セシモ光緒三十三年吉林及黑龍江二省ニ官鹽局ヲ設立ス

ルヤ則チ民間ノ食鹽ハ均シク官鹽局ヨリ購買シ私販ヲ准サ
ルニ至レリ而シテ海鹽ハ營口附近ヨリ産スル者最モ多キ
ヲ以テ遂ニ本埠ニ探運局ヲ設立スルニ至レリ現在當地ニハ
吉林探運局及黑龍江探運局ヨリ派遣セラレタル委員一名司
事數名及書記使役數名アリ

購鹽ノ方法ハ局内ニ分派セラレタル小委員數名ハ製鹽期ニ
於テ二道溝三道溝及藍旗廠等ノ地方ニ至リテ存鹽ノ多寡及
相場ノ高下ヲ調査シ鹽戶(製鹽者)ト買賣契約ヲ締結シ手附
金ヲ渡シテ來年ノ豫約ヲ爲シ或ハ現金引替ニ現物ヲ裝運シ
テ汽車ニ依リ吉林黑龍江兩省ニ分送シテ售賣スルモノトス
食鹽ノ產額ハ毎年一樣ナラサルモ本埠ヨリ吉黑兩省ニ運往
スルモノ大約十六七萬石ヨリ二十萬石ニ上ルト云フ

四、勸學所

光緒三十三年ノ設立ニ係リ當時ハ僅カニ學董四名ニシテ學
堂四ヶ所ヲ管理セシニ止リシモ其翌三十四年奉天提學使ノ
札諭ノ下ニ之ヲ擴張シ劉紹炎ヲ公舉シテ總董トセリ後宣統
元年又勸學員三名及查學員二名ヲ選用シ視學員一名ヲ公舉
セシモ同二年一月劉紹炎辭職ト共ニ視學員ノ内一名ヲ舉ケ
テ總董トセリ(現道視學ノ職)元當地官衙門内ニハ學務案
件所ノ設ケナキヲ以テ是ヨリ學務ニ關スル事ハ均シク該所
ノ辦理ニ屬シ各種學堂ノ冊表及城内外學堂ノ成績優劣ニ關
スル報告ハ學務該所責任ニ歸シ學務調查事項等ハ提學使ニ
呈報シ命ニ依リテ獎罰ヲ行フニ至レリ而シテ總董及學董等
ノ選舉ハ投票ヲ以テシ選舉者ハ總テ全廳界學務ニ從事スル
モノニ係リ外省及外城ノ者ハ越界參與スルヲ得サル規定ナ

リ而シテ地方官ハ之ヲ監督スルノ責アリ提學使ハ獎罰ヲ考
成スルノ權アリ道臺ハ則チ責任ナキナリ設立當時ニ於テハ
各學董均シク俸給ナカリシモ現時ハ馬車費ヲ支給セラル、
ニ至レリ

該所ノ委員ハ管内二十二縣ノ學事ヲ監督スル道視學一名月
給百元縣視學各縣一名七十元勸學員二名每人二十元查學員二
名每人三十元司事二名每人二十元司帳二名每人十五元文牘
員二人每人二十五元外使役數名アリ

該所内毎月支出約五六百元是レ地方官衙門ヲ經テ本埠房捐
ヨリ撥出スルモノニ係ル

管學ノ數ハ本埠城内兩等小學堂一ヶ所初級小學堂四ヶ所女
學堂一ヶ所附近小學堂七十二ヶ所トス

五、教養公場

光緒三十四年禁錮ノ犯人ヲ以テ均シク收容シ習藝セシメ出
獄後正業ニ就カシメントスルノ目的ヲ以テ前任直隸廳朱同
知初メテ之ヲ創設セリ宣統元年後任廖同知ノ時罪人多カラ
サリシヲ以テ上憲ニ稟明シテ貧民習藝所ヲ添設セリ當時出
示シテ貧民ノ子弟ヲ招聚セシニ募應者百餘名ニ達シタルヨ
リ海城ヨリ各項ノ手工技師數名ヲ聘シ教授ニ當ラシメタル
モ其經費支絀ノ爲途ニ遺散スルノ止ムナキニ至リ現在僅カ
ニ技師及散罪人二、三名止マルニ過キス

經費ハ地方官ヨリ之ヲ撥出シタルモ現時地方財政困難ナル
ト經費多額ナルトニヨリ其目的ヲ遂クルニ至ラズ現在殆ン
ト有名無實ノ觀アリ

管理委員ハ委員一名司事一名司帳二名兵役看管者四、五名

使役人六七、名ヲ置ク而シテ所内ハ數所ニ分レ犯罪ノ輕重
ニ依リテ之ヲ區別ス毎日技師ノ習藝セシムルノ外司員ハ德
義ヲ開說スルモ懶惰殆ント效ヲナサルカ如シ

六、慈善會

現道前任沈道臺在任ノ時直隸省ノ流民來營シ婦孺多ク通街
巷口ニアリテ憐ヲ乞ヒ其狀見ルニ忍ヒサルモノアリ之ヲ以
テ英國人ノ集資シ永世街ニ於テ空房一所ヲ租借シ貧民ヲ收
容シテ飲食ヲ給セリ當地官紳ハ外人ニシテ尙此ノ如キヲ見
漠視スル能ハスシテ道臺ハ埠内紳商ト協力シ養貧所ヲ設立
シ洋人ニ商量シテ既收ノ貧民ヲ移轉セシメ彼等ヲ收養スル
ヲ以テ主義トナシ後改メテ清道所ト稱セシモ目下慈善會ト
改稱スルモノ即チ是ナリ而シテ貧民ノ收容期ハ冬期最モ多
ク春夏秋比較的少ナシ當時日々一定ノ就業ナカリシヲ以テ
男女ノ往々隨意逸走スルアルヲ以テ遂ニ男子ニハ道路ノ掃
除ヲ命シ婦女ニハ衣裳ノ洗濯ヲナサシムル事トセリ然レト
モ天性貧骨ノ者寧ロ路傍ニ憐ヲ乞フヲ願ヒ該所ニ入ルヲ願
ハサルカ如ク久シカラズシテ逃出スルヲ以テ大ナル成功ナ
キカ如シ

事業ハ一、行路病者ノ救助二、外省人ノ此地ニ於テ病没シ
タルモノニシテ引取人ナキモノノ葬送
所内埠紳趙永如ヲ總辦トシ毎月車馬費三十兩司事二名二十
元宛ヲ給シ其他使役數名アリ經費ハ用款毎月約二百餘元是
皆當地商務會ノ捐助ニ成リ一定ノ的款ナシ

七、收捐處

宣統元年十二月ノ創設ニ係リ直隸廳ノ監督ノ下ニ專ラ巡警

ノ餉項學堂及自治會ノ用款等ノ地方稅ヲ代收整理ス其指種ハ即チ房捐舖捐、妓捐、屠獸捐、河餅捐、人力車捐、一輪車捐、戲捐、船板捐、等ニシテ其收捐額每年約十萬餘元ニ上ル本處總董ハ當地名紳巨商中ヨリ選出セラレタルモノニシテ其紳董二名商董三名委員二名司事三名書記三名催巡五名聽差三名厨夫僕役等數名アリ

此外戒煙會所統計所宣講所及濟良所等ノ設アリシモ撤廢セラレテ今日ニ及ヘリ

第十四章 鐵道附屬地

當館管内ニ於ケル南滿洲鐵道株式會社鐵道附屬地ニ於ケル同會社ノ經營狀態左ノ如シ

第一節 營口停車場

(イ) 敷地ノ概面積
營口鐵道附屬地總面積十萬八千九百九十二坪五合ニシテ內五萬九千九百一十一坪ハ鐵道用地ナリトス

(ロ) 戶數人口及其國籍別(牛家屯ヲ含ム)大正九年三月末調

國別	戶數	人口	計
邦人	五七	男一一一 女一〇六	二二七
支那人	一六	男一〇〇 女一八	一一八

(ハ) 敷地内ニ於ケル市街經營ノ現狀及將來ノ計畫
從來當驛ハ牛家屯ニアリ牛莊最近ノ南滿鐵道停車場ト

シテ大石橋分岐線ノ終點驛ナリシカ停車場ト市街トノ距離約一里ニ達シ交通上ノ不便尠カラサルニ因リ明治四十二年十一月之ヲ日本市街ノ中央ニ移シ貨客ノ取扱ヲ爲セリ當附屬地總坪數僅ニ十萬八千餘坪ニシテ內五萬九千九百餘坪ハ鐵道用地他ノ五萬餘坪ハ道路及社宅用地ニシテ此間市街地ヲ經營スルノ餘地ナシ

(ニ) 耕地ノ面積現狀及將來利用ノ見込
當附屬地ハ前述ノ如ク餘裕ナキ附屬地ナレハ耕地トナスヘキ餘地ナシト雖モ元營口驛タリシ牛家屯附屬地ハ總面積百十二萬一千九百餘坪アリ內三十五萬八千九百二十餘坪ハ耕地トシテ五名ノ邦人ニ分貸シアリ

(ホ) 會社ノ經營セル土木衛生教育旅館等ニ關スル施設

(二) 土木

當附屬地及牛家屯附屬地内ノ居住者ハ滿鐵會社員ニシテ同社員外ノ居住者ハ僅ニ十數軒ノ農工業經營者ニ過キサレハ滿鐵會社トシテハ何等特別ノ機關ヲ設ケス必要ニ應ジ大石橋地方事務所ヨリ所員出張施設ス

(二) 教育

(イ) 小學校教育ニ關シテモ前述ノ如ク居住者少數ナルヲ以テ之ヲ隣接セル牛莊居留民團ニ委任シ就學兒童ハ民國立小學校ニ通學シツ、アリ

(ロ) 營口實業補習學校ハ大正三年五月開設セラレ國文、算術、英語、支那語、日語、商業及運輸ノ諸科目ヲ課ス現在在學生百二十九名ニシテ主事以下講師十三名ナリ

第二節 海城停車場

(イ) 敷地ノ概面積
附屬地總面積七十二萬八千三百三十五坪餘ニシテ內四萬一千餘坪ハ鐵道用地ニ二十三萬一千餘坪ハ陸軍用地等ナリトス

(ロ) 戶數人口及其國籍別

國籍別	戶數	人口	計
本邦人	一六四	男二九七 女二三一	五二八
支那人	六七	男四六一 女七一	五三二

(ハ) 敷地内ニ於ケル市街經營ノ現狀及將來
市街ハ線路ノ東側ニ計畫セラレ宅地豫定地トシテ先ツ二萬一千餘坪ヲ劃定シアリ內一萬三千九百餘坪ハ已ニ貸與セラレ元來當地ハ野戰砲兵聯隊ヲ中心トシテ發展セル市街ナレハ二三ノ雜貨店及料理店等ニシテ數年前マデハ市街ノ體面ヲ成スニ至ラザリシカ近來柞蠶繭及雜穀等ノ市場ニ現ハル、ニ至リ大ニ面目ヲ改メ益々發展シツ、アリ今現在ノ營業別ヲ舉クレハ左ノ如シ、

醫師一 獸醫一 農 業二 裁縫業二
靴 業一 雜穀商八 魚類商一 菓子商三
賣藥商四 雜貨商六 石炭商一 時計商一
古物商一 行 商一 土木業一 仲買業一
質屋業八 倉庫業一 運送業一 屠 場一
理髮業一 料理業三 飲食店二 族 館一

(ハ) 營口簡易圖書館ハ初メ大石橋簡易圖書館營口分館トシテ大正五年四月開設セラレシカ同年四月獨立シテ營口簡易圖書館ト稱スルニ至レリ現在ノ備付圖書ハ二千三百七十七冊(巡同共)アリ大正八年度閱覽人員一萬一千六百五十七人ナリトス

(ニ) 營口實業學堂既ニ詳述セルヲ以テ略ス

(三) 衛生

衛生ニ關シテモ春秋二季ノ大清潔法種痘其ノ他臨時檢疫事務ノ如キモ隨時大石橋地方事務所ヨリ所員出張所ニ在警察官ト協力シテ執行シツ、アリ又滿鐵會社ハ大正二年一月財團法人同仁會ノ經營ニ係ル營口同仁醫院ヲ繼承シテ本院トナシ同年十二月西營口(支那町)ニ分院ヲ設置セリ本院ニハ内科、外科、產科婦人科、眼科、齒科、口腔科ノ五科アリ各科ニ專門ノ醫員之ヲ擔當ス

(ハ) 當驛ノ將來

此地ハ大連安東ノ二港ト共ニ大々的發展スヘキ地利ヲ有セハ鐵路ノ開運大連ノ開港以前ニ在テハ滿洲ニ於ケル需給物資ノ唯一吞吐港トシテ市況ノ隆盛眞ニ驚クヘキモノアリシカ爾來大連港ノ發展スルニ從ヒ漸ク衰退ヲ來セリ殊ニ最近數年ニ於テハ歐洲戰亂ノ餘波船腹ノ不足ヲ告ケタル結果當港ハ大打撃ヲ蒙リ居住者モ一時ハ大ニ悲觀セシモ昨年五月以來船舶ノ出入頻繁トナリ市場ノ取引モ漸ク活氣ヲ帶フルニ至リタレハ驛トシテモ相當設備ヲ加ヘ大ニ伸張スヘキヤ必セリ

寫真業一 味噌醬油一 酒 類二 油 房一
大 工四 鑛 業五 雜 一

二、耕地ノ面積現狀及將來利用ノ見込

耕地總面積三十九萬九千三百二十八坪其內現ニ貸與濟ナルモノ二十八萬三千六百六十三坪餘ニシテ大正八年ニ於ケル作物種類坪數收穫高等左ノ如シ

作物種類	植付反別	收穫 高
陸 稻	一八、三二〇	一〇、〇五
大 豆	一五、四〇〇	二六、七二
高 粱	四六、二二〇	四七、三二六
粟	一七、三一〇	一九、二二三
包米大豆混作	一〇、二〇〇	九、九五六
大 麥	一八、〇二〇	五、〇九二
稗	六、二二〇	一、〇九
黑 豆	〇、八二七	〇、二三
黍	二、〇〇〇	二、一九六
小 麥	一五、〇〇〇	一四、五八
秋 菜	一、〇〇〇	二八、三二〇
白 菜	〇、六二〇	一九、二〇八
葱	〇、五〇〇	二七、二〇〇

(ホ) 會社ノ經營スル土木衛生教育旅館等ニ關スル施設及經營

- (1) 土木既設道路ハ巾三間乃至十間ニシテ其延長三千五百八十二間其內七百二十五間ハ砂利敷ニシテ其ノ他ハ道形ニ過キス
- (2) 衛生ハ地方事務所海城派出所之ヲ担任シ南北ノ二區

水道施設ハ露國時代ノモノヲ繼承シ機關車給水ヲ主眼トセルモノニシテ専用栓六ヶ共用栓三ヶヲ設ケ一般ノ便宜ニ供ス此外街燈及共同墓地ノ設備アリ旅館ハ未タ會社ノ經營ニ係ルモノナク個人經營ニ係ルモノ一軒アリ

(ニ) 將來ノ發展

當地西方一帶ノ地ハ地味肥沃ニシテ耕作ニ適ス元來海城ノ地タル往昔遼河々口ノ現狀ヲ形成セザリシ以前臨江ノ要所ニ建設セラレタルモノニシテ其ノ當時ハ地勢上隆盛ノ地位ニ在リシト雖其ノ後幾春秋漸ク海岸ヲ距レ現時ニ於テハ已ニ遼河平野ノ東隅ニ位スルニ至リ往時ノ商工業中心地ハ海城ヲ離レテ牛莊ヨリ更ニ營口ニ移リ何等見ルヘキモノナカリシカ近時柞蘭及雜穀等市場ニ現ハレテ稍活氣ヲ呈スルニ至レリ之ヲ軍事上ヨリ見ル時ハ背後ニハ南滿中實山脈ヲ負ヒ前ニ廣大ナル遼河流域ヲ控ニ遠ク遼西地方ヲ望ムヘク蓋シ整兵上最モ適當ノ地位ニ在ルカ如シ

第三節 大石橋停車場

(イ) 敷地ノ概面積

附屬地總面積ハ九十四萬七千八百八十坪ニシテ內二十五萬七千八百餘坪ハ停車場用地ナリトス

(ロ) 戶數人口及其國籍別

國別	戶數	人口	計
本邦人	六三八	男 九六四 女 八三五	一、七九九

ニ別チ隔日ニ汚物塵芥ノ掃除ヲ執行シツヽアリ尙春秋二期ニ大掃除及種痘等ヲ嚴重執行シツヽアリ又大正四年一月ヨリ公醫診療所ヲ開始シ一般患者ノ便利ヲ計レリ

(3) 教育當小學校ハ明治四十三年四月一日大石橋小學校分教場トシテ設置セラレ大正三年四月一日同分教場廢止ト共ニ海城尋常小學校ヲ設置同年十月三十一日海城大街新築校舍ニ移轉大正七年四月一日海城尋常高等小學校ト改稱ス

現在入學兒童左ノ如シ

尋常科一學年	二學年	三學年	四學年	高等科一學年	二學年
男 一二	男 八	男 六	男 三	男 二	男 四
女 四	女 一〇	女 四	女 三	女 五	女 四
計 一六	計 一八	計 一〇	計 六	計 七	計 八

第一級
第二級

當地居住青年ノ爲大正二年四月十九日海城實業補習學校ヲ開始シ國語、算術、支那語ヲ教授ス又居住者一般ノ讀書趣味ヲ向上セシメンカ爲大石橋簡易圖書館ノ文庫ヲ小學校內ニ備付貸與シ居レリ尙滿鐵會社ハ東語學會ヲ附屬地外ニ設置シ支那人子弟ヲ收容シ日語ヲ主科トシ其ノ他ノ學科ヲモ教授シ以テ支那人子弟ヲ文明ニ接觸セシメ且日支人間ノ意志疎通ヲ圖ルヲ目的トセリ現在ノ在學生五十二名ナリ

支那人

男 五七三
女 九二
計 六六五

(ハ) 敷地内ニ於ケル市街經營ノ現狀及將來ノ計畫
當地ハ附近ニ營口ナル大市場ヲ控ニ加フルニ特殊產業ノ發達セルモノナキヲ以テ取引盛ナラス從テ居住者比較的少數ニシテ何等見ルヘキモノナシト雖當該ハ全線中屈指ノ大驛ニシテ列車運轉上重要地點ナルヲ以テ會社トシテモ車輛係工事係醫院、地方事務所ノ重要機關ヲ置キ守備隊第五大隊憲兵分隊營口警務署大石橋支署、郵便局等ノ設アリ各從事員ノ社宅ヲ以テ一街ヲ形成シ整然タル體面ヲ保テリ

(ニ) 耕地ノ面積現在及將來利用ノ見込

耕地ハ五十七萬八千三百五十五坪ヲ日本人二十五名支那人十一名ニ分貸ス今作物種類植付坪數收穫高ヲ示セハ左ノ如シ

種 類	反別	收 穫
陸 稻	八、七〇	四、七〇
大 豆	一、五〇八	二八、五〇〇
高 粱	一、四四、六〇〇	一、四四、六〇〇
包 米	一、四四、六〇〇	一、四四、六〇〇
粟	一、四四、六〇〇	一、四四、六〇〇
大 麥	一、四四、六〇〇	一、四四、六〇〇
小 麥	一、四四、六〇〇	一、四四、六〇〇
秋 菜	一、四四、六〇〇	一、四四、六〇〇
馬 鈴 薯	一、四四、六〇〇	一、四四、六〇〇
里 芋	一、四四、六〇〇	一、四四、六〇〇

甘薯	0.110	4,100
白薯	1.7410	5,341.44
葱	1.68	4,360
茄子	3.0	29,84
大豆	1.864	3,71,000
黑豆	1.100	0.110
豌豆	2.6000	4,154.00
甜瓜	1.700	7,870.00
菜豆	3.000	14,400

(ホ) 會社ノ經營スル土木衛生教育旅館等ニ關スル施設狀態左ノ如シ

(1) 土木 既設道路ハ道幅十間乃至二間半ニシテ延長八千六百九間七アリ此中砂利敷道路二千八百七間五道形道路六千二百五十二間二ナリ砂利敷道路ニハ石造側溝六百十六間半其他ハ木造側溝ヲ有ス當市ニハ南北ニ通スル二大排水溝アリテ排水ニ便ス

砂利敷道路		道形道路	
道幅	延長	道幅	延長
一〇	九六八、五	九	二二七、〇
八	三六五、〇	八	二四、〇
六	一五九、〇	七、五	二七二、五
二、五	五三、〇	六	一、六七七、七
四	一〇六、〇	四、五	七五七、〇
七、五	一一五、〇	三	三、一六五、〇
七、六	五一、〇	二、五	一一九、〇

橋梁 計 二、八一七、五 計 六、二五二、二
大ハ全長二十三尺二寸面積二十坪六二ヲ始メ小ハ全長六尺六寸面積一坪六分五厘木造十箇土橋六箇アリ
衛生事務ハ滿鐵會社大石橋地方事務所之ヲ擔當シ附屬地ヲ南北ノ二區ニ分チ隔日ニ汚物塵芥ノ掃除ヲ執行シツツアリ尙春秋二季ノ大掃除種痘等ヲ嚴重ニ執行ス又大石橋分院アリ營口醫院ニ屬シ醫師二名藥劑師一名及事務員二名アリ患者二十餘名ヲ收容セリ本年度新築ノ計畫アリ

教育 大石橋尋常高等小學校ハ明治四十一年ノ設立ニシテ同年六月大石橋居留民會ヨリ滿鐵會社ニ繼承シ當時ノ就學兒童僅ニ二十名ニ充タサリシカ爾後増加シ來リ本年ニ入りテハ二百九十四名ノ大多數ヲ收容シ校長以下十一名ノ訓導教員ヲ有ス附屬施設トシテ幼兒運動場及實科女學校アリ幼兒運動場ニハ保姆二名ノ下ニ幼兒男三十一名女十七名計四十八名ヲ收容ス實科女學校生徒ハ八名ニシテ專務教員一名兼務教員四名アリ

實業補習學校ハ明治四十三年六月設置セラレ學科ハ國語算術英語支那語代數幾何車輛運轉旅客貨物線路及建築ノ各科ニシテ現在ノ生徒總數五百九十六名講師十六名ナリトス大石橋簡易圖書館 現在備付總冊二千七百五十四冊ヲ有ス滿鐵會社直營ノ旅館ナルモノナケレトモ驛構内ニハ食堂アリ隨時宿泊スルコトヲ得市中ニハ個人經營ノ旅館二軒アリ (ハ) 將來ノ發展

當地附近一帶ハ土壤ニ「アルカリ」分ヲ含有スルヲ以テ地味概ネ瘠薄農產物豐ナラス主トシテ粟高粱ヲ產ス商業關係ハ前述ノ如ク西方僅二十三哩ニシテ營口ナル大市場ヲ控ヘ取引不活潑ナルヲ免レス近來東方一圓ノ山帶地帶ヨリ輸出セル棉花市場ニ現ハルモノアルモ市場ニ影響ヲ與フルヲ足ラズ工業トシテ燒鍋醬油釀造石灰製造粘土及石材採掘等アレトモ規模大ナリト云フヲ得ス驛ノ東方二里官島山ニ產出スル「マグネサイト」礦石ハ品質良好ニシテ鑛區廣大其ノ埋藏セル量ハ殆ト無盡藏ニシテ世界中多ク其ノ比ヲ見スト謂フ現在南滿鐵業株式會社及大石橋若士合資會社ハ大正七年工場ヲ此地ニ建設シ專ラ之カ「酸化マグネシウム」ノ製造ニ從ヒツツアリト雖何等市場ヲ左右スルニ至ラス

第四節 蓋平停車場

(イ) 敷地ノ總面積 總面積百萬九千二百一十一坪ニシテ各用地區分ハ左ノ如シ

面積區分表	
總面積	一、〇〇九、二一一、〇〇〇
鐵道用地	五四、四六〇、八三三
陸軍用地	二一、三五九、〇〇〇
民政部用地	二、二四六、三〇〇
學校用地	四、六八二、〇〇〇
墓地	五四六、〇〇〇
社宅用地	六、一六〇、〇〇〇

雜地 一〇〇、〇〇〇、〇〇〇
地 二、一〇五、二〇二
地 五五三、七一、七七七
其他 二六三、九三九、八九八
其 戶口人口及其國籍別並年度別表

國別	戶數	人口
日本人	四八	六八一
支那人	一六七	六三九
		五〇五
		一、一四四

(大正九年三月末)

戶數及人口年度別表			
年次	戶數	日本人	支那人
大正四年三月末	一三	一〇一	一〇八
大正五年三月末	一三	一〇一	一〇八
大正六年三月末	一三	一〇一	一〇八
大正七年三月末	一三	一〇一	一〇八
大正八年三月末	一三	一〇一	一〇八

(ハ) 敷地内ニ於ケル市街經營ノ現狀及將來ノ計畫 當地ハ未タ市街ノ見ルヘキモノナシ但支那人部落ハ附屬地内ニ四ヶアリ大ナルハ數十戸小ナルモ十餘戸ヲ下ラス皆農ヲ業トシ相屯在シテ小部落ヲ形成ス停車場附近ニ於テハ滿鐵會社用建物ノ外部便局警官派出所用建物等二十數軒ノ煉瓦造ヲ除キテハ支那式平家造建物數十軒アルニ過キス近來榨蠶繭及糸ヲ始メ雜穀ノ取引モ日ニ隆盛ニ向

キツツアリ満鐵會社ニ於テ目下相當ノ市街計畫中ナリト謂フ

(ニ) 耕地面積現在狀況及將來利用見込

耕地總面積ハ六十餘萬坪ニシテ三浦農園ノ二萬五千坪ヲ除ケハ全部雜穀、野菜ヲ栽培ス三浦農園ニテハ苹果梨桃等ノ栽培ヲ開始セシモ植付後未タ年所ヲ經ス成績ノ良否未タ判シ難シ全面積ヲ十一名ノ日本人及八十二名ノ支那人ニ分貸ス今年於ケル作物種別植付坪數收穫高等ヲ見ルニ左ノ如シ

種別	反別	收穫
大豆	一九八八元	一七五七
高粱	一九九二四	一、〇〇〇〇
粟	一九〇三〇	二、一〇〇
包米大豆混作	一九八四八	二、〇四九
小麥	二六五	五、二〇
麥	三三〇	三、七三
秋菜	三〇〇〇	四、〇〇〇
夏菜	二九一〇	三、五八〇
馬鈴薯	五九二三	一、六七六、〇〇〇
白薯	一八四七	一、六七四、〇〇〇
葱	二八三五	八、三六八、〇〇〇
茄子	九六六〇	二、四七五、八四
瓜	三、八〇二	三、五六一、六〇
西瓜	一五、五〇〇	無
甜瓜	一七、二二	水害ノ爲收穫皆無

一九四

耕地ハ總テ蓋平河ノ流域ニシテ地味概ネ肥沃包米及蔬菜等ノ栽培ニ適ス就中蓋平葱及茄子ノ品質ハ最モ良好ニシテ其ノ名遠近ニ高シ尙栽培ノ改良ヲ計ルニ於テハ優ニ滿濟第一ノ菜園場タルヘキコト疑ナシ

(ホ) 會社ノ經營スル土木衛生教育旅館等ニ關スル施設狀態

道形	道幅	延長	道形	道幅	延長
砂利敷道路	一〇	九八	道形	六	六〇八
計	一、二六〇、七	一、九四五			

(一) 土木 既設道路ハ道幅十間乃至一間ニシテ之ヲ砂利敷道形ニ區分スレハ左ノ如シ

(二) 衛生事務 衛生事務ハ大石橋地方事務所蓋平派出所之ヲ担当シ毎日汚物塵芥ノ掃除ヲ施シ尙春秋二季ノ大掃除種痘等ヲ嚴重ニ執行シツ、アリ又大正四年一月ヨリ公醫出診所ヲ開始

(三) シ一般患者ノ便利ヲ計レリ

1. 大石橋尋常高等小學校蓋平分教場ハ大正九年四月ノ開設ニ係リ目下生徒數十六名教師一名ナリ
2. 當附屬地ニハ祖先以來永住セル支那人多ク夫等子弟ノ教育ヲ等閑ニ附スヘカラサル關係上明治四十二年六月蓋平公學堂ヲ設立シ支那人子弟ヲ收容ス現在ノ在學生百十名ナリ
3. 實業補習學校ハ明治四十三年公學堂ニ附設セラレ現在生徒數三十名ナリ
4. 居住者ノ讀書趣味ヲ普及セシカ爲大石橋簡易圖書館ノ文庫ヲ事務所派出所内ニ備付テ貸付ス

(四) 旅館

當地ニハ旅館ノ設ナシ

(ハ) 將來ノ發展

蓋平城ハ遼東半島ニ於ケル主要貿易市場ニシテ東北ハ岫巖海城西南ハ營口熊岳城復州遼クハ山東上海等ノ各地ヨリ商人來集シ穀類柞蠶糸鹽煙草等ノ取引盛ニ行ハレ一大市場ナリシモ日露戰役後鐵道完備シ各地トノ交通便利ヲ加フルニ隨ヒ物資ハ漸ク各地ニ散シ爲ニ一時ハ悲觀的状態ニ陥リシカ近來再ヒ柞蠶、雜穀、野菜、鹽等ノ取引盛ニ行ハレ殊ニ柞蠶糸ニハ三井物産ノ出張所アリ此處數年ニハ相當ノ發展ヲ見ルヘキヤ必セリ

水道ノ施設ハ露國時代ノモノヲ繼承シ機關車給水ノ餘裕ヲ以テ便宜住民ノ飲用ニ供ス

第五節 熊岳城停車場

街燈ハ樞要地點ニ設ケテ往來ノ安全ヲ圖レリ墓地及火葬場ハ驛ノ東北方高地ニ在リ五百四十六坪ヲ墓地トシ傍ラ簡易ナル火葬場ヲ設備セリ

(イ) 敷地ノ概面積

附屬地總面積百三十三萬五千坪ニシテ内停車場敷地拾一萬餘坪ナリ

(ロ) 戶數人口及其國籍別

種別	戶數	男女別人口	合計
本邦人	九〇	男 一九三 女 一七一	三六四
支那人	二二三	男 八二一 女 四一〇	一、二三一

(ニ) 耕地ノ面積現狀及將來利用ノ見込

耕地ノ面積八十二萬五千三百三十二坪内十萬六千二百二十五坪滿鐵農事試驗場四十五萬八千〇二十一坪邦人經營ノ果樹園二十六萬〇九百八十五坪禾穀類ノ耕作地トナリ居レリ邦人果樹園業者七名アリ果樹ハ林檎、梨、葡萄等ナリ又水田六丁步アリ邦人經營ス

(ホ) 會社ノ經營スル土木衛生教育旅館等ノ施設
 土木、衛生、教育ノ經理ハ皆瓦房店地方事務所出張所ノ
 擔任トス土木ニ關シテハ道路ノ改修排水ノ設置ニ止マリ
 其他未タ竣成ノモノナシ衛生事業トシテハ公醫一名アリ
 一般ノ診察ニ應ス其ノ他一般衛生ハ皆地方事務所派出所
 ノ經營ナリ又四十二年度ニ於テハ瓦房店病院出張所ヲ新
 設スル豫定ナリシト雖モ未タ其運ニ至ラス教育ニ干シテ
 ハ熊岳域尋常高等小學校アリ教員男三女二生徒男四十八
 女三十一名ナリ公學堂一アリ教員邦人男六支那人男一生
 徒百四十九名アリ

(ハ) 將來ノ發展

當驛ハ大ナル發展ノ見込ナキモ元來當驛附近ニハ特產物
 多シ即チ熊岳城沖ノ漁撈、熊岳城附近ノ梨果、柞蠶ノ輸
 出、其ノ他溫泉場等他驛ニ比シ特有ナルモノ多ク渤海灣
 ノ熊岳城沖ハ滿洲唯一ノ漁業場ニシテ毎年五月中旬約二
 週間ヲ限リ最盛ノ漁業期トス漁船ノ集ルモノ毎日凡六百
 餘艘收獲高毎年平均百餘萬圓ニ上ル而シテ此等ノ漁魚ハ
 一面沖合ヨリ直ニ仲買船ニヨリ營口ニ入り一面馬車輸送
 ニヨリ若クハ鐵道ニテ滿洲各地ニ賣却セラルモノニシテ
 其馬車數モ毎日四百臺ノ多キニ上ルト云フ
 今此等ノ獲魚ハ其ノ大部分ハ鐵道ニヨリ各地ニ輸送セラ
 レ居レリ又罐詰等ヲ營工場ノ設立ヲナスニ於テハ其位
 置當驛ヲ以テ最モ便ナリトス又梨ハ古來當地ノ名產ニシ
 テ現ニ支那人ノ附屬地外ニ於テ經營セル五萬餘坪ノ梨園
 アリ產生高モ亦二萬圓ヲ下ラスト云フ此外現時經營セル

個人果樹園ニシテ盛況ニ赴カハ年々三十萬圓以上ツ、ノ
 收入ヲ見ルニ至ルヘシ
 柞蠶ハ此地方一帶ノ產物ニシテ獨リ熊岳城附近ノ特產物
 ニアラスト雖モ現今熊岳城附近ニ集散スルモノ年々二十
 萬貫(一千個二圓位)ヲ下ラス而シテ現今此等柞蠶絲ハ市
 場ニ輸出シテ大取次ヲナスモノナレトモ今若當驛ニ於テ
 大開屋ノ設立ヲ見ルニ至ラハ蓋平ニ迂回スルヲ要セス
 シテ直接ニ出山東、營口等ト取引ヲ開始スルヲ得ヘキハ
 勿論斯ル設備アルニ於テハ蠶絲ノ集散ハ亦漸次増加スヘ
 シ此ノ如ク當驛ハ種々ナル產物ニ富ムヲ以テ滿鐵ノ施設
 ニシテ相當ノ便宜ヲ備フルニ於テハ其ノ發展期待スヘキ
 モノアリ柞蠶ハ道路ノ干係上蓋平ニ出スヲ便トナシ居レ
 ルモ巨萬ノ資ヲ投シテ車道ヲ改築スレハ其ノ大部分ハ當
 驛ニ吸收スルニ至ルヘシ

第六節 瓦房店停車場

(イ) 敷地ノ面積

附屬地ノ總面積七十五萬坪内停車場敷地ハ約二十萬坪ナ
 リ

(ロ) 戶數人口及其國籍別

種別	戶數	男女別人口	合計
本邦人	三九八	男 七七七 女 六八四	一、四六一
支那人	三四三	男 一、三八〇 女 三九〇	一、七七〇

(ハ) 附屬地内ニ於ケル市街經營ノ現狀及將來ノ計畫

當附屬地ハ鐵道線路ヲ境トシ其以東ハ元露國人ノ經營ニ
 係リ嘗テ交戦ノ際兵燹ニ罹リタルモノ多カリシカ其中百
 餘棟ニ對シ修築ヲ加ヘ之ヲ皆滿鐵會社員守備隊員警務署
 員郵便局員等ノ宿舍ニ充テタルモノニシテ現在之ヲ東街
 ト稱シ戶數三〇〇餘戶人口千五百五十餘人ヲ有シ鐵道線以
 西ニ當リ四十一年六月以後滿鐵會社ノ經營ニ係ル所謂新
 市街地ニシテ戶數九十五戶人口約三百人アリ外ニ支那人
 三百二十戶人口千五百八十七人アリ

(ニ) 耕地ノ面積現狀及將來利用ノ見込

耕地面積ハ三十萬一千餘坪ニシテ皆邦人ニ貸下ケ果樹穀
 物蔬菜ノ栽培ヲナシツ、アリ現在邦人ノ經營ニ係ルモノ
 五戸ヲ有シ何レモ果樹穀物蔬菜ノ栽培ヲ爲シツ、アリ今
 附屬地内ニ於ケル用地ノ區分ヲ示セハ左ノ如シ

種別	坪數
鐵道用地	七六、九三八、一五〇
陸軍用地	六一、三六七、四〇〇
民政部用地	三、一八七、三〇〇
社宅地	七九、七二八、八四〇
火葬場墓地	一、〇五〇、二五〇
貸付宅地	三七、二一五、一七七
貸付耕地	三〇一、六五五、四六七
其他	一六八、〇四七、八一六
計	七四〇、九九二、九〇〇

將來ニ於ケル利用ノ見込ハ新規ナル植物ノ培養ニアリ當

地ハ元來土地礫確ニシテ一般農產物ニ適セス故ニ此等地
 味ニ適當スル有益ナル他ノ植物ノ栽培ヲ試ミタルノ外ナ
 シ

(ホ) 會社ノ經營スル土木衛生教育旅館等ニ關スル施設

土木工事ニ關シテハ道路延長四千七百四十間橋梁數二十
 一箇所下水溝ノ延長三千二百〇一間溝渠延長三千八百四
 十八間護岸延長二百間アリ未タ既成ノ域ニ達セスト雖モ
 新市街ノ建設ハ前後三期ニ分チ第一期計畫ハ宅地二萬坪
 街路一萬坪第二期計畫ハ宅地二萬坪街路一萬坪第三期計
 畫ハ宅地二萬坪街路一萬坪ニシテ内第一期計畫ハ四十二
 年中ニ竣成シ目下第二期ノ竣成ヲ見ツ、アリ此外水道屠
 獸場等ノ設備アリテ外ニ電燈會社ノ設立ヲ見一般在住民
 ニ利便ヲ與ヘ居レリ
 又衛生ニ關スル施設トシテハ滿鐵瓦房店醫院アリ一般治
 療ニ應スル外諸種衛生事項ヲ管理ス右ノ外汚物掃除ニ付
 テハ滿鐵地方事務所ニ於テ常ニ外勤員一外勤助手一ノ外
 常備人夫四ヲ置キ毎日市街ヲ巡回セシム教育ニ就テハ瓦
 房店尋常高等小學校アリ南三十里堡ヨリ北萬家嶺ニ至ル
 間ノ學齡兒童ヲ教育シツ、アリ教員男九女一生徒男女併
 セテ約二百五十四名アリ尙四十三年度ニ於テ幼稚園ノ設
 立ヲ見媒姆二幼穉五十五ヲ收容シ居レリ尙大正三年度ニ
 於テ實科女學校ノ開設ヲ見職員數三生徒數二十アリ又實
 業補習學校ノ明治四十三年ニ開設主事一、事務員一、講
 師十二、計十四現在生徒數九十三アリ外ニ大正三年設立
 支那人子弟ヲ教育スル公學堂アリ職員日本人三支那人二

計五、生徒數百十八名ヲ收容シ居レリ
旅館ニ付テハ何等見ル可キモノナキモ邦人經營ノモノ一
アリ

(一) 將來ノ發展

元來當地ハ復州城及皮子窩ノ中間ニ位シ復州縣ニ於ケル
物資ノ集散地タル見込ナカリシモ近來松樹驛ノ發展ニ伴
ヒ幾分ノ餘響ヲ受ケ居ルモ將來大ナル發展ノ見込ナシ只
將來復縣所在地タル復州トノ交通機關ノ完成ニ依リ幾分
自然繁盛ヲ加フヘク期待セラレ、且ツ現在當地地方官廳
所在地タル復州ノ位置タル鐵道ヲ西ヘ距ル六十支里海
岸ヲ東ニ距ル最近四十五支里ノ内地ニアリ附近丘陵起伏
シ交通不便產物寡少ニシテ到底地方ノ首都タル資格ナキ
カ故ニ該公署ヲ瓦房店ニ移轉セシムル計畫アリテ大正九
年中新市街ノ隣接地ニ其敷地ノ買収ヲ行ヒ若々準備中ニ
屬スルヲ以テ將來移轉ノ事實行ハルニ於テハ當地ノ發展
ハ疑ヲ容ルヘカラサルナリ

第十五章 土地家屋賣買並ニ

賃貸借ノ價額

第一節 地所家屋賣買ニ關スル

手續及慣習

地所家屋ノ賣買ニ關スル手續及慣習ニ付テハ二者殆ント同
一ニシテ若シ地所或ハ家屋ヲ買ハント欲スルトキハ一般ニ
地媒又ハ房媒(土地家屋賣買世話人)及經紀(支那地方官

署ニ設ケルアル土地家屋賣買掛員)ノ手ヲ經ルヲ通例トシ
經紀ハ依頼ニヨリ賣買兩者ノ間ニ斡旋シ其賣買價額ヲ商議
シ雙方其欲スル價格成立セハ吉日ヲ選ヒ經紀立會ノ上買主
ノ費用ヲ以テ設筵シ中人(保證人)代字人(代書人)其ノ
他隣友知己ヲ請シ衆人立會ノ上契據(賣買契約書)ヲ作成
シ買主賣主中人代字人等一同之ニ畫押シ茲ニ初メテ賣買契
約者ノ效力ヲ生ス

地所家屋賣買契約書ノ様式左ノ如シ

立杜賣地契約人○○○今將自有本號○○○所置_{地若干畝}
坐落○○○地方情願賣與○○○名下永遠爲業憑中說合
親同丈量勘明界址議定價銀○○○兩正其價言明筆下
交足並不短缺分文自賣之後決無反悔亦無親族人等阻欄
如有以上情契有中人一面承管不與受業人相干四至開列
於後合炊有憑之此契一紙爲證

計開
東至○○地
西至○○地
南至○○地
北至○○地

立買契人○○○
中人○○○
地保○○○
經紀○○○
押○○○
押○○○
押○○○

右ハ賣買兩當事者カ任意作製シタルモノニシテ一般ニ白契
ト稱シ更ニ買受人ハ之ヲ當該地方官署ニ屈出テ所有權移轉
ノ登記ヲ爲シ下附サレタル地券ヲ紅契ト通稱シ其様式左

ノ如シ

奉天財政廳 給發戶管事照得奉省徵收田房稅契定章每 價銀一兩收正稅庫平銀九分歷經照辦有案 今據○○○用價○○○兩 置買○○○在○○○縣內倉項下納糧地一段 共計○○○畝呈驗契據遵章按價完納正稅庫 平銀○○○兩分除將官契粘連原契一紙老 契○紙在騎縫鈐印發還收執外合並填給戶 管以憑管業須至戶管者遵 此地尙在 _{內倉米} 項下○○○名下納糧 現在過割○○○名下遵照劃一田賦章程 按則完納
中華民國 年 月 日 右給業戶○○○收執

第二節 地所家屋抵當借銀ニ

關スル手續慣習

地所家屋ヲ抵當トシテ借銀セントスル場合ハ總テ一様ナラ
スト雖概シテ所有主ハ中人ヲ立テ一切手續ヲ依頼スルモノ
ニシテ所有者、銀主、中人立合ノ上典契(抵當借金證書)
ヲ作製シ此レニ返済期限及利子ノ歩合ヲ記入シ紅契ト共ニ
銀主ニ交附シ契約期限ニ至リ借銀ヲ返済シ紅契ヲ受取リ同
時ニ典契ニハ雙方ニ廢紙ト朱書シ以後效力ナキヲ證據トス
ルモノナリ然レトモ若シ其期限ニ元利返済ヲ終ラサル場合
ニ於テハ此等抵當物ハ一時銀主ノ收管ニ歸シ銀主ハ之ヲ他

人ニ貸貸シ或ハ轉抵當ヲナス事ヲ得可ク而シテ利子ハ所有
者ニ於テ該抵當物カ銀主ノ收管ニ歸屬スルト同時ニ以後之
ヲ支拂フヲ要セス尤モ何時ニテモ借銀元利ヲ返済セハ贖回
自己ノ所有ニ歸シ得ルモノトス

地所家屋抵當借銀證書様式

立典契人○○○今因正用手乏情願將自置_{磚平房一所正房}
幾間東西廂房幾間坐落_{何處}煩人說允典與_{某人}名下租住隨
便典價營市錢若干允其錢筆下交足並無私債折率等情一典
幾年錢到歸贖屋內外一切添修任憑典主自便期滿任其折去
此係兩造情願各無返悔恐口無憑立此爲證

中保人○○○
中證人○○○
代字人○○○
房主○○○
民國 年 月 日 房主○○○立押

第三節 地所家屋賃貸借ニ關スル

手續慣習

第一款 家屋賃貸借

家屋賃借ニ關スル手續慣習ニ大凡左ノ三方法アリ
第一法 官署、商店、住宅ヲ問ハス借家セントスル時ハ租
契又ハ房狀ト稱スル借家證ヲ作製シ借主ニ於テ欲賃ヲ設ケ
關係者ヲ邀請スルヲ通例トシ貸主ト家賃每年若干ヲ定メ交
納期ヲ每年二季或ハ四季トシ貸家期限ヲ定ムルモ其期限內
ニ於テ若シ借主カ造作添修等ヲ施シタルトキハ契約期間滿
了ノ際貸主ノ收用或ハ借主ニ於テ任意折去スル等ノ事項ヲ

同葦塘地
 上等 二百三十元 同 四十餘元
 中等 一百八十九元 同 三十餘元
 下等 一百二十三元 同 十元
 最下等 一百元 同 八元內外
 同葦塘地
 上等 八十餘元 同 十二三元
 次等 五十餘元 同 八九元
 上等 四十餘元 同 十二三元
 次等 二十餘元 同 八元餘
 但租客桶ハ上四百餘元中三百餘元ナリ
 同最下荒地
 上等 二十餘元 同 三元餘
 中等 十元餘 同 二元餘
 下等 八元餘 同 一元餘

第六節 新市街官有宅地建物

貸賃標準價格

一、宅地(一坪當)
 一等地 金三 二等地 金二錢三厘
 三等地 金一錢六厘 四等地 金九 厘
 地代ノ低廉ナルハ新市街ノ繁榮上造營者ノ多キヲ望ムニ起因スルモノナリ
 一、家屋

第五節 家屋賃借價格
 當地ニ於テ一間房子ト稱スルハ丈量ヲ云フニアラスシテ室數ヲ云フモノナリサレハ其大小等シカラスシテ奥行ヲ慮深ト云ヒ約一丈六尺ヨリ二丈ニ至ル間口ヲ間量ト云ヒ八尺ヨリ一丈ニ至ルヲ普通トス而シテ借家料ハ其所在地ノ繁盛ト蕭條トニヨリテ高下アルハ勿論ニシテ家ノ新古構造等ニ依リ又一定シ難キト雖モ大約左ノ如シ
 商店ノ向キ家屋毎々年間ニ付

高大ナル煉瓦造 金四十 錢

煉瓦造平家建 金六十二 錢
 日本式平家建 金二十 錢
 個人持チノ貸家ハ大約一坪壹圓内外ナリ民間ノ家賃特ニ安價ナルハ疊建具類借主持ニテ大修繕ノ外ハ一切貸主ニテ關係セサルカ故ナリ

第十六章 一般勞働者及僕婢ノ賃金並ニ生活狀態

勞働者ノ受クル賃金ノ多寡ハ勞働ノ種別勉不勉仕事ノ巧拙銳鈍ニ依リ差アルハ勿論ナルカ食費ノ自分持ナルト主人持ナルト年月日備及賃金ノ時間拂出來高荷仕舞ノ歩割等千差萬別ニシテ到底一律ヲ以テ計上スルコト能ハサルモノアリ出來高及荷仕舞量ノ歩割等ハ主人側ノ老熟スルニ隨ヒ愈々

益々考慮セラレテ妙案案出セララルノ傾アリ之レ獨リ主人側ノ爲ノミナラス勞働者側ニ取リテモ懶惰役目ノ二時間ノ經過ノミヲ待チ一定ノ賃金ヲ得ルヲ以テ事足レリトスルニアラス致々勉勵ノ結果、隨テ收入増加シテ胸中自然ト歡喜ヲ覺ニ益々競争勉勵ノ意志ヲ養成スルノ良果ヲ得ヘク而シテ勞働者ノ專屬ノ工業又ハ勞業ヲ營ム向キニアリテハ多ク宿舍ヲ與ヘテ出資ノ節減ヲ圖リ或ハ養家錢ト稱シ勞金ノ外ニ之ヲ給シテ安心ヲ與ヘ或ハ娛樂ノ道ヲ講シツ、アル等勞働者待遇上頗ル研究シ居レルノ風アリ近年物價ノ騰貴ハ年々勞金ノ騰貴ヲ示シ居リシカ昨年以來本年ニ至リテ殆ント暴騰トナリ益々上向ノ傾向アリ

第一節 一般勞働者及僕婢ノ賃金

職業別	本邦人	支那人
農作人	年額 上二百五十元 下二百元	月額 洋十元以上二十元 同上等三十元中二十元 同下等十五元
植木職	ナシ	同
漁夫	ナシ	同
染物職	二、衣服ノ身裝ニ關スルモノ 染物職ナシ 洗濯屋 職工月額三十圓以上 總テ上リ高賃ニテ平均スル 上ニモ上ルコトアリ 其技能ハ無論日本人カ上ナルモ却テ勞務強支人ノ方上リ高	月額 十二元以上三十元 主人持 主人持 主人共 主人共
洋服仕立職	多キヲ見ルコトアリ	同

靴職	和服仕立職	理髮職	菓子製造職	料理職	大工	左官	石工	木工	家根職	瓦積職	煉瓦職	船大職	疊刺職	建築具職	指物職	桶師職
ナシ	絹單衣一圓五十錢同拾衣二圓名仙拾 衣一圓三十錢縮細羽織二圓三十錢	散髮六十錢九刈五十錢小 供二十五錢鬚剃三十錢 四十五錢 梳頭十五錢	三、飲食物ニ關スルモノ 月額二十圓以上三十圓 月額上八十九圓中五十圓 日給三圓以上五圓	四、建築ニ關スルモノ 日額四圓	日額四圓	同五圓	同四圓	ナシ	日額四圓五十錢	同四圓五十錢	同五圓	ナシ	日額二圓以上三圓五十錢	ナシ	月額洋四十元	同十七元八角
主人持	主人持	主人持	主人持	主人持	自分持	自分持	自分持	自分持	自分持	自分持	自分持	自分持	自分持	自分持	主人持	主人持

車製造職	馬具職	銚物職	鑄物職	鍛冶職	塗師職	油房備人	活字植字工	湯屋三助	人夫	埠頭ニ於テ勞働スルモノ	人力車夫	馬車夫	馬車夫	馬車夫	船頭、汽船水主	同民船水主	一輪車夫	曳人夫	擔人夫	水擔人夫	飛人夫	豚殺ニ從事スルモノ	牛殺ニ從事スルモノ	
ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	月額七、八十圓宿舍付	同五、六十圓同	ナシ	ナシ	仕事ノ上リ高ニヨル制ニテ其分配率ハ相談後四人分苦力頭二人分カ 多キ時ハ苦力一人四分先一人四分苦力一人分難役〇八三分ニシテ仕事 ナシ	月額洋二十五元以上三十元	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
同十五元以上二十五元	同三十八元以上四十二元	同二十元以上三十元	同二十元以上三十八元	同二十元以上四十元	同上二十一元 中十五元 下十三元	折油工人月額五十元内外 雜工 同十八元九元 月額二十元内外	同上二十六元中二十元下十八元	日給七十仙	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
自分持	自分持	自分持	自分持	自分持	自分持	自分持	自分持	自分持	自分持	自分持	自分持	自分持	自分持	自分持	自分持	自分持	自分持	自分持	自分持	自分持	自分持	自分持	自分持	自分持

家 夫 同十六元以上二十五元
家 婢 ナシ 同十五元
家 月額金十圓位(當地ニ例ナシ) 同十二元以上十元

第二節 勞働者ノ生活狀態

勞働者ハ土着以外ノモノハ每年初春遼河解氷ヲ俟テ芝罘天津等ヨリ續々渡來シ當地ニ留ルアリ或ハ奧地ニ行ク等各自其思ヒ思ヒニ適所ヲ選ヒテ落付キ日夜孜々トシテ勞業ニ從事シ結氷間際迄テ一期トシテ其幾分ノ服業地ニ留マル者ノ外大部分ハ每年十一月初旬即チ結氷前ニ貯ヘ得タル財貨ヲ抱キ郷里ニテ新春ヲ迎ヘントテ歸郷ス其各地ニ留マルモノト雖モ貯ヘタル財貨ヲ歸郷ノ友人ニ託シテ家郷ニ送ルヲ例トセリ從前ハ渡滿勞働者ハ當地ヲ以テ來住發着地ト爲シ居リタルモ歐洲戰ノ結果船脚ノ少キヨリ關係地ヘノ汽船便少ク而モ歸郷ニ際シテハ其便ノ頻繁ナラサルヨリ場合ニ依リ二三泊セサル可カラサルノ不經濟ヲ招ク等ノコトアル等ヨリ多ク大連ニ奪ハレ昔時ノ如ク段盛ナラス

當地ニ於ケル勞働者ノ種類ハ頗ル雜多ニシテ從テ其生活ノ狀態亦同一ナラス其住宅ノ如キハ號ト稱スル煉瓦様ニ乾燥セル土角ヲ以テ疊ミ屋根ハ平面ニシテ土塗トシテ瓦等ヲ用ヒサル至極劣等ノ建築法ニシテ室内大部分ハ土間ニシテ唯凜烈ナル風寒ヲ防カンカ爲メ炕即チ溫度炉ナルモノヲ造リ高梁殻ヲ焚キテ暖ヲ取ル可キ眞ニ簡單ナル構造ニシテ最モ小サキハ間口八尺奥行九尺ニシテ苦力七八人ノ寢臥シ得ヘキモノ一ヶ年借ニ洋票十元位ニテ借用スルヲ得ルナリ

出稼人ニシテ破衣ヲ纏ヒ陋巷ニ雜居シ夏季ハ路傍樹下又ハ空家或ハ軒下物蔭河岸等ニ寢臥平然タルモノニシテ殆ント乞食(要飯)ト識別シ難シ然レ共其努力ノ多大ナル點ニ至リテハ到底上中級勞働者ノ及フ所ニアラス其費用ヲ左ニ掲ケ

Table with columns for clothing (衣服) and food (食費) costs across different seasons (Spring, Summer, Autumn, Winter) and a total (合計). It lists costs for various levels (Upper, Middle, Lower) and includes a note about the difficulty of finding work.

Table with columns for monthly expenses (月費) and daily expenses (日費) for different social classes (Upper, Middle, Lower) and a '備考' (Remarks) section. It includes specific monetary values for each category.

Table titled '雜費' (Miscellaneous Expenses) with columns for '上級' (Upper), '中級' (Middle), '下級' (Lower), and '最下級' (Bottom). It lists expenses for daily necessities, monthly necessities, and annual necessities, with specific values for each level.

第三節 苦力
昔時交通機關ノ未タ開ケサリシ時ニ當リテハ苦力來集ノ經過路モ民船ニ依リテ當地ヲ經由スルカ或ハ天津ヲ經テ陸路滿蒙ニ入ルノ外ナカリシモ現時ハ其經過路多岐ニ互リ芝罘龍口、青島、羊角溝及津浦鐵道等ヲ經過路トシ滿蒙ニ於テ約三十五萬ノ來集ヲ見ルニ至レリ

Table with columns for '年次' (Year), '來苦力' (Influx of laborers), '去苦力' (Outflux of laborers), and '殘苦力' (Remaining laborers). It lists data for the years 1915, 1916, 1917, 1918, 1919, and 1920.

表中結水後關外線ニヨリ天津經由歸省セルモノハ加算セス
今此大正七年度ニ於テ當港ニ來集セル苦力ノ任出地左ノ
如シ

任出地	來苦力	去苦力	殘苦力
上海	二五七二	七四五	一八二七
芝罘	五七〇一	五四九	二二二
龍口	五四八二	三七九五	一六八六
天津	一七二七	九二八	七九九
合計	八〇二一	五三三七	二六八四

而シテ當營口ヲ經由シテ滿蒙ニ分布セラル、苦力ノ狀況ヲ
見ルニ

大正六七年營口驛苦力乘車人員統計

下車驛、年度別	大正六年	大正七年
奉天	七、六二二	五、四五〇
撫順	三、一九七	二、四五〇
鐵嶺	一、〇七〇	七二七
開原	二、三三六	二、四九五
昌圖	二〇三	八五
四平街	六九九	三〇九
公主嶺	四三二	二八四
長春	一九、〇二二	一一、〇八七
合計	三四、五八一	二二、八八七

註 本表ハ四等乘車券搭乗者ヲ含マス

大正六七年東和公司發賣ス乘車券數統計

大正六年 大正七年 備考

右ニ統計ハ營口驛及東和公司ニテ取扱ヒタル營口經由奧地
へ出稼セル苦力數ニシテ此外郵船會社榮興公司源來盛等ノ
取扱數ヲ合シ大約六萬五千人餘ナルヘシ
今此分布ニヨリ長春ヲ基準トシテ之ヲ南北ニ區分比較セハ
左ノ如シ

區分別	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年
公主嶺以南	一八九六	一三六六	一五五九	二八〇〇
長春以北	二五六一	二七六九	一九〇三	二、〇八七
合計	四、五五七	四、一三五	三、四六一	二、八八七

二、輸送狀況

(イ) 天津牛莊間 本線ハ主トシテ日本郵船會社ノ太沽寄
港船及公利號ニ依ルモノナリ

(ロ) 龍口牛莊間(登州府ヲ含ム) 本船ハ旗昌洋行扱第二
十永田九肇興公司扱榮興、生利ノ式隻及源來盛ノ同源號
ニ依リ輸送セラル、モノナリ

三、賃金
日本郵船會社ノ天津牛莊間汽船賃ハ往復共片便墨銀一元
六十仙ナリ榮興及源來盛ハ龍口ヨリ牛莊迄洋三元牛莊ヨ
リ龍口マテ洋三元四十五仙ナリ滿鐵汽車賃ハ本年十二月
二日輸送甲第百四十二號ヲ以テ左ノ如ク改正セラレタリ
奉天 鐵嶺 開原 四平街 公主嶺 長春 撫順
一、五 二、五 二、八〇 三、七〇 四、二〇 四、八〇 二、一〇
茲ニ注意スヘキハ近來苦力勞力ノ缺乏ヲ告グルニ至リシ事

之ナリ今其元因ト目スヘキ二三ヲ擧ケンニ
一、生活程度ノ向上セルコト
二、歐洲戰爭ノ結果是等苦力ヲ遇シテ西歐ニ拉致セシコト
三、滿洲蒙古及西比利亞ノ漸次開發セラレテ奧地ニ苦力ノ
殺到スルコト
四、收益多キ商業ニ轉スルモノ多キコト
五、大都市大工業地ニ労働者ノ需要増加セルコト
六、支那兵募集ノ増加ニ伴ヒ一般労働者ニ動搖ヲ來セルコ
ト

第十七章 物價

穀類	品目	單數	價額	備考
朝鮮白米	一石	六〇〇〇		
支那白米	一石	五四〇〇		
日本白米	一石	ナシ		
支那大豆	一石	三〇五〇		
支那小豆	一石	六〇〇〇		
支那小豆	一石	三七〇〇		
支那小豆	一石	一六〇〇		
高粱	一石	一五〇〇		
包米	一石	一五〇〇		
豆	一石	三六二六		
麥粉	一袋	六〇〇		
鐵嶺粉	一袋	六〇〇		
上海粉	一袋	六二〇		

米	粉	同	價額	備考
乾米	一貫	六〇〇		
乾物	一貫	二〇〇〇		
出シ昆布	一貫	四二〇		
乾鹽魚	一貫	二七〇		
鹽魚	一貫	三三〇		
棒魚(劍先)	一貫	四〇〇		
鰻魚	一貫	一八〇〇		
雜魚	一貫	四〇〇		
經魚	一貫	四〇〇		
烏獸肉	一貫	一七〇〇		
雞肉	一貫	六〇〇		
牛肉	一貫	二四〇		
豚肉	一貫	四〇〇		
雞肉	一貫	三三〇		
醬油	一貫	四〇〇		
滿洲鹽	一貫	三〇〇		日本鹽ナシ
龜甲	一貫	八六〇		
上魚	一貫	八五〇		
漬物	一貫	一五〇〇		
東京澤菴	一貫	七〇〇〇		
奈良漬	一貫	四〇〇		
味噌	一貫	四〇〇		
味噌	一貫	四〇〇		
同	一貫	四〇〇		

海ノ城壁ヲ成シタリト云フ

海城ハ南滿鐵道海城驛ノ東僅ニ數丁前ハ廣漠タル遼河ノ平原ヲ望ミ後ハ高低起伏スル群山ヲ控エタル都城ニシテ城壁十二町四方南北西ノ三大門ヲ有ス戸數二千三百人口一萬四千五百ヲ有ス此中邦人四百四十ヲ算ス

牛莊城ハ海城ヲ西ニ距ル四十清里ノ地點ニ在リ市街ハ東西三清里南北二清里戸數三千人口一萬五千ヲ有ス城壁ハ日清戰爭ノ當時我兵ノ爲メニ破壞セラレ現今唯廢殘ノ城門ニ依リテ往時ノ面影ヲ忍ブノミ

管内住民ノ職業ハ農耕ヲ主要ナルモノトシ住民ノ八割ヲ占メ一割ヲ商人五分ヲ工匠残り五分ハ官吏及無賴ノ徒トス管内居住ノ邦人ハ商工業ニ從事スルモノ多ク約九割ヲ占ム

第二節 管内ノ特長

農産物ヲ出スラ特長ト見ルヲ得ヘシ餘蘆並ニ繭柞蠶繅織造燒鍋(酒造業)製鹽及豆粕ノ製造亦比較的有名ナリ

第三節 衣食住ノ狀態

衣ハ材料染色輸出元等凡テ都鄙共ニ復州蓋平等ト大差ナシ一般ニ用ヒラル、モノハ花其布褶連布又ハ本機布ヲ以テ作リ冬ハ之ニ羊毛ノ裏ヲ附ス彼等ハ衣服ヲ著替ルコト甚稀ナルヲ以テ其不潔ナルコト夥シ肌着ノ如キモ亦殆ント之ヲ更フルコトナク垢穢ノ爲メ處々腐蝕スルニ至ルモ尙平然トシテ之ヲ着クルモノアリ

禮服ニ付テモ其材料ハ綢、緞、綾、羅等ノ貴重品ヲ用フル

一一一

毛袖口襟元等ハ脂肪附着シ之カ爲メ光澤ヲ放ツニ至ルモ彼等ハ恬トシテ介意セサルカ如シ
食物ハ高粱米ヲ主トシ少量ノ粟唐黍子ヲ併用ス但官吏富豪ハ米又ハ麥粉ヲ常食トス高等ナル家庭ハ副食物トシテ肉類ヲ用フル處アレトモ是甚タ稀ニシテ一般ニ野菜類ヲ豚脂ニテ揚ケ之ニ當ツ

今家畜ノ屠殺數ヲ見ルニ一日平均豚約七八頭牛三四頭ナリ而シテ此等家畜ハ皆管内各地方農家ノ兼牧ニ俟ツモノニシテ米ハ遼河々岸ニ産スルモノナリ

家屋ハ土造草葺最モ多ク煉瓦造、瓦葺ハ地方農業地ニ於テハ稀ニ見ル所ナリ但城内ハ皆煉瓦造、瓦葺ニシテ結構亦堅固稍都會ノ風ヲ備フ室内ノ裝置ハ他州縣ト同シク炕ヲ設ケ別ニ寢床ヲ用ユルモノナシ普通家屋ハ多ク天上裏ヲ張ラス窓戶口ノ戸障子ノ如キモ構造甚タ不完全ニシテ防塞ノ點ヨリ見レハ全ク不適當ナル構造ニモ拘ラス零度以下二十度内

外ノ寒氣ニ對シ僅カニ二枚ノ煎餅布圍ヲ用ヒ平然タルモノハ一ニ此ノ炕ノ力ニ依ルモノナリ炕ハ煉瓦ヲ以テ築キタル座敷ニシテ其床下ナル内部ニハ煉瓦ヲ以テ縱橫ニ煙道ヲ劃シ室外ノ煙突ニ續ク裝置アリ而シテ大抵煙道ノ口ハ炊事場ノ釜戸ニ通シ毎日炊事用ノ火氣ヲ炕内ニ導クヲ以テ終日終年炕ニ暖氣ヲ絶タス故ニ特ニ夜間暖ヲ取ルカ爲メ燃料ヲ要スルコト甚タ少ク又別ニ火鉢ヲ用フル必要ヲ見ス

第四節 氣候並ニ衛生

氣候ハ大陸的ニシテ夏季ハ晝夜氣溫ノ差甚タシク爲ニ日中

多ク牛莊マテ水路ニヨリ又ハ營口ヨリ直接鐵道便ニヨルモノ甚タ少量ナリ綢緞、紙類ハ專ラ南滿產ニシテ主トシテ豆雜穀ニシテ燒酒之ニ次ク

第六節 商業及市場

本管内商業地ト稱スヘキハ海城、牛莊城田底台、騰蓋保等ニ過キス

海城ハ右縣衙門所在地ニシテ本管内ノ主都ナレトモ位置東ニ偏シ其商業區域ハ主ニ東方山間ノ諸村落ニ限レルヲ以テ其商品モ自然日用品ヲ重ナルモノトシ其數量亦多カラズ牛莊城ハ東海城ニ四十清里南大石橋ニ六十清里西田庄臺ニ七十五清里ノ地ニアリ遼河岸ニ位シ船着ノ便ヲ存スルト共ニ

北方物産地ヨリ營口ニ通スル馬車道ニ當ルヲ以テ一年中貨物ノ通過スルモノ甚タ多ク特ニ遼河解氷中ハ此地ニテ積卸スル荷物ノ爲市場繁盛ヲ呈ス但シ着船場所ハ當市ヨリ八清里ヲ距ル小神廟ト稱スル地點ニアリテ戸數百五十二過キサル一小村落ナリ碼頭(船着場)ノ設備ノ如キモ只葺ヲ以テ

護岸工事ヲ施シ船貨ノ積卸ヲ便ニシタルニ過キサルモ此邊一帶河水深クシテ大船ヲ横附ケシ得ヘキヲ以テ營口發牛莊卸ノ船貨亦夥シトセサルナリ然レトモ之ヲ要スルニ牛莊城

モ亦商業上大取引場ト云フコトヲ得ス住民ノ八割ハ農民ニシテ二割ハ雜貨商酒造業車店等ヲ營ムニ過キス牛莊城ヲ經過シ馬車ノ最モ頻繁ナルハ十一月ヨリ翌年四月末迄ノ間ニシテ重ニ鐵嶺、奉天、遼陽方面ト營口トノ間ヲ往復スルモノニシテ一日平均三百臺ニ上ルト云フ南行貨物ハ大豆ヲ主

第五節 貿易

海城ハ元來商業地ニアラス是レ管内主要物産タル農作ノ主ナル産地ハ遼西一帶ノ沿岸ニシテ其輸送經路ハ主トシテ遼河本支流ノ水運ニ依リ東方山地ニ近キ海城ニ態々迂回シ集散スルコトナケレハナリ今稅局ノ調ニヨレハ毎年海城ニ輸入セラル、雜穀ハ二萬餘石ニ過キス而シテ是等ハ主トシテ城内ノ食料燒鍋用等ニ費消セラレ更ニ海外ニ向テ再輸出セラル、モノニアラスト云フ

本城ノ主ナル輸入雜貨ハ各州縣ト同シク綿糸、綿布、石油マツチ、麥粉、紙、ランブ、蠟燭、綢緞其他酒釀詰等ノ諸雜貨ナリ

其各數量ヲ確知スル能ハサルモ綿布類ノミニテ二十四萬匹以上ニ達シ石油五千箱麥粉二萬袋等ニシテ此等諸貨物ノ總取引高ハ約二百七十五萬圓内外ナリト云フ而シテ所用麥粉ハ米國産多ク綿布綿糸ハ重ニ印度産ナリトス

此等諸雜貨ノ輸入經路ハ營口ヨリ馬車輸送ニヨルモノ最モ

一一三

トシ高粱之ニ次キ北行貨物ハ綿糸綿布石油等ナリ此等馬車一臺ノ積載量ハ近距離往復ノモノハ千餘斤遠距離ニ互ルモノハ二千五百斤ニ及フモノアリ

田庄臺ハ遼河右岸ニ於ケル本管内唯一ノ都市ニシテ大豆ノ產出高莫大ニシテ管内ノ大豆ハ殆ント皆此地地方ノ產出スル所ナリ田庄臺ニ集ル大豆ハ多クハ民船ニヨリ營口市場ニ輸出セラレ關内外鐵道ノ便ニヨリ山海關ニ至ルモノハ極メテ少量ナリト云フ

第七節 工業及鑛業

本管内工業ノ主ナルモノヲ酒造業トス其大ナルモノ海城ニ三ヶ所牛莊城ニ三ヶ所騰登堡ニ一ヶ所アリ其他小酒造家各所ニ散在シ合計十數軒アリ牛莊滙隆盛號ノ如キ最大ニシテ蒸釜五臺ヲ有シ一日ノ產出額六臺以上ナリト云フ其他大小酒造所平均一日約三百提ヲ釀造ス一提ハ二斤ニシテ凡我四合ナリ而シテ一ヶ年中作業期間ハ正月四日ヨリ十二月二十五六日ニ及フカ故ニ管内酒造總額ハ約一萬石内外價格一萬餘圓ナリ今酒造方法ヲ見ルニ高粱米四斗六升ヲ一釜分トシ之ヨリ燒耐約三斗五升ヲ得ルモノトス一日一釜一回ノ蒸溜トス製造方法ハ先ツ高粱米ヲ釜ニ入レテ煎リ後曰ニテ挽キ

割リ更ニ蒸桶ヲ備ヘタル蒸釜ニ移シテ充分ニ蒸透ス之ヲ終レハ更ニ倉庫内ニ裝置サレタル巾三尺長サ六尺深サ四尺位ノ土炕ニ投入シ上ニ蓋ヲ掩ヒ更ニ泥土ヲ以テ密封シ斯クシテ醱酵ヲ俟ツコト凡十日間ニシテ取出シ再ヒ蒸桶ニ移ス其後蒸溜シテ燒酒ヲ釀造スルコト我國ノモノト同シ高粱酒ノ價格ハ卸賣一石六十圓ニシテ小賣一斗六圓五十錢ナリ高粱米一石ハ時價十五六圓ナリ酒粕ハ別ニ馬豚等ノ飼養料トシテ賣行廣シ

製糸業 東方岫巖界ニ近ク一般ニ產出スル野蠶ヲ原料トシテ東方各村落及海城內ニ於テ製糸工場職工等ト蓋平ノモノト異ナラス一ヶ年總產額ハ重量五百萬斤内外ニシテ此價格凡七十餘萬圓ナリ

機業 滿州ノ織造ニシテ海城內三ヶ所ノ工場アリ野蠶繭ヲ繭ノマ、買入レ蓋平ノ製糸ノ同一方法ニヨリ製糸シ之ヲ機ニ上スモノナリ十一月十二月ノ兩月最盛ニシテ例年凡五千餘疋ヲ產出ス一疋ハ長サ五十三尺巾一尺四寸ニシテ價上等十五圓中等八圓下等六圓内外ナリ販路ハ主ニ奉天以南北滿洲地方ニシテ商況ニヨリ產出額多キ時ハ蓋平市場ニ移シテ南清客ニ販賣ス又虎樟屯ニ在ツテハ上布(木綿巾)ノ織造盛ナリ一疋ハ長二丈八尺幅七寸ニシテ代價八圓内外ナリ一ヶ年總產額六千餘疋ニ上ル

製紙業 城內城數ヶ所ノ製紙場アリ製造方法ハ舊式ニシテ漆土ヲ以テ築キタル四尺平方ノ水溜メノ内ニ材料纖維ヲ入レテ煮沸シ濾紙具ヲ以テ濾留シ乾燥スルモノナリ海城ノ產出紙ハ改連紙ト稱シ壁貼紙ニシテ百九十枚ヲ一疋トシ代價

一圓三十錢内外一ヶ年總產額二萬疋以上トス

油房(荳粕製造業) 城內十ヶ所アリ一日五石内外ノ大豆ヲ消費シ豆粕一箇ヲ製出ス當地ノ豆粕ハ一個二十斤位ノモノニシテ專ラ管内家畜飼養料ニ販賣ス

一個代價四十錢餘ニシテ工場ノ作業ハ三、四、五、六、七、十、十一ノ七ヶ月ニ互リ其餘ノ五ヶ月ハ寒氣ノ爲メ又ハ材料缺乏ノ爲メ休業スルモノトス

鑛業 東方山地ニハ苦土礦及滑石礦ヲ產シ既掘鑛十餘ヶ所アリ耐火煉瓦材料及化粧材料トシ各一噸四圓内外ヲ以テ供給シ販路擴大ノ兆アリ此外ノ白石雲母等ノ石礦東山一帶ニ多シト雖モ未タ精査ヲ遂ケタルモノヲ聞カス從テ未タ大規模ノ採掘ニ着手シタルモノヲ見ス

湯崗子驛東南三十清里白石壠及石家子附近花崗石ヲ產出ス石質滿洲第一ニシテ岩層無盡ナリト云フ附近土木工事ノ石材ハ皆此地ノ供給ヲ仰クモノナリ

溫泉 湯崗子ニアリ南滿鐵道湯崗子驛ヨリ三丁許ノ平地ニ湧出ス溫泉ノ性質ハ無色透明ニシテ微カニ硫黃臭ヲ帶フ反應ハ亞兩加里性ニシテ比重一、〇五ナリ

含有物質次ノ如シ 一、固形分一リットル中約六百ミリ

- 一、鐵物質 微量
- 一、矽 酸 多量
- 一、炭 酸 少量
- 一、硫 酸 多量
- 一、燐 酸 微量
- 一、加留謨 少量
- 一、那篤留謨 少量

溫度攝氏四十度乃至七十度夏冬ニヨリ大差アリ

本溫泉ハ嘗テ唐ノ太宗カ高麗征討ノ際傷者收養所ニ充テシモノニシテ爾來幾百年地方清人唯一ノ湯治場タリシカ日露戰爭當時ヨリ軍隊湯治場トシテ計劃セラレ其後民間ニ移リテヨリ更ニ南滿洲鐵道株式會社ノ經營ニ歸シ若々改良シ滿洲ニ於ケル有數ナル溫泉場トナリシモ大正八年十月火災ニ罹リ全燒ノ厄ニ遭ヒ目下一層大規模ニ新築ノ計劃中ナリ

第八節 農業及牧畜

海城管内耕地十六萬天地(一田地ハ約我二千坪)アリ主要農作物タル高粱ハ一田地上田九石内外中田六石内外下田三石内外ノ產出額ナリ高粱ニ次クモノヲ大豆、粟、包米、稗麥等トス此ノ内豆ハ主トシテ遼西ニ於テ播種サル、モノナリ土地賣買價格ハ上田一田地六百圓内外中田三百圓内外下田二百圓内外ヲ普通トス而シテ小作人ト地主トノ關係ハ復州ノモノト大差ナシ今附近農產物ヲ別記スレハ次ノ如シ

- 青 麻 一斤四十七錢内外 年七萬五千斤產出
- 粉條子(豆蕪蕪)一斤四十七錢内外 年三十五萬斤同
- 粳 米 一石四十八圓内外 年一千三百石同
- 粟 一石二十八圓内外 年六萬七千五百石同
- 蕎 麥 一石十四圓五十錢内外 年三百餘石產出
- 合 豆 一石十五圓内外 年六百餘石同

紅 梁(高粱) 一石十五圓内外 年二十萬石同
 元 米 一石三十圓内外 年六十餘石同
 稗 子 一石三十圓内外 年二千五百石同
 芝 麻 一石三十圓内外 年二百餘石同
 小 麥 一石二十八圓内外 年二萬五千餘石同
 青 豆 一石十八圓内外 年十萬餘石同
 糯 米 一石五十三圓内外 年二百石同
 吉 豆 一石二十七圓内外 年十餘石同
 元 豆 一石三十圓内外 年六千餘石同
 穀 子 一石十七圓内外 年三千餘石同
 小 豆 一石三十七圓五十錢餘 年千餘石同

本管内牧畜ハ盛大ナラスト雖管内使用ノ牛馬驢騾ヲ初メ牛豚ノ類ニ至ルマテ凡テ本管内ニ産出ノモノヲ以テ供給ス本管内農作ニハ牛馬ヲ併用シ稀ニ驢ヲ用ユ
 農耕上ハ牛馬ノ優劣ヲ認メスト雖一般ニ馬車輸送ノ盛大ナル滿洲ノ地ニ在リテハ農事開散ヲ利用シ農家ハ輸送業者ト變シ而モ其ノ輸送ハ一年中收入ノ大部分ヲ占ムルカ故ニ其ノ賣買價格並ニ飼養ノ費用大ナルニモ拘ハラズ馬ハ一般ニ飼養サル其賣買價格ハ上等百餘圓劣等二三十圓牛ハ上等四五十圓下等二十圓内外ナリ驢子ト稱スルニハ馬牝驢牡ノ雜種ニシテ力強ク最モ挽車ニ適ス最良ナルモノハ二百圓以上ナリ驢ハ重ニ近距離ノ交通運搬ノ爲ニ使用セラレ上等二十四五圓ニ過キス
 此等ノ賣買ハ七八兩月ヲ以テ最盛期トス城内牛馬市ニ於テ取引キヲナシ賣買當事者共ニ牛馬經紀(我馬喰)ニ依トス

ルモノナリ經紀ノ牛數料ハ一回二圓ヨリ五圓位迄トス而シテ賣買毎ニ牛馬稅ト稱シ賣買格ノ百分ノ六ヲ官收トス而シテ驢ハ一回二圓豚羊ハ一回六十錢ノ稅ヲ課セラレ此等諸家畜一ヶ年ノ總取引高ハ八萬圓内外ナリ本管内ニハ牧場ナシト雖モ各農家ハ三四頭ノ牛馬五六頭ノ豚羊ヲ飼養シ夫々繁殖ノ途ヲ講シテ、アリ牛馬驢ノ交尾ハ三四月ノ候ヲ以テ最好期トス皆媒助交尾ニヨル山羊、綿羊ハ春秋二期ニ交尾セシメ平日ハ父羊母羊ノ群ヲ別々ニ放養スルモノトス豚ハ春秋二期ノ自由交尾ニ任ス而シテ受胎ノ割合ハ牛十分ノ三馬十分ノ五豚十分ノ七山羊十分ノ九ノ割合ニシテ孕胎數ハ牛馬驢ハ一回一頭羊ハ三四頭豚ハ八九頭乃至十二三頭ヲ産ス今家畜上產物ヲ列記スレハ左ノ如シ

牛 毛 線 一斤四十五錢 年產額一萬斤
 牛 皮 一斤四十五錢 同 五百六十斤
 猪(豚ノ肩毛)一斤八十二錢許 同 一萬八千斤
 羊 毛 春毛一斤四十錢餘 同 四千斤
 羊 毛 秋毛一斤五十錢餘 同 四千斤
 羊 絨 一斤五十錢 同 四千斤
 牛皮膠 一斤五十錢 同 三千五百斤

第九節 水産業並ニ獵業

本管内水産業並ニ獵業共ニ特記スヘキモノナシ

第十節 金融並ニ度量衡

海城管内ニハ他州縣ノ如ク通貨ノ性質(商業手形)ノ流通ヲ見ス重ニ日用使用スルモノハ小銀貨及ヒ一錢銅貨ニシテ一

錢銅貨ニシテ一厘錢甚稀ナリ小銀貨十錢ハ一錢銅貨十二個ニ相當シ一厘錢六十文ヲ一吊ト稱ス小銀貨一圓ハ七吊ニ換算ス近來大清銀行札亦漸ク市場ニ流通スルニ至レリ爲替關係ハ蓋平城ノモノト同一ニシテ取引ハ皆問屋制度ニヨルカ故ニ金錢ノ送附ハ自然問屋間ノ事業トナリ問屋ハ各所ニ支店又ハ取引店ヲ有スルヲ以テ爲替事務ハ圓滑ニ運ハレツ、アリ
 度量衡ニ付テ特記スヘキモノナシ今貨幣タル銀ニ對スル秤衡ヲ略說スレハ之ヲ分ツテ二種トス槓秤天秤是也一ヲ戥子ト稱シ他ヲ天秤ト云フ其ノ數ヘ方ハ十進法ニシテ忽微絲毫釐分錢兩ノ順序ヲ以テ呼稱スルモノトス

第十一節 交通及通信

本管内ハ西ニ遼河ノ大流アリ大汽船ノ上下航行ニハ適セスト雖モ小蒸汽船民船ノ類ハ自由ニ相往來シ特ニ民船ノ如キハ遠ク鐵嶺、昌圖ニ至リ沿岸一帶ノ物資運搬ニ便アリ東ニ南滿鐵道線アリ營口、大連ニ直通シ遼西ニハ京奉鐵道支線アリ關内外ノ交通自由ナリ此ノ如ク大體ノ交通完全ナル上ニ馬車道ハ所在縱横ニシテ土地一般ニ平坦ナルカ爲メ陸上運搬モ亦甚盛ナリ馬車道ノ重ナルモノハ營口ヨリ起リ石橋子ヲ經テ牛莊城ニ出テ之ヨリ騰蛟堡ヲ經テ遼陽界ニ入ルモノト一方海城ニ出テ更ニ湯崗子ヲ經テ遼陽ニ入ルモノアリ遼西ニハ田庄臺ヲ起點トシ一方河岸ニ沿フテ下口子ニ至ル一方家堂子後崗ヲ經テ遼中縣ニ入ルモノアリ皆平坦路ニシテ交通自由ナリ
 郵便ハ海城ヲ中心トシテ管内騰蛟堡、田庄臺、牛莊城、虎

嶺屯、西木城各所トノ間一日一回ノ往復アリ皆特使ヲ派シテ運送セシムルモノナリ
 電線ハ一方營口ニ直通スルモノト一方岫巖ニ至ルモノトノ二線アルノミニシテ奉天北京等ヘハ直接打電ハ不能ナリ貨物集散ノ經路ハ水陸共ニ其交通路ト同様ナリ
 此等ノ交通上ニ在ツテハ北方滿洲ニ於ケル如ク馬賊ノ危害少シト雖モ遼河輸送ニ在ツテハ屢々賊船ノ春掠ヲ蒙ルルコトアルカ故ニ夜間ハ航行ヲ中止シ數十ノ民船一ヶ所共同碇船シテ其ノ襲來ニ備フ遼河河防隊ナルモノアリテ奉天將軍ノ命ヲ奉シ河流所々ヲ遊弋シテ商船保護ニ任スルノ制アリト雖モ其實際ハ有名無實タルノ狀態ナリ

第十二節 居留地(鐵道附屬地ノ章參照)

管内外國人ノ居留地ナルモノナシ唯鐵道沿線一帶ニ互リ各驛相當ノ反歩ヲ有スル鐵道附屬地アリ管内ノ附屬地總計二百十四町凡反餘ノ面積ヲ有シ人口三百餘ヲ有ス附屬地内一切ノ行政ハ我官憲ヨリ處理セラレ交通衛生其他諸種ノ設備漸ク完全スルニ至レリ

第十三節 公私上ノ施設

海城縣行政公署 在海城
 海城縣清鄉局 在海城
 海城保甲團 在海城
 海城警察事務署 在海城
 警察事務署ハ六ヶノ分署ヲ有シ管内各所ニ分駐シ保安衛生

等一切ノ警察事務ヲ掌リ城內百二十八名ノ巡兵アリ他五ヶ所共計七百七十名許ナリ本管内警察事務ハ稍備ハレリト雖戸口調査ノ如キ殆ト皆無ニシテ從ツテ生死ニ關スル事項等一切無頓着ニシテ署ノ内一名ノ警官アリト雖死人ノ検査ノ如キ警官ハ全ク關知セス警官ハ單ニ惡疫流行ニ際シ検査ニ從事スルニ過キス

習藝所 四人ニ職業ヲ授クル所ニシテ科目ニ靴工、帽工、衣工、彫刻工、織布工、袋物工、木工、鐵工、染布工等アリ其組織經營等蓋平ノモノト異ルコトナシ一ヶ年間ノ總賣上高約三千五百圓内外ナリト云フ

織布ノ如キハ諸種新式ノ機械ヲ用ヒ上布ノ改良ヲ計リツ、アリ雲齋織等近來大ニ面目ヲ一新シタリト云フ

牛莊防守尉分司 在牛莊

鹽捐補徵局 在田庄臺

商務分會(商業會議所) 商業上唯一ノ公共機關タルコト他州縣ト異ルコトナク其事務ノ如キ亦同様ナリ本分會ハ現ニ事業稍見ルヘキモノアリ特ニ管内ノ諸物産ノ見本陳列場アリ一整理シテ考查ニ便ニス但借ムラクハ陳列品ニ附記サレタル價格ハ二三年前ノモノニシテ現時トハ殆ント五割以上ノ高價ナルニモ拘ラス彼等ト恬トシテ其改正ヲ施サ、ルニアリ

稅捐總局 在海城

輸入貨物ニ對シテハ原價百分ノ二輸出貨物ハ原價百分ノ一五雜穀ニ對シテハ出入共ニ百分ノ一ヲ徵收シ其總額一ヶ年凡五萬餘兩ナリ牛馬稅ノ徵收モ亦本局ノ管理ニシテ牛、馬

驟ハ賣買價格ノ百分ノ五驢ハ一頭二圓豚羊ハ一頭五十錢ヲ徵シ其總計一ヶ年五千餘圓ニ上ルト云フ

屠殺場

海城ニ二個所アリ一ハ東關ニアリ專ラ牛ノ屠殺ニ用ユ他ノ一ハ城外西南隅ニアリ宰豚ニ用ユ凡ソ同々教民ハ豚ヲ忌ムカ故ニ海城ノ如ク同民多キ土地ニアリテハ別ニ宰牛場ヲ建テサルヲ得サルモノナリ屠殺料豚一頭五十錢牛ハ二圓羊八十錢ナリトス獸肉ノ検査ハ衛生局警官ノ司ル所ナリ

山東會館 城內ニアリ起原ハ在住山東人ノ會合所タリシカ現今ハ一般ニ海外官紳ノ俱樂部ノ如クニ利用サレ諸種ノ會所ニ充テラル嘗テ自治制度討議ノ爲メ管内八百三十四屯ノ各村長ヲ召集シタル際ノ如キモ皆此會館ニ於テ會議ヲ開キタルモノナリ

師範學堂	一ヶ所	生徒二百名
復習小學堂	一ヶ所	同 二百五十名
兩等學堂	一ヶ所	同 一百名
女學堂	一ヶ所	同 二百二十名
警務學堂	一ヶ所	同 四十名
中育學堂(三育學堂改稱)	一ヶ所	同 百六十名

第十四節 土地家屋ノ賣買並ニ

賃借價格

土地賣買價格ハ通常一天地(一弓ハ五尺四方ニシテ千四百四十弓ヲ一天地トス)百五十圓乃至五百圓

木綿 織	一反	五、〇〇〇
白木綿	一反	三、〇〇〇

第十七節 邦人ノ着眼スヘキ事業

借家賃ハ一定セサルモ煉瓦造平屋坪當リ支那建一ヶ年三十圓日本建一ヶ年五六十圓位トス

第十五節 勞働者並ニ僕婢ノ賃銀

大工一日日本人二圓以上支那人八十錢乃至一圓左官一日日本人二圓支那人七十錢若力一日五十錢乃至八十錢僕一ヶ月日本人十五圓内外支那人五六圓婢一ヶ月日本人十圓支那人四圓位トス

第十六節 物價(大正八年七月調)

品目	數量	價格
米	三斗俵	一四、〇〇〇
醬油	一升	七、〇〇〇
砂糖	一斤	三五〇
牛肉	一斤	三五〇
鹽	一升	一六〇
炭	一噸	一七、〇〇〇
粉	一袋	一、二〇〇
味噌	一斗	四、五〇〇
清酒	一斗	一、〇〇〇
雞肉	一斤	一、三〇〇
炭	一斤	四、〇〇〇
木	一筋	四、〇〇〇
手	一個	二、〇〇〇
石	一個	二、〇〇〇

本管内ニ於テハ商業上ノ大發展ハ企圖スヘカラサルモノアリ蓋シ僅ニ管内丈ケノ取引ニ止マリ然モ管内ハ一般ニ農本位ニシテ生活程度甚タ低キカ故ナリ

然レトモ農業ニ至ツテハ益盛大ニ向フノ勢アリ管内過半ハ遼河流域肥沃ノ土地ニシテ現ニ耕作セラレツアルモノ以外濕潤ノ爲荒廢ニ歸シタルモノ甚廣ク此等ノ土地モ更ニ排水溝ヲ穿テ田地改良ノ法ヲ講スレハ忽ニシテ數多ノ良田ヲ得ヘキ見込アリ此ノ如クニシテ農產物ハ本管内ノ特長トナリ之ヲ利用スル事業亦自然ニ隆盛ニ趣クノ傾向アリ酒造業ノ如キ是ナリ

本管内ニアリテハ吾人ノ最モ着目スヘキハ田庄臺ニ於ケル豆粕ノ製造業ナリ遼西ノ土地ハ特ニ種豆ニ適シ田地ヲ過半ハ皆大豆ヲ植付タルモノニシテ其產額噸年巨額ニ上ルコトハ前述ノ如シ從來ハ之ヲ民船ニ積ミ營口市場ニ運ンテ豆粕ヲ製造シタルモノナリ然ルニ之等田庄臺ニ於テ製造スルトキハ直ニ民船ヲ以テ各港ニ輸出シ得ラル、ノミナラス豆油ノ重ナル需用地北清地方ニハ京奉線ニヨルノ便アリ田庄臺ハ大汽船出入シ能ハサルヲ以テ外國向ノ豆粕ハ一度營口マテ輸送シ更ニ本船ニ積ミ換ユルノ手段ヲ要スレトモ之ヲ大豆ノママ營口ニ輸送シ營口ニ於テ製造シ更ニ汽船ニ積ムモノニ比スレハ手數甚タ僅少ナリト云フヘシ此外東方山地ニ

産出スル苦土石ト將來有望ヲ以テ目セラレ

第二章 蓋平縣

第一節 地勢面積人口及職業ノ大要

蓋平縣ハ二臺子、三道溝ヨリ駱駝川ヲ經テ頭道溝ニ至ル一線ヲ以テ南復州界ニ接シ北ハ牛家屯ヨリ大石橋ヲ經テ湯地盤山及接官屯ニ至ル一線ニヨリテ海城縣ニ接シ東ハ岫巖廳ニシテ西一面遼東灣ニ瀕ス東西六十清里南北二百四十清里田地七十五萬三千四百二十二畝歩縣内戸數七萬三千六百八十七戸人口四十四萬〇〇二人（鐵道附屬地内住民及ヒ營口廳内各外國人ヲ除ク）ヲ有ス

地勢ハ東嶺州界ニ近ク東山脈ノ起伏アリ爲ニ管内東方過半部ハ山岳丘陵相錯雜シ土地高燥荒蕪ニシテ耕作ニ適セス西スルニ從テ漸ク平坦トナリ地味亦稍肥沃ニシテ鐵道線以西海岸ニ至ルマテ二里餘ノ間ハ最モ農耕ニ適ス管内二川アリ南ナルヲ熊岳川ト稱シ南界忠順區ノ山中ニ發シ鮑區ヲ經テ熊岳城直下ヲ流レ海ニ注ク北ナルヲ蓋平川トス水源ニアリ一ハ北界盤山ニ發シ他ノ一ハ東界虎山ニ發シ高家屯ニ至ツテ合流シ石佛、忠義兩區ヲ經テ蓋平城直下ヲ流レ海ニ注ク熊岳川ハ舟楫ノ便ナシ蓋平川ハ昔時水深ク舟楫ノ便アリシモ二十三年前ヨリ漸次水深ヲ減シ目下二十三十積ノ舟ト雖上下スルコト能ハス唯一ヶ年兩三四ノ洪水ニ際シ上下スルヲ見ルノミ本管内東部及南部ハ山岳地ナレトモ鐵道沿線一

二二〇

帶海岸地ハ近世ニ成レル沖積層ニシテ土地一般ニ肥沃ナリ管内沿海岸一里許リノ間ハ近代マテハ海底ナリシモノニシテ蓋平河口ノ如キ今尙ホ唐時代ニ於ケル海蘭島ノ跡歴然トシテ存スルモノアリ

本管内ヲ行政上四區ニ分チ蓋平直轄熊岳城萬福庄及湯地ノ四管轄トス而シテ之カ各區域内ノ戸數人口ヲ見ルニ蓋平一萬六千六百七十七戸人口九萬二千三百七十五人熊岳城二萬一千五百二十八戸人口十二萬二千七百五十一人萬福庄一萬二千六百六十七戸人口七萬一千五百三十九人湯地二萬三千八百二十四戸人口十五萬三千四百四十八人ヲ算ス

蓋平驛ハ大連ヲ距ル百三十一哩八分ニ在リ明治三十五年東清鐵道南部支線ノ一驛トシテ建設セラレ一般營業ノ開始ヲ見シカ同三十七年日露戰役ノ勃發ト共ニ一時休止セラレシモ我野戰提理部ハ同三十八年十月二十一日再ヒ旅客貨物ノ取扱ヲ開始シ越テ同四十年四月南滿州鐵道株式會社ノ所管ニ移レリ

蓋平鐵道附屬地當附屬地ハ總面積百萬九千二百一十一坪ニシテ各用地區分ハ左ノ如シ

總面積	一、〇〇九、二一一、〇〇〇
鐵道用地	五四、四六〇、八三三
陸軍用地	二一、三五九、〇〇〇
民政部用地	二、二四六、三〇〇
學校用地	四、六八二、〇〇〇
墓地	五四六、〇〇〇
住宅用地	六、一六〇、〇〇〇

雜地 一〇〇、〇〇〇、〇〇〇

宅地 二、一〇五、二〇二

耕地 五五三、七七一、七七七

其他 二六三、九三九、八九八

當附屬地ハ沿線中屈指ノ廣潤ナル面積ヲ有スレトモ商工業共ニ振ハス居住者ノ増減殆ト見ルヘキモノナシ今大正四年以降ニ於ケル戸口數ヲ示セハ左ノ如シ

蓋平附屬地戸數及人口年度別表

年次	戸數	人口數
	日本人	支那人
大正四年三月末	三、一六二	一〇〇、八五八
大正五年三月末	三、二〇六	一〇八、一三六
大正六年三月末	三、二〇一	一〇八、一三六
大正七年三月末	四、〇一三	一〇八、一三六
大正八年三月末	四、二六九	一一五、二五五

蓋平城ハ蓋平停車場ノ東方三十五町蓋平河右岸ニ在リ城壁二清里四方戸數二千六百八十七戸人口一萬三千七百九十九人ヲ有ス

熊岳城ハ同シク停車場ヲ去ル西十町熊岳川ノ右岸ニアリ城壁六町四方戸數一千九十戸人口五千六百十八人ヲ有ス

管内重ナル職業ハ農業ニシテ住民ノ九割ヲ占ム蠶業盛ナレトモ皆農家ノ兼業トス此外豆粕蠶絲海鹽等ノ製業業アレトモ農家或ハ商賈ノ兼業ニ屬ス

第二節 管内ノ特長

管内ノ特長ハ一般農産物ノ外東南各地方ニ於ケル野蠶ノ飼養沿岸一體ニ於ケル製鹽熊岳城ノ果實等ナリ又蠶業ハ未タ盛大ナラスト雖モ管内到處蠶脈ニ富ミ金銀ノ如キ亦少カラヌ一朝開掘ヲ行フニ至ラハ其特長ノ一ニ數ヘラルヘキナリ

第三節 衣食住ノ狀態

衣類ハ他州縣ト異ナル所ヲ見ス一年中藍又ハ淺黃染ノ木綿布ヲ普通着トナシ夏ハ稀ニ白布ヲ用ユルモノアリ但富豪ノ者ニ至テハ冬ハ綢緞類ノ紋物ニシテ色合ヒハ壯年者ハ紫オリイブ等多ク老年者ト全ク黒ヲ用ユ裏地ハ貧富共ニ毛皮ヲ以テ覆ヒ下等ナルモノハ羊毛上等ナルハ狐狸皮ヲ用ヒ稀ニ太官大富豪等ハ貂、獺等ノ皮ヲ附スモノアリ夏季富者ハ綾羅ヲ用ヒ色台ハ白及紫ヲ多シトス富豪ノ子女ハ甚タ華美ニシテ桃色地、紅地紫地等ノ絹布ヲ用ヒ頭飾ハ富者ニ在テハ金銀製ノモノヲ用ヒ普通人ニ在テハ銅ヲ以テ細工シタル簪弁ヲ用ユ腕輪ハ一般ニ流行シ普通人ハ銀ニテ貴婦人ハ黃金ヲ以テ作レルモノニシテ此等粧飾品ハ當地産ヲ以テ多シトス近來稀ニ舶來ノ花簪ヲ着ケタルモノヲ見ル綿布ハ重ニ輸入品ニシテ塔連布花旗布ト稱スルモノナリ即チ我天竺木綿及金巾ノ類ニ相等ス外ニ土布ト稱シ地方婦人ノ手ニヨリ織造セラレタル布アリ舊來彼等ハ我舊式機ト同様ナル不完全ナル機ヲ用キ來リシカ近年我高機ヲ輸入シ其使用漸ク擴張サレツツアリ輸入布ハ皆白色ナルカ故ニ全地染坊（染屋）ニ依頼シ適宜ニ染色シ土布ハ染糸ヲ以テ織造ス土布ノ原料

二二一

第四節 氣候並衛生

氣候ハ概シテ平順ニシテ滿州一體ヨリ見ル時ハ事口温和ナリト云フ可シ嚴寒ノ候偶々夜間室外ニ在テ零下二十度ヲ下ルコトアレトモ此ノ如キコトハ甚タ稀有ニ屬ス盛夏ノ候稀ニ直射四十度以上ニ昇ルコトアルモ常ニ海風ノ調和ヲ受クルヲ以テ甚タシキ苦痛ヲ覺ヘス夜間暑熱ノ爲メ眼ノ事能ハサル程ノ事ナシ暴風旋風亦少シ雨季ハ七八月ノ候ニシテ雨量稍々大ナリ

衛生事務ハ巡警局ノ兼掌ニシテ未タ衛生局ノ分立ナク一般ニ衛生思想ハ幼稚ナリ唯本管内ハ管口市場ニ接近スルヲ以テ屢々惡疫ノ流行ヲ蒙リ最近十數年間ハ毎年虎疫及ペスト等ノ流行盛ニシテ熊岳城附近ノ一村ノ如キハ嘗テ殆ント全滅ニ歸シタルノ慘事アリ是ヲ以テ地方官ハ銳意衛生ノ事務ニ務メ衛生局ヲ新設シ醫師ヲ聘シ病院ヲ設ケ以テ衛生施設ノ完全ヲ計ルニ至レリ

排水溝ノ如キモ築造後幾霜廢頽シテ殆ント其用ニ堪ヘサリシモ今ヤ着々其修繕ニ從ヒツツアルモノノ如シ

第五節 貿易

輸出品トシテ豆粕雜穀蠶絲絹綉食鹽等アリ輸入品トシテハ他州縣ト同シク綿布、綿絲、石油、機寸、麥粉、煙草、砂糖其他酒類、鐘錶類ノ日用諸雜貨アリト雖モ此等ハ皆一度大連又ハ管口ノ大商人ノ手ヲ經テ取引スルニ過キスシテ外國人ト直接取引スルモノナシ

ハ二種アリ一ハ各家庭ニ在テ内地產線花ヨリ糸ヲ紡キ機ニ上スモノニシテ他ノ一ハ洋線(外國產紡績絲)ヲ用ユルモノナリ此洋線ノ輸入ハ甚タ巨額ニシテ洋布ノ輸入額ト相匹敵スト云フ此等洋布洋線ハ皆管口ヲ經テ日本及上海ヨリ輸入シ綢緞綾羅ハ皆南清產ニシテ上海ヨリ管口ヲ經テ輸入スルモノナリ

食物ハ高粱ヲ主ナルモノトシ包米之ニ次ク粟ハ復州ニ於ケル如ク多用セラレズ副食物ハ專ラ野菜ニシテ豆腐粉條(豆蕪)ヲ混用ス地方農家ニ在リテハ平日魚肉獸肉ヲ用ユルコト殆ント稀ナリ但城内及各市場ニ在リテハ一般ニ贅澤ニシテ米白麵(麥粉)ヲ常食トシ肉類ヲ副食物トナスモノ少カラス蓋平縣内ニ於テ平均一ヶ月豚百五頭羊百二十頭牛六頭驢八頭ヲ屠殺スト云フ

熊岳城ニ在テハ牛ノ屠殺數一ヶ年約百頭豚六百頭ナリト云フ而シテ此等ノ牛馬豚羊ハ皆本管内產ニシテ東南山地ニハ此等ノ放養稍々盛ニシテ一家ニシテ五六十頭ノ豚羊ヲ放養スルモノ少シトセス

住宅ハ重ニ土造ニシテ壁ハ土煉瓦(燒カサルモノ)ヲ多用ヒ稀ニ石造煉瓦造ノモノアリ屋根ハ草葺ニシテ瓦葺ハ甚タ少數ナリ城内ニ在テハ蓋平熊岳城共ニ煉瓦造瓦葺ニシテ體面稍々整ヘリ此等建築材料ノ内木材ハ東山地方產出ノ柳楊樹多ク又鴨綠江松ヲ用ユルモノアリト雖モ高價ナルヲ以テ其使用多カラス煉瓦ハ熊岳城大石橋地方ニ產シ土煉瓦ハ到ル處ニ於テ用途ニ從ヒ農家ノ手造リスル所ナリ

大工左官ノ工賃ハ大概一日二圓内外トス

稅捐總局ノ調査ニヨレハ所管内各市場一ヶ年輸出入稅總額(蠶絲稅鹽稅ヲ除ク)九萬八千餘圓内外ナリト云フ此内二萬一千圓ハ牛馬稅ニ屬スルカ故ニ貨物ニ對スル輸出稅ハ五萬二千圓輸入稅二萬五千圓ナリ

蠶絲ノ重ナル集散地ハ蓋平城ナリ毎年平均約一萬七千俵ヲ取引ス代價一俵平均二百圓ナリトスル時ハ合計五百萬圓ノ總取引アリ但シ此ニ注意ス可キハ此ノ一萬七千俵ハ蓋平縣下ノミヨリ產出スルモノニアラサルコトナリ元來蠶絲ハ蓋平縣以外岫巖ハ其重ナル產地ニシテ海城一部復州一部モ亦之ヲ產出ス其ノ總產額合計約三萬俵ニ垂ントス內安東縣ニ出スモノ近年漸ク多キヲ加ヘ全產額ノ四割ヲ占ムルニ至レリ此ヲ以テ蓋平集散ノ一萬七千俵中尙ホ幾分ノ他縣產アリト見ルモ蓋平縣ニシテ一萬俵ヲ產出スルコトハ疑フ可カラサル所ナリトス

鹽ハ沿岸一帶ニ產出シ總額約三十萬石皆馬車輸送又ハ民船ニヨリ管口ヲ經テ過半ハ北方滿洲ニ販賣セラレ一部ハ浦鹽ニ再輸出セララルモノナリ蓋平驛ヨリ滿洲一帶ニ輸出セラルル額ハ一ヶ年平均九萬八千五百餘價格三百九十四萬圓内外ナリトス

第六節 商業並市場

蓋平縣下重ナル取引地ハ蓋平城、熊岳城、大石橋二道溝等ナリ蓋平城ハ蠶絲ノ重大市場ナリ毎年約五百萬圓内外ノ取引ヲ爲ス野蠶ハ春秋二期ニ飼養スレトモ春蠶ハ多ク秋蠶ノ種取リニ過キス市場ノ蠶絲ハ重ニ秋蠶ニヨルモノナリ取引期

ハ九月上旬ヨリ翌春三月迄トス今蠶絲取引ノ習慣ヲ概説スレハ先ツ買出商人ハ蓋平ノ賣込問屋ニ交渉シテ幾分ノ蠶絲代金ヲ借越シ之ヲ各產出地ノ各養蠶家ニ就キテ手附金ヲ入レ置キ爾ノ出來ルヲ待テ之ヲ集メ附近製絲場ニ運搬ス製絲場ハ各村ヲ通シ大概一二ヶ所宛アリ各買出人ノ求メニシテ應テ製絲ニ從事ス爾ノ賣買價格ハ年作ノ豐凶ト銀價ノ高低トニ依リ一定セスト雖モ逐年潮ク騰貴目下一價邦貨三厘三毛内外トナレリ製絲シタルモノハ馬車又ハ單ニ馬ニヨリテ既約ノ賣込問屋ニ運フ賣込問屋ハ其ノ絲ニ對シ大概ノ代價ヲ標準トシテ先ツ手形ヲ發行シ絲ノ賣行クニ從テ現金ト引換フルモノナリ單手ハ多ク上海、芝罘ノ商人ニシテ季節ニ至リ蓋平ニ來リ買込問屋ニ依託シテ其ノ手ヲ經テ買ヒ入ルモノトス買込問屋ハ各人ノ求メニ應シ賣込問屋ニ交渉シテ買ヒ込ミ代辦ス問屋ノ手數料ハ賣込問屋ト賣手ヨリ賣價ノ百分ノ二ヲ收メ買込問屋ハ價格ノ百分ノ二及千分ノ二ノ香資料ヲ收ムルモノトス而シテ絲ニハ大框小框ノ二種リテ各種共ニ四等ニ分ル其ノ賣買價格ハ大約次ノ如シ

小框モノ一包 一等銀五百六十兩 二等銀五百二十兩
 三等銀四百八十兩 四等銀四百四十兩
 大框モノ一包 一等銀四百兩 二等銀三百六十兩
 三等銀三百三十兩 四等銀二百八十兩

而シテ一包(百〇五斤)ノ蠶金稅ハ銀相場ノ高低ニヨリ一定セスト雖モ目下四圓四圓五十七錢内外ナリト云フ此等蠶絲ノ輸出先ハ芝罘上海山東日本及河南地方ニシテ其額一ヶ年八千包ニ上ル芝罘ニ在リテハ之ヲ絹綉ニ製織シテ重ニ歐洲

ニ向ケ上海ニ向フモノハ絲ノママ歐洲ニ輸出セラル蓋平ヨ
リノ經路ハ開河中ハ營口ニ出シ結水中ハ大連ニ向フ從前ハ
大連上海間ノ直航路ナカリシタメ一度芝罘ニ輸出シ更ニ上
海ニ廻送サレタルモ近來ハ直航路ニヨリ上海ニ至ル便アル
ニヨリ例年ニ比シ大連經由ノモノ多キヲ加フルニ至レリ蓋
平城内ノ賣買兩間屋ハ元ト合計二十六戸ニシテ光緒三十四
年來商況不振ノ爲メ破産シタルモノ三軒尙ホ引續キ破産セ
ントスルモノナリ其ノ重ナル原因ハ蓋平票子ト小銀貨トノ
産額多大ニ失シタルト一時營口過爐銀ノ下落トニ因リシモ
今ヤ商況挽回ノ爲メ間屋數モ五十戸ヲ算シ取引隆盛ナリ
柞蠶當縣下ハ養蠶業最モ盛ニシテ蓋平市ニ輸入セラルル蠶
ハ三萬乃至四萬籠ニシテ輸出セラルルモノハ此中僅ニ二千
籠ニ過キス其他ハ全部柞房(製絲場)ニテ製絲セラル柞房ハ
目下二十二軒アリ一年間約二十萬斤乃至三十萬斤(價格銀
二百萬圓乃至三百萬圓)ヲ製出ス而シテ絲房(絲問屋)九軒
アリテ一年間三千箱子(二十萬斤)乃至五千箱子ヲ取引ヲ爲
セシ其他ハ外客ニヨリテ上海又ハ山東方面ニ直接輸出セラ
ル此地ニ於テ柞蠶絲トシテ取引セラルル價格ハ一年間六百
萬圓乃至一千萬圓ヲ下ラス
絹軸元來蓋平ハ滿洲唯一ノ絹軸生産場ナリシモ近來安東ヨ
リ輸出セラルルニ至リ稍衰ヘタルモノ今尙十五ヶ所ノ工場
アリ一年間一萬三千餘匹ノ生産アリカ之カ取引約十六萬三
千圓ニシテ銷路ハ奉天以北ナリトス
雜穀此地一帶地味肥沃ニシテ粟包米等ノ耕作ニ適シ其ノ品
質良好ナリ當市場ニテ取引セラルルハ粟三萬石其ノ價格銀

七十五萬圓包米二萬石其ノ價格銀二十六萬圓ト見テ大差ナ
カルヘシ
鹽蓋鹽ト稱シ營口蓋平縣一帶ノ沿岸ニ於テ製セラレ一ヶ
年ノ生産高約四十萬石ニ及フ而シテ皆半官營式ナルヲ以テ
製鹽業者一ヶ年ノ收入總額小洋五十萬圓内外ニ過キスト云
フ
野菜蓋平野菜ハ品質良好ニシテ逐年産額ヲ増大シ葱、茄子、
胡瓜、白菜等ノ栽培盛ナリ大正七年輸出高四百二十萬斤ニ
シテ價格約十三萬圓ニ及フ
油房當地粟包米耕作盛ニシテ大豆ノ耕作甚タ稀ナリ從テ油
房業振ハス城内僅ニ四軒ノ油房アルノミ豆粕ノ如キハ附近
ノ需要ヲモ滿ス能ハス他地方ヨリ毎年約五萬枚ノ移入アリ
藥房當地ニハ藥用ニ供スヘキ木皮草根多ク毎年冬期ニ至
レハ市場ニ搬出シ藥房ノ手ヲ經テ營口及奉天方面ニ輸出セ
ラレ總取引銀二十萬圓内外ニシテ取扱店咸春堂、金城堂、
天一堂等其ノ重ナルモノトス
燒酒(高粱酒)モ蓋平市場ニ有名ナルモノナリ一ヶ年取引
高九萬斤價格八百餘圓ニ上ル製産元ハ遼陽、海城管内ノ
燒鍋ニシテ販路ハ蓋平管内ハ勿論遠クハ復州金州方面マテ
ニ及フモノニシテ此等酒問屋ハ大四軒小二十軒アリ
冬季間毛皮ノ販賣モ亦蓋平市場ノ特長ナリ毎年十一月及十
二月ノ兩月間ニ在テ錦州地方ノ大毛皮舖荷物ヲ運來スルモ
ノニシテ此等皮問屋大三軒小二軒アリ一ヶ年間ノ取引高ハ
百萬圓ヲ下ラス
日本産縮、醬油ハ近來大ニ其ノ販路ヲ擴張シ支那人一般ノ

需要ヲ充タシ相等ノ取引額ヲ見ルニ至レリ
市場ハ城内東關ヨリ城壁ニ沿ヒ南關ニ至ル露天式市場ニシ
テ月九回開始ス市場貨物ノ陳列ノ一定セラレ薪炭鶏卵野菜
牲口(牛馬)魚類穀類ノ順序ヲ以テ陳列サル穀類ノ如キ春夏
ノ候ハ僅ニ二三十輛ノ出荷ナルモ秋冬ノ候ニ至レハ六七
輛ヲ下ラス魚類ハ之カ反對ニ秋冬十輛春夏六十輛乃至三百
輛内外ノ出荷アリ總取引高平均一日銀三萬圓内外ナリトス
熊岳城市場ノ商品モ他所ト異ル所ナリ綿布、綿絲、白麵、
石油、燐寸、陶器、雜穀、洋燈、酒、醬油、藥種、繪具、
其他靴、家具等ノ諸雜貨ニシテ此等諸貨ハ其七分ヲ營口ヨ
リ三分ヲ大連ヨリ輸入ス輸出物ハ雜穀、米、豆粕、魚類、梨
等ヲ重要ナルモノトス

第七節 工業及鑛業

工業トシテハ豆粕製造野蠶製絲及毛筆製造ヲ重ナルモノト
ス此外絨帽絨靴、舊式馬車ノ製造等アレトモ盛大ナラス蓋
平城内外油房(豆粕製造業)四軒アリ一家平均一日六十塊ヲ
製造ス而シテ一ヶ年中六ヶ月ノ作業ナルニヨリ總産出額ハ
大約四千二百個ナリ内三分ノ一ハ大連ヲ經テ日本ニ輸出セ
ラレ残り三分ノ二ハ管内牧畜用ニ消費セラルモノトス當時
豆粕一塊ハ約二圓六十錢ノ相當ナリ熊岳城内油房三ヶ所ア
リ一ヶ所一日平均九十六塊ヲ産出ス各所碾子坊(引キ割器)
三個搾子(壓搾器)二個ヲ備フ豆六斗三升ヲ一朶トシ豆粕六
塊ヲ得一ヶ年八ヶ月ノ作業ナリ依テ當城産出額ハ六萬九千
百二十塊ニシテ皆地方農家ノ需要ニ供スル所タリ

當地ニ於ケル製絲業ハ最モ盛大ニシテ製絲戶數約二十戶職
工數五千人絹織工場二十三戶其職工數一千人ヲ算ス本邦
舊式器械ノ如キ足踏器械ヲ用フ製絲ノ方法ハ先ツ曹達湯ノ
釜中ニ繭ヲ入レ攪拌シテ殺蛹法ヲ行ヒ後之ヲ曹達湯ニヨル
蒸籠ノ中ニ移シ蒸ス事半日繭ノ充分ニ泡水スルヲ俟テ始メ
テ其外皮ヲ剝取スルモノナリ此外皮ヨリ取ル絲ヲ大挽手又
ハ大絲頭ト稱シ上品ナラスト雖モ亦海外ニ輸出セラル而シ
テ外皮ヲ除去シタル繭ヨリ更ニ絲口ヲ見出し十個ヲ合シテ
一絲ヲ繰出シ之ヲ框ニ掛クルモノトス框ニ大小アリ大ハ直
徑二尺四寸小ハ一尺六寸トス別ニ繭青ト稱スル絲アリ是ハ
絲ヲ取り終リタル後繭蟲ニ附着セル屑繭ヨリ製出シタル絲
ニシテ最劣等トス繭絲力ハ一人一日二千二百個ノ繭ヲ適當
トス一千個ノ繭ヨリ平均九兩乃至十三兩ノ絲ヲ製出シ得ヘ
シ職工賃銀ハ繭千個ニ付我二十錢内外トス蓋平ノ製筆ノ製
筆業ハ甚タ盛大ナラズト雖モ滿洲一般ニ供給サレ總卸高三
萬圓ニ上ルト云フ製筆工場六ヶ所職工合計八十二名一ヶ年
ノ製造高合計十二萬對以上ナリ鑛山ニ關シテハ本管内亦鑛
脈ニ乏シカラサルモノノ如ク處處々鑛石ノ發見ヲ傳フルト雖
精査ヲ經タルモノ未タ多カラス今其ノ概要ヲ記セハ次ノ如
シ熊岳城東方約十五清里水峪峯下ニ花崗岩石アリ質最モ良
好ニシテ建築用ニ適ス目下支那人ノ手ニヨリ採掘中ニシテ輸
出先ハ大連地方ナリ鮑家屯東北方十五清里四道溝(拉山)ニ
銅鑛アリ光緒二十八年露人初メテ試掘シタルモ其ノ頃良好
ナラシト共ニ適々日露開戦ノ爲メ事業ヲ中止シタリト稱ス
ルモ思フニ鑛質不良ノ爲メナルカ故ニ中止セシニアラスシ

テ地方土民ハ再ヒ外人ノ來住ヲ恐レテ種々ノ風説ヲナスモ
ノノ如シ

鮑家屯東南二清里ノ地ニ銅鑛石アリ未タ試掘ヲ經サレハ將
來豫想スル事難シ但鮑家屯ハ交通甚タ不便ニシテ山間砂礫
ノ狹道ヲ往復セサレハ至ル能ハス住民又僅ニ五十餘戶蠶業
及農業ニヨリ低級ノ生活ヲ營ムニ過キサルカ故ニ鑛山ノ發
掘亦速カニ望ムヘカラス

拉子山西四清里(鐵道沿線)ノ地點ニ砂金鑛アリ光緒三十四
年日商白川洋行此地ニ於テ採石工事ヲ始ムルヤ屢々金粒ヲ
發見シタルヲ以テ其後土人ハ引續キ試掘ヲナシツアルモ
未タ確實ナル成績ヲ見ス

孤家子ニ六萬石鑛アリ未タ試掘セラレス其ノ西南五清里ノ
地ノ李家窪子ニ銅鑛アリ此地鐵道線ヲ距ル遠カラサルカ故
ニ適當ノ方法ヲ以テ採掘ニ從事スルトキハ有益ノ事業タル
ヲ疑ハスト云フ

鑛業ニ附加スヘキモノハ大石橋ノ石灰業ナリトス元來大石
橋ノ地タル交通ノ便至大ナリト雖北滿ニ對スル商業上ノ地
域狹隘ナルヲ以テ其發展速カニ希望スヘクモアラヌ此故ニ
露國ハ曩ニ此地ヲ占領スルヤ石灰及煉瓦ノ製造ヲ開始セリ
煉瓦製造處ハ停車場ノ西ニ數密アリ營口新市街建設當時ニ
在テハ三百萬個ノ巨額ヲ產出セシコトアレトモ其ノ後營口
牛家屯煉瓦製造場ノ開設ノ爲ニ事業ノ壓倒ヲ蒙リ遂ニ從來
ノ小規模ニテハ到底再立シ能ハサルニ至レリ石灰製造ニ關
シテハ沿線各所ニ產出地アリト雖モ運輸上便ナラス或ハ材
料豐富ナラサルヲ以テ大石橋ノ交通便ニシテ而モ材料豐富

鹽田一副當產鹽數(一副面積四五十畝)平均大六百五十石
中四百五十石、小三百石ニシテ一副生產費平均三三五元餘
之ニ該當スル鹽價收入ハ五百二十五元ニシテ鹽田渡シ百斤
價格十仙一厘内外ナリ

第八節 農業及牧畜

農業ハ管内主要職業ニシテ住民ノ九割ハ之ニ從事ス耕地面
積ハ二十三萬天地ニシテ主要農產物ヲ舉クレハ大豆三十四
萬四千石、小豆二十八萬八千石、高粱百七萬八千三百石、
粟四十三萬一千石、玉蜀黍十一萬四千八百石、小麥一萬三
千三百石、棉花二萬一千六百貫、葉煙草一萬一千八百貫ニ
シテ農家一戸宛平均耕作面積九反四畝ニ相等ス而シテ全農
家戸數ニ對スル割合ヲ示セハ自作農家戸數三六、同上小作
農一四同上自作兼小作農二三同上勞働地二七ヲ示ス今農地
生產力ヲ見ルニ我一反步當高粱生產額一、二五、大豆一、
一二、粟一、二一ナリトス

熊岳城管内水田狀況ヲ見ルニ附屬地作付面積七町餘百七
十八石ヲ產シ邦人三名ノ手ニヨリテ經營セラル附屬地外作
付面積四十町收穫高粳千二百石ヲ產ス

熊岳城及蓋平縣附近一般ニ果實ノ栽培盛ニシテ特ニ有名ナ
ルヲ熊岳城ナリトス其ノ梨園ハ同驛ノ南方約五清里正黃旗
村ニアリ村內戚氏梨園ト稱スルモノアリ故奉天將軍戚某ノ
故宅ニシテ五十年前以前戚將軍晩世ヲ此ノ地ニ養フヤ田圃約
五町步ヲ買收シ各種ノ梨樹ヲ植ヘテ觀樂セシニ起因ス人稱
シテ一目千株ト云フ既ニ千五百株以上ノ梨林タリ樹其ノ大

ナルニ比較スル能ハス嘗テ軍政時代ニ在テハ鐵嶺方面ニ六
千餘萬斤ヲ輸出シタルコトアリ

密數ニ現ニ六ヶ所アリテ一密約五萬斤ヲ製シ月ニ二回燒出
シ得ルヲ以テ一ヶ月ニ總計六十萬斤ヲ製出シ得可シ而モ灰
質極上ト云フニアラサレトモ工事用トシテ充分ニ需用ニ堪
ユルモノナリ而モ石山ハ無盡藏ナリト云フカ故ニ向後一層
ノ注意ト勉勵トヲ加フル時ハ將來ノ大發展括目シテ俟ツ可
キモノアリ

熊岳城西三清里南密村ニ煉瓦製造所アリ煉瓦及屋根瓦ヲ產
ス工場數ヶ所十數名ノ職工ヲ使用シテ毎年百二三十萬個ヲ
製造スト云フ

鑛産ニ關シテハ熊岳城ノ溫泉ナリ溫泉ハ同驛ノ東南十八町
正白旗村ナル熊岳城川ヨリ湧出ス溫度ハ平均攝氏五十度内
外ナリ溫泉ノ質ハ硫黃、鹽味炭酸、鐵味硝酸、磷酸、硅酸、
ナトリウム等少量ヲ含有ス從前露國時代ニ在テハ單ニ粗末
ナル設備ニ過キサリシモ我附屬地トナリテ以來着々ト經營
ノ歩ヲ進メ現今ニ於テハ旅館其他ノ設備大ニ完全シ附近風
致ノ秀絶ヲ利用シ一大公園ヲ設計シ滿洲唯一ノ浴場トシ且
ツ遊樂地トシテ有名ナルニ至ルヘシ

製鹽業ハ盛京省遼東海岸一般ニ盛大ニシテ就中蓋平縣下
ヲ以テ最有名ナリトス二道溝、三道溝、塘窪、藍旗廠、紅
旗廠ハ特ニ盛大ナリ其面積一千四百二十二副全副長五十丈幅
一四丈年額合計約三百萬擔ヲ產ス製鹽期ヲ分テテ二トス一
ハ春鹽製產期(舊一月初ヨリ五月末迄)トシ一ハ秋鹽生
產期(舊七月中旬ヨリ十一月末迄)トス

ナルモノハ口徑七、八寸ノモノアリ園内手入其他ニ使役ス
ル人夫四十餘人アルモ樹木ニ對スル施肥其他ノ手入ハ甚タ
無頓着ナルモノナリ之ヲ要スルニ本管内地味氣候ハ共ニ果
樹栽培ニ適シ果實極メテ佳良ナリ

土地小作人ト地主トノ關係ハ復州管内ト大同小異ナリ一
地ノ小作料ハ二石ヲ以テ普通トス

養蠶業蠶絲ハ滿洲ニ於ケル特殊ノ產物ニシテ其出產額ハ滿
洲ノ產物中豆類ニ次テ重要ナルモノナリ今其ノ概略ヲ述フ
レハ次ノ如シ

滿洲ニ絲ノ產地ハ西遼河ヲ界トシテ東ハ寬甸安東縣ヨリ朝
鮮國境ニ至リ北ハ奉天鐵嶺ニ達スル一帶ノ地ニ互ル就中蓋
平縣岫巖廳ハ最モ斯業ノ盛ナル所ナリ

絲ノ產出額一ヶ年約三萬包一包ハ百五十斤ナリ絲ト繭ノ輸出
比例繭ノ儘輸出サルモノハ悉ク大孤山ニ集マリ此地ヨリ
戎克ヲ以テ山東省ニ向フモノナレトモ今精確ノ數量ヲ知り
難キモ約三十億個ナリト云フ

蓋平、安東縣及海城三ヶ所ノ關係蓋平ハ柞蠶絲ノ集散地ト
シテ有名ナルモノニシテ市期ニ至リ各商人ノ入り込ムモノ
甚タ多シ安東縣ハ明治三十五年頃迄ハ蓋平出荷ノ十分ノ四
一ニ過キサリシモ其後漸次發展シテ現今ハ金額ノ十分ノ四
ヲ取引スルニ至レリ海城ハ從前相等ノ集散地タリシモ一般
相場ハ海城ニ比シ蓋平市場ニ於テ稍高價ナルヲ以テ運搬ノ
遠近ヲ介意セサル支那人ノ風習トシテ漸次海城貨ハ蓋平ニ
吸收セラルルニ至リ現今ニ至リ海城ニ集マルモノ甚タ少額
ニシテ單ニ海城ノ機械用ニ供スルノミナリ

柞樹ノ種類野蠶ヲ放飼スル樹ノ總名ヲ柞樹ト云ヒ俗ニ不落樹又ハ薄羅樹ト云ヒ大葉、小葉、尖葉、胡科等ノ別アリ青拍子ト稱スルハ大葉柞、小葉柞ノ合名ナリ柞樹ハ相子ト稱スル種子ヨリ培養スルモノニシテ秋季蒔種シテ翌年春ニ至レハ萌芽シテ生育旺盛ナル時ハ七年ニシテ放養ニ適ス年ヲ經ル事久シケレハ葉硬クシテ飼養上有害ナルヲ以テ多クハ冬期裁伐シテ翌年春新芽ヲ用ユ普通毎五年ニ輪流ニ伐木ス而シテ新芽ハ一年二年ノ間ヲ最良トシ三年目ヲ中等トシ四五兩年ヲ最下等トス

蠶兒ノ飼養法春蠶ハ前年ノ秋蠶ヨリ種ヲ取ルモノニシテ穀雨ノ節卵ヲ産シ立夏ニ至リ孵化スルヲ常トス蠶兒始メテ孵化スル時ハ極メテ小形ナルヲ以テ風雨ヲ避ケル爲ニ嫩葉繁茂ノ樹ヲ選ンテ放養シ更ニ繩ヲ以テ柞樹ヲ括リ葉ヲ密接セシムルニ務ム大抵孵化後三十日ニシテ上簇ス其ノ間四眠スルコト他ノ蠶兒ト同様ナリ蠶兒初眠後ハ別ニ防風雨ノ設ナキヲ以テ春季ノ風ト秋季ノ雨トハ產出上至大ノ關係ヲ有スルモノニシテ養蠶家ノ最憂慮スル所ナリ

一個人ノ飼養料一人ノ飼養量ヲ俗ニ一把剪子ト云フ廣サ我一反餘歩ニシテ柞樹四千株ヲ有ス可シ

「一把剪子」ニ對スル種繭ハ五千個ヲ要シ之ヨリ四十萬乃至五十萬斤ノ蠶兒ヲ得ルト雖モ上簇、結繭マテニハ病死、被害等ノ爲メ減少スルヲ以テ豐年ノ時雖モ五十萬斤ニ過キスト云フ

「一把剪子」ノ賣買價格ハ五百圓内外ナリトス繭ノ收穫高一ヶ年收穫高ハ滿洲一帶ヲ通シテ約一千萬圓一

第九節 水産業並獵業

水産業ハ熊岳城沖ヲ以テ滿洲中最盛ナル地域トス漁業時期ハ三、四月ヨリ七、八月迄トス鹽廠廳白旗村等最大漁市ナリ春季ハ黃花魚最モ多シ該魚ハ卵卵ノ爲遠河ノ淡水ニ向テ集合スルモノナリ五、六月ニ至テ快魚(火鱈魚)鯛等ノ漁獲アリ秋ニ入テハ沙魚多シ而シテ其漁法ハ引網卷網等大規模ノ設備ヲ用ヒ盛漁期ニ於テ集マル所ノ漁船凡五百艘ノ多キニ及ヒ各船七、八人ノ乘リ込ミトス漁業高ハ毎年等シカラスト雖モ每船約三百圓内外ヲ獲而シテ此等魚類ノ賣買ハ皆魚舖ノ手ヲ經ルモノトス

魚舖ハ魚問屋ニシテ三、四月頃漁獲最盛ナル時ニ於テ凡一箇月間最寄海岸ニ新設セラルルモノニシテ其數三十軒アリ

漁船ハ獵魚ヲ此等魚舖ニ隨時荷揚ケシ代金ヲ受取り各地魚商ハ此等魚舖ヨリ買取ルモノニシテ盛大期間ハ此等魚商ノ據魚車毎三、四百輛ヲ下ラス以テ滿洲一體ノ各地ニ分配シ現用ノ餘ハ鹽漬トシテ冬期ノ用ニ供ス魚市開設期ニ在テハ魚舖ノ外宿屋飲食店船具屋等各所ヨリ集合シテ一大市場ヲ海岸ニ設立スト云フ此ノ如クニシテ一箇年漁業總額十萬圓内外ニ達スルモノナリ此等漁業家ノ内熊岳城管内住民ハ殆ント皆無ニシテ合計僅カニ二十餘船ノ漁船アレトモ皆二人乗ノ小船ニシテ是等ハ皆釣魚又ハ淺瀬ノ打網等ヲ業トスルニ過キス

最近ノ調査ニヨレハ一月末ヨリ二月初旬ニ至ル間同漁區内鱈ノ集合セル者甚タ巨多ニシテ若シ適當ノ設備ヲナスニ於テハ收利春季ノ黃花魚ニ比敵ス可シト雖未タ何人モ之ニ着手シタルモノナシ

獵業ハ殆ント之アルナシ東山一帶ノ住民偶々狐狸ノ毛皮ヲ蓋平熊岳等ノ市場ニ賣ルモノアリト雖彼等ノ之ヲ定業トスルモノアラサルヲ以テ其產額ノ如キ至テ僅少ナリ

第十節 金融並ニ度量衡

蓋平通用貨幣ハ小銀貨ハ銅錢交通銀行券、東三省官銀行券興業銀行券、奉天公濟平錢莊、一厘錢等アレトモ圓銀以下ハ稀ニ見ル所ナリトス銀行業トシテハ東山省官銀行支店興業銀行支店アリ流通貨ハ主ニ此等兩銀行券ニシテ小銀貨一圓ハ七吊二百文ニ相當ス

昔時知縣特許ノ下ニ城内豪商ノ振出セル一覽拂手形ニシテ

蓋平票ト稱スルモノアリ發行特許商買合計十五軒アリ其發行高總計二百萬圓内外ナリシト云フ然ルニ該蓋平票ナルモノハ額面吊(一厘錢)ヲ標準トセル價格ノ稱呼ヲ以テ記載サレタルカ故ニ小銀貨トノ換算相場始終一定セス爲ニ屢々經濟界ニ大波瀾ヲ起サシムルコトアルヲ以テ銳意蓋平票ノ回收ヲ獎勵シ商務分會ニ飭令シテ漸次小銀貨ヲ以テ交換セシメ今ヤ其影ヲ没スルニ至レリ

蓋平ハ南滿屈指ノ商業地ニシテ輸出入トモ營口ト密接ノ關係ヲ有スルカ故ニ營口過爐銀ノ昂落ハ引イテ本城金融市場ニ大影響ヲ及ホスヲ以テ本城ノ經濟界ハ其ノ動靜甚タ不確定ナリ爲替事業ハ特設ノ營業者ナシト雖金融上大ナル不便ナシト云フ凡爲替ノ必要ヲ感スルモノハ輸出入商ノ如ク他所產貨物ノ取引ヲ爲ス者ニ限ルモノニシテ而モ商慣習トシテ此等貨物ノ取引ハ全ク問屋組織ニヨルモノニシテ問屋ハ客商ニ代リ賣買上總テノ手續ヲ了シ吳ルヲ以テ商人ハ現物取引地ニ於テ現銀ノ取引ヲ了スルノミニシテ充分ナリ之ヨリ一步進シテ兩地間ノ取引爲替ニ至テハ此等問屋間ノ業務ニ屬ス而シテ問屋ハ廣ク各地ニ互リテ取引店又ハ支店等ヲ有スルヲ以テ彼此帳簿上ノ差引キヲ以テ大概ノ勘定ハ終了シ現銀輸送ノ如キハ稀ナリ

熊岳城ノ流通貨幣モ蓋平ノモノト大差ナシ只熊岳城ノミニ流通スル票子アリ是又城内有力ナル商買ノ振出セル手形ニシテ本城票ハ蓋平城ニハ通用セサルモノナリ

第十一節 交通及通信

蓋平城ハ滿洲第一ノ互市場タル營口ノ地ヲ距ル僅ニ六十清里其間道路平坦ニシテ馬車ノ往復自由ナルノミナラス南滿鐵道蓋平驛ハ城下ニ近ク接シテ南大連ト遠カラズ此遼陽、奉天モ一瞬ニシテ達スヘク又東スレハ一直岫巖ニ通ス可シ加之城壁直下ノ蓋平河ハ舟楫ノ便ヲ有スルヲ以テ營口ハ勿論奉省一帶ノ海港ト自由ニ二、三十石ノ船ヲ往復スルコトヲ得此ノ如クナルカ故ニ蓋平城ハ物質集散ノ中心點ニシテ輸入貨ハ大連ヨリ鐵道ニヨリ營口ヨリ馬車便ニヨリ又ハ鐵道ニテ或ハ少量ナレトモ舟楫ニヨリ一度蓋平城ニ集マリ再ヒ管内各地及岫巖地方ニ分配セラル、モノナリ重ナル輸出物雜穀、蠶絲ノ如キモ一度本城ニ集マリ更ニ大連營口ニ輸出セラル、コト前述ノ如シ且北方遼陽地方ヨリ全州方面ニ販賣スル燒酒ノ如キモ本縣ニ集散スルヲ見レハ本城カ如何ニ交通ノ便ニ富メルカラ察スルニ足ル可シ

莫遮管内各地方道路ハ他州縣ト等シク皆天然道ニシテ河川又橋梁ヲ架セス交通甚不便ナルカ如シト雖元來畑地ノ使用時期ハ晚春ヨリ晚秋マテノ間ニシテ此間ハ全ク耕作期ト雨期トニ屬スルヲ以テ支那人ニ在テハ交通ノ必要ナク冬及早春ニ在リテ初メテ諸貨物ノ運搬開ケ交通時期ニ入ルヲ以テ道路ハ不完全ナリト雖便宜何レノ畑地ヲ通行スルモ防ケナク目的地ニ向テ一直ニ進行シ得ルカ故ニ逸路ノ不完全ハ何等不便ヲ起スコトナク又河川ノ如キモ交通期ニ在テハ多クハ水涸レテ原野ト異ナラス偶流水アルモノハ皆結氷シテ石ヨリモ墜ケレハ數噸ノ積荷アル大馬車モ容易ニ其上ヲ通行シ得ルモノナリ但道路ノ修築ハ交通上必要條件ニシテ商業

ノ盛否ハ交通ノ便否ニ原因スルノ理漸ク支人ニ解セラレ官民間漸ク道路修築ノ說ヲ聞クニ至リ現ニ驛ヨリ城門迄ノ道路ハ改築工事竣成シ其効果見ルヘキモノ多シ
郵便事務ハ城内ニ二等郵便局アリ晝間二回夜間一回蓋平驛トノ間ヲ往復ス電信電話ノ設ナシ但蓋平ハ商業地ニシテ營口トノ交通頻繁ナルニヨリ電信電話ノ必要ヲ感スル事多ク此等ハ皆日本郵便電信ニヨルモノナリ
官衙ノ公文ハ皆特使ニヨルコト他縣ト同シ
熊岳城ハ田舎ノ一小都市ニシテ所屬地域狹少ニシテ附近海岸一體ト東山間ノ諸村落ニ過キス而モ山間ニ至レハ道路險惡ニシテ交通ニ便ナラス住民ハ僅ニ農蠶ニヨリ低級ノ生活ヲ營ムニ過キサレハ本城ノ商業盛ナラス

第十二節 居留地

管内居留地ト稱スルモノナシ只南滿鐵道附屬地アリ面積熊岳城四十二萬餘坪蓋平五十餘萬坪大石橋八十六萬餘坪海城二百四十四萬餘坪反歩ニシテ各所住民合計七千餘人ナリ附屬地ニ於ケル一切ノ政務ハ我官公吏ニ於テ經營セラル道路修築家屋建設交通機關ノ設置等漸ク完成シ病院ノ設備ヨリ小學教育ニ至ル迄稍普及スルニ至レリ

第十三節 公私上ノ施設

蓋平縣知縣衙門 在 蓋平
蓋平縣警察事務所 在 蓋平
警察事務所ノ下ニ區ヲ置キ縣内ヲ四區ニ分チ蓋平二區熊岳

城三區萬福庄四區傳洛舖トス一區ノ下ニ六ヶ所ノ巡警派出所アリ二區及三區ノ下ニ分駐所二ヶ所四區ノ下ニ一ヶ所ノ分駐所ヲ置ク事務所ニ所長ヲ置キ各區ニ區官巡官ヲ置ク而シテ蓋平ニ約百六十名ノ巡警アリ他ノ二、三、四區ニ各七八十名ノ巡警ヲ置ケリ

稅 捐 總 局 在 蓋 平
四分局アリ

出 產 貨 局 在 蓋 平
絲 捐 局 在 蓋 平
出 產 糧 局 在 蓋 平

鹽 捐 局 在 二 道 溝
學校省立師範學校一、縣立師範學校一、縣立中學校一、縣立高等小學校一、縣立女子學校一、ノ外尋常小學校六校アリ省立師範學校生徒約三百人縣立師範學校生徒二百人縣立中學校生徒約六十人縣立高等小學校生徒三百人縣立女子學校生徒百人ニシテ尋常小學校ハ各四五十名ノ生徒ヲ收容ス教養工廠在監犯人ニ一定ノ職業ヲ授クル所ニシテ官立トス學術科目ヲ分チテ三トス土匠科繩麻科及印刷科是ナリ各自ノ嗜好又ハ從來ノ職業ニヨリ其ノ一ヲ選擇セシメ製作品ハ市場ニ公賣シ代價ハ國庫ノ收入トス此等製作品ハ職工ノ生活費ヲ省節シ得ルヲ以テ市場ニ於テ他所品ト比シ優勢ノ地位ヲ占メツツアリ

第十四節 土地家屋ノ賣買並ニ 賃貸借價額

土地一田地 上田四百五十圓内外
中田三百五十圓内外
下田二百圓内外
山田百圓内外
家屋ノ賃貸借ハ始ント定價ナシ近年邦人ノ商買ニシテ借家スルモノ數多ナレトモソハ商況ノ如何ニヨリ殆ント家賃ノ高低ヲ論セス且其借家タル多クハ一時的ノモノナルカ故ニ一般ニ甚タ高ク一間(一室ヲ云フ)一ヶ月五圓内外ナリ
第十五節 勞働者ノ賃銀並ニ物價
勞働者ハ八十錢乃至一圓定傭人夫僕婢ハ二十五錢乃至三十錢ナリ其他ハ他州縣ト異ルコトナシ物價ハ他州縣ト大差ナシ但シ貨幣ノ變動著シキカ故ニ小商人ハ屢々不測ノ難ヲ蒙ル事アリト云フ
第十六節 邦人ノ着眼ス可キ事業
第一、蠶絲染工ハ最モ着眼スヘキモノノ一ナリ蠶絲ハ從來着色不能トシテ取扱ハレ原色ノママ絹紬ニ織造セラレ其他ノ用途ニハ不向ノモノニシテ實ニ野蠶絲上ノ一大缺點ナリシカ方今漸ク化學的作用ニヨリ自由ニ着色シ得而モ絲面ノ光澤ヲ失ハサル法發見セラレタリト云フヲ以テ此ノ文明的方法ニ依リ蓋平ニ於テ輸出ニ先チ之ニ着色ヲ加フル時ハ其需用ノ面目ヲ改メ販路亦從前ニ倍スヘキヲ疑ハス大正八年八月下旬旅順染料公司初メテ此地ニ蠶絲並絹紬ノ染色場ヲ開設シ着々其ノ業務ニ勉メツツアレハ斯業ノ進歩改良見ルヘキモノアラン

第二、繭綉及機ノ改良之ナリ既ニ蠶絲染工ヲ起シ適當ニ若
色後改良機ニ上シテ精密ナル繭綉ヲ織造スルトキハ其有望
ナル疑ヲ入レテ現今支那人ノ手ニ依リ織造セラレルモノハ
白色ノ繭綉一種ニ過キサリシモ數年前ヨリ薄紺ニ着色スル
コトヲ習得シ此ノ色糸ヲ以テ紺糸入ノ布圍縞浴衣其他裕單
衣縞等ヲ織造スルモ他ノ着色法ヲ知ラサル爲何レモ同様に
合ノモノノミナリ機ハ舊式ノモノナルニヨリ織造ノ時間ヲ
要スル事多ク到底多額ノ產出ヲ望ム可クモアラス依テ支那
人ノ嗜好ニ適應シテ其ノ染色法ヲ改善シ新式機械ヲ以テ其
ノ供給ヲ圖ラハ蓋シ其有利ナルコト火ヲ見ルヨリ明カナリ
商業ハ現今盛大ナリト雖モ永遠ノ見込ナキモノナリ蓋平ノ
地タル營口ヲ距ルコト遠カラサルカ故ニ内地市場トスルニ
ハ餘リニ海岸ニ近ク外貨貿易場トスルニハ餘リニ内地ニ在
ルノミナラス已ニ繁昌ナル營口市場ノアルヲ以テ向後電信
電話其他交通機關完成ノ曉ニハ輸出入ノ取引ハ直接營口ニ
於テ成サレ何等蓋平ヲ經由スルノ必要ヲ見サルニ至ルヘシ
鐵業ハ今尙調査中ニ屬シ此ニ何等ノ豫想ヲモナシ難シ柞樹
ノ栽培モ亦有望ナル事業ノ一ナリ鐵道沿線ニハ秃山多ク土
地砂石ヲ含メル黃土ナルカ故ニ柞樹ノ栽培ニハ極メテ適當
ナリ然モ一度此等ノ柞樹ヲ以テ養蠶スル曉ニ至ラハ鐵道沿
線タルノ利便ヲ有シ旺盛期シテ俟ツヘク必ス蓋平内地ニ
比シ優勝ノ位置ニ立テ得ヘキヲ信ス

第三章 復縣

平時流幅僅ニ三十間ニ充タサルモ一朝驟雨アラシカ其ノ幅
數丁ノ廣キニ互ルサレハ平地ノ大半ハ時々河水ノ氾濫ニ依
リ河底ノ如ク河幅亦兩山ノ互ルノ觀アリ而シテ前述ノ如ク
地味到ル處礫礫ナルヲ以テ出水後到ル所砂礫ニシテ他地方
ニ見ルカ如ク逸水ニ因ル沃土ノ堆積ノ如キハ之レヲ當地方
ニ求ム可カラサルナリ

復州城ハ復州ノ首都ニシテ復州知州及城守尉ノ居住スル所
ナリ南滿洲鐵道瓦房店驛ヲ正西六十浬里間東灣ヲ距ル四十
浬里娘々宮港ヲ距ル東北五十浬里永寧洞港ヲ距ル東南六十
浬里ノ地點ニ在リ四周秃山ヲ以テ重圍セラレ城ノ西北二面
ハ城壁ノ下直ニ復州河繞流ス城壁ノ周圍約十町ニシテ巡
警局ノ調査ニ依レハ戶數二千五百九十餘戶人口一萬七千二
百餘内男一萬九千餘女七千餘ニシテ純粹ノ商賈ト目ス
ヘキモノ三百三十戸ニ過キス以テ商業ノ振ハサル知ル可キ
也

今復州管内ノ職業ヲ大別スレハ農業ヲ首位トシ是レニ從事
スルモノ住民ノ九割ヲ占メ其ノ他ハ商工採炭及製鹽ニ從事
セリ其ノ他外國人ノ居住スル者ニ至リテハ甚タ尠ク鐵道附
屬地外ニ於テハ邦人一戸五湖嘴(炭坑所在地)ニ六百二十
名(粘土採掘)外鐵道沿線附屬地外ニ十三戸三十八名ヲ算
スルノミ

第二節 管内ノ特長

管内ノ特長トシテ見ルヘキモノハ炭坑ト鹽ナレトモ住民一
般ノ職業ハ農業ニシテ從テ管内最モ重要ナル物産ハ雜穀ナ

第一節 地勢面積人口及職業ノ大要

復州ノ南界ハ畢里河口ヨリ田甸子附近ニ於テ南滿洲鐵道ニ
交叉シ陳家堡口灣ヲ終ル一線ヲ以テ金州廳界ニ接シ東ハ畢
里河ニ沿フテ莊河廳ト境シ北界ハ雪茂山(俗稱和尚帽子)ヨ
リ起リ萬家嶺ニ於テ南滿洲鐵道ニ交リ李官村河ニ沿フ一線
ヲ以テ蓋平縣ト連リ西一面ハ出入ニ富メル海岸線ヲ以テ遼
東灣ニ臨ミ長興島外大小數千ノ島嶼海岸ニ近ク散布ス州全
面積三萬一千二百七十六平方浬里ニシテ普通方二百浬里ト
稱シ戶數五萬八千三百餘戶人口四十五萬一千四百餘内男二
十四萬六千七百餘女二十萬四千六百餘人トス
地勢ハ一帶高臺ニシテ山岳ニ富ム此ノ地ハ遼東半島ノ背部
ニ當ルヲ以テ盛京省ノ中央山脈ナル東山一帶ノ脈ハ延テ此
地ニ至リ盡キシトシテ漸ク起伏ヲ増シ加フルニ遠ク鴨綠
江岸ノ大山脈ハ蜿蜒走リテ此ノ地ニ至リ東山脈ト合シ更ニ
縱橫ニ奔馳スルカ故ニ州内至ル處丘陵ナラサル無ク北滿ニ
見ルカ如キ茫茫タル平野ハ到底求ム可クモ非ス然モ地質ハ
小量ノ粘土ヲ混シタル粘土ニシテ多量ノ砂礫ヲ含ミ地味瘠
瘦殆ト荒蕪不毛ノ廢地ニ屬シ一望山岳疊重岩石磊落トシテ
樹林ナク唯僅少ノ一部人口ヲ施シテ農耕ノ用ヲ供スルヲ見
ルノミ

河川ニ至リテハ東ニ畢里河アリ中央ニ復州河嵐崗河大沙ア
リ此ニ李官村河アリト雖皆水量少ナケレハ一トシテ舟楫ノ
便アルナク然カモ夏期六、七月ノ交雨季ニ際スルヤ草木ナ
キ萬山ノ水ハ一時ニ奔逸氾濫ス之レヲ復州河ノ例ニ見ルモ
リ蓋ノ產額三十五、六萬石ニ達ス礦物類又豐富ナリト雖モ
其ノ設備未ダ舊式ニ屬シ產出額多カラサルノミナラス殆ト
全部ハ尙ホ着手ヲ見ス從テ一般農產物ニ匹敵シ得ルニ至ラ
ス

第二節 衣食住ノ狀態

衣ハ他ノ北清地方ト異ルコトナク衣裳共ニ綿布ヲ用ヒ色合
ハ藍又ハ淺黃ニシテ夏季稀ニ白布ヲ用ユ而シテ冬ハ防寒ノ
爲メ好シテ羊又ハ山羊ノ皮ヲ裏付ケス而シテ紫又ハ紅色
花模様ヲ附セル絹地綢緞類ハ僅カニ官吏又ハ豪家ニ於テ需
要スルニ過キス
綿布ニハ舶來ノモノト土產ノモノトノ別アリ後者ノ中ニ毛
輸入セラレタル紡績糸ヲ以テ織レルモノト土產綿ヨリ手紡
キセル糸ヨリ成リタルモノトノ別アリト雖自家製綿糸ニシ
テ洋布三十七萬八千圓ナリトス而シテ此等舶來物ハ十中八
九迄大連經由ニシテ日本及上海ヨリノ輸入ニカヘリ他ノ一
部ハ芝罘、營口ヨリ民船ニ由リ娘々宮港ニ荷卸サル普通上
短衣一枚一圓四十錢褲子一圓四十錢長衣三圓六十錢ヲ值ス
ルモ長衣羊皮裏ニ至リテハ一圓三十圓ヲ普通トシ山羊ヲ用
ヒタルモノニ稍廉價ニシテ二十圓内外ナリ上等衣類裏地ニ
至リテハ山猫狐狸等ノ皮ヲ用ヒ價額亦一定セシ是等毛皮ハ
錦州經由ノ棚外產ナリ
常食ハ高粱米、小米、包米ノ類ニシテ高粱ハ一斗(我カ一
斗八升)九十錢位小米三圓九十錢内外包米八十五錢位ヲ平

均價額トス白米、白麵(麥粉)ハ祭祀又ハ來客用トシテ官
吏其ノ他富裕ノ家ニ用ヒラルルニ過キス米一斗七圓二十錢
位ニシテ麥粉ハ四十二斤モノ一袋六圓内外ニシテ大連經由
ノ日本品ト北方鐵嶺ヨリ鐵道便ニヨリ來ルモノト其ノ數殆
ント匹敵ス而シテ常時最モ多量ニ用ヒラルルハ包米ニシテ
高粱米之ニ次キ小米最モ少ナク此等三種ハ之レヲ混合セス
各種別之レヲ炊クモノナリ是等常食米ハ主トシテ地方産ニ
係ル米ノ主ナル産地ハ復州城東八家子、韭菜園子、蒿子房
一拉塔、四平街、腰領子、等ニシテ年額粗一萬五千石、白
麵ハ大連ヨリ瓦房店ヲ經テ來リ日本品最モ多シ白麵代用物
トシテ蕎麥粉一般ニ使用セラル是全ク地質蕎麥ノ産出ニ適
セルガ爲メナリ副食物ハ野菜及豆腐ニシテ獸肉ノ類ハ比
較的少量ナリ野菜ハ復州地方唯一ノ特産物ニシテ毎年白菜
三百萬斤大根百萬斤ヲ産出シ遠ク大連及金州管内各都市ニ
輸出シ價額ハ百斤ニ付キ大根一圓八十錢白菜二圓三十錢葱
一圓八十錢内外ナリ但白菜ノ收穫時期ニ在リテハ多少廉
價ナルモ甚シキ相違ナシ肉類ハ重ニ豚肉ニシテ屠殺高復州
城内ニ於テ一ヶ月平均四百五十頭牛十四五頭ナリ羊ハ夏日
ニアラサレハ屠殺セス而シテ價ハ一斤ニ付キ豚四十二錢半
四十五錢牛三十錢ヲ普通トス鶏(骨附)三十四錢鶏卵一個
四錢ヲ以テ時價トス此等家畜ハ皆地方農家ノ副業トシテ飼
養スルモノニシテ特ニ牛ハ五湖嘴地方ヲ以テ有名トス是レ
海岸ノ飼牛ニ便アルヲ以テナリ住家ハ地方貧窮ナルニ反シ
外見甚タ整然トシテ石造又ハ煉瓦壁ナリ是レ地方一般ニ石
材ノ供給豊富ニシテ煉瓦大ノ石片ハ新地層水成岩ヨリ容易

且充分ニ採得シ得ルノ便アルヲ以テナリ
以上ノ如キ生脈狀態ナルヲ以テ一人一ヶ月ノ生計費中流十
二圓下流六圓位ヲ要スト云フ元來支那人ハ世人ノ熟知スル
カ如ク一般ニ拮据勉勵粗衣粗食ニ甘シ蓄財ニ是レ日モ足ラ
サルノ有様ナルカ故ニ各州縣到處トシテ其ノ生活狀態ニ大
差ナキノ感アリト雖其ノ貧富ノ差餘裕ノ有無ニ至リテハ實
ニ霄壤モタ、ナラス殊ニ當復州人民ノ貧困ナル實ニ甚シキ
モノアリ思フニ復州ノ地タル元來農業本位ノ地タルニモ拘
ハラズ地質ハ前述ノ如ク礫確瘦乏ニシテ爲ニ其産出額ノ如
キモ他州縣ニ比シ三分ノ一ニ過キス凡滿州ノ上田ナルモノ
一天地(我カ六反二步六四)ノ産出額十石内外ナルニ復州ニ
在テハ僅カニ三石ニ過キサルノ有様ナルカ故ニ州内總産出
額ハ僅カニ以テ住民ヲ養フニ足ルノミ然レハ毎年ノ常例ト
シテ新米ノ市場ニ現ハレタル當初一、二ヶ月間ハ其ノ額稍
平靜ニシテ他地方ト較テ大差ナシト雖漸ヤク過キテ新年ヲ
迎ヘ二月三月ノ項ニ至リ稍騰貴ヲ示シ六、七月ノ交ニ至リ
テハ不足ヲ生シ供給需用ヲ充タス能ハス價額ハ騰貴ニ騰貴
ヲ重ネ遂ニ五割方ニ高騰スルヤ必セリト云フ
食物既ニ斯クノ如クニシテ交通不便ナレハ日常一般需用
品ノ缺乏騰貴ハ自然ノ數ナリ人民ノ窮乏亦知ルヘキナリ之
レヲ兵營ニ付テ聞クニ兵士一人ノ生活費一ヶ月遼陽地方ニ
在リテハ四圓内外ニシテ充分ナルモ復州ニアリテハ平均九
圓二十錢馬匹一頭飼養料約十圓ヲ要スト云フ而モ其ノ食物
タルヤ之レヲ遼陽ニ比スレハ數等ノ差アリ復州ノ農村ニ付
テ見ルニ農工用家畜ハ皆牛又ハ驢ナルノミナラス他州縣ニ

於ケル馬車ヲ牽クモノモ皆牛驢ニシテ馬驢子ハ殆ント之レ
ヲ見ス是馬ノ飼養ハ他ノ家畜ニ比シ費用大ナルカ故ナリ復
州ニ於テ馬一頭一ヶ月十圓餘ヲ要スト云フ彼等ハ勉メテ粗
末ノ飼料ヲ撰ヒ穀物ノ消費ヲ大ニ節約シツ、アルナリ豚鶏
ノ飼養ノ如キモ他州縣ニ比シ甚タ少數ナリ全ク飼料高價ナ
ルカ故ニ勘定ニ合ハサルカ故ナリ豚ノ需要モ他州縣ニ比シ
四分ノ一ニ過キサル有様ナリ

第四節 氣候並衛生

氣候ハ比較的温和ニシテ溫度ハ最低零下八、九、度最高四
十度内外ナレトモ是等ハ兩三日ニ過キスト云フ雨期ハ六、
七月ノ交ニシテ此ノ期ハ河川皆汎濫シ道路溼土深ク殆ント
交通ノ便ヲ絶ツ雪ハ多カラズ土地一般ニ高燥ニシテ風ハ年
中稍強キ方ナリ
衛生ニ關シテハ何等設備ナク巡警ハ管内僅ニ各所ニ分屯シ
衛生事務ヲ兼掌スルノ責アリト雖モ元來公衆衛生ノ觀念全
ク無キ清人ノ事ナレハ未タ何等ノ施設事項ヲ見ルヘキモノ
ナク復縣行政公署警察事務所内ニ衛生科ノ設ケアルモ未タ
一人ノ警察醫ヲ置カス僅カニ四人ヲ使用シ城内ニ於ケル道
路排水溝等ノ掃除ヲ爲サシムルニ過キス比ノ地ハ元來氣候
乾燥ナルノミナラス鷄、豚等家畜ノ飼育少ナキカ故ニ一般
都市ニ見ルカ如キ汚穢惡臭等甚タ少ク一般健康狀態ニ在リ
而モ交通不便ノ爲メ惡疫輸入ノ機會少キカ故ニ未タ何等恐
ルヘキ病疫ノ流行シタル事ナシト云フ

第五節 貿易

外國貿易ハ其ノ影ヲ見ルヲ得スト雖モ沿岸貿易ニ在リテ
ハ娘々宮、永寧洞、松木島ノ三港ニヨリ上海、芝罘、營口
ト相往來スルモノニシテ輸入品ノ重ナルモノハ棉花、棉糸
雜貨ニシテ總額凡十萬圓ニシテ其輸入割合ハ營口ヨリスル
モノ五割、上海、芝罘ヨリスルモノ五割ニシテ年々衰微ノ
兆アリ是レ沿岸ノ小港大船ヲ舶スルニ便ナラス年々港内ニ
砂土ノ洗推シテ益々寄港ニ不便ナラシムルノ實狀ナリ然レ
トモ是レ本城貿易ノ總額ニアラス尙別ニ陸路ニ由リ大連、
貔子窩經由ノモノアリテ芝罘、上海ヨリスルモノニ匹敵ス
而シテ是等陸路ヨリスルモノ其商勢逐年盛大ニシテ出入貨
物共ニ此陸路ニ由ルモノ近年益々多キヲ加ヘツ、アリ
今各港ノ狀況ヲ述ヘンニ永寧洞ハ復州城ノ西北五十清里ノ
地點ニシテ從來營口ヨリスル貨物ハ皆本港ヲ出入シタリシ
カ港内一小川ノ注クアリテ爲メニ漸次港ヲ淺クシ近年ニ於
テハ三四百石以上ノ船ヲ碇泊スル能ハサルニ至リシカハ當
港ノ商權ハ殆ト全部娘々宮ニ移轉スルニ至レリ娘々宮ハ現
時繁盛第一ノ港灣ニシテ海路ニヨル當州輸出入ノ九分迄ハ
本港ニ由ルモノナリ而シテ復州城ノ西南五十清里ニ位シ途
中一小坂アルノミ紅崖子ハ復州城ノ西方四十清里老古島ハ
同西北四十清里ニシテ馬車交通ノ便アリ此等諸港ヨリ輸出
スル重ナルモノハ高粱、包米約一萬五千石豆粕五萬枚落花
生十萬斤谷草十萬斤等ニシテ共ニ大連仕向ナリ而シテ此等

各港ヨリスル輸出ハ共ニ九、十二月間ヲ最盛リトス松木島ハ近年全ク衰微シ其ノ影ヲ存セス

第六節 商業及市場

復州管内市場ト稱スヘキモノハ復州城、瓦房店、得利寺萬家嶺及娘々宮ノ五ヶ所ニシテ此等ヲ中心トセル管内總取引高ハ大約三百萬圓内外ナリ管内各種稅捐局ノ徵收額大凡五萬四千圓内外ニシテ課稅率雜貨類ハ價額二分大豆類三分雜穀一分煙草燒酒類百斤ニ付一圓四十五錢山藥一龍八十五錢ノ割ニシテ尙此外五分ノ附加稅ヲ徵ス管内唯一產物ト目ス可キ農作物ニ就テ見ルニ穀類年額ハ大凡五十餘萬石ナルニヨリ之レヲ一石平均六圓ト見做シ三百萬圓ノ生産ナリ然ルニ百二十六萬圓ハ過半外部ヲ流出スヘキ性質ノモノニシテ三百萬圓ノ内ヨリハ尙住民毎日ノ食料費ヲ控除セサルヘカラサレハ管内一般ノ財政困難ナルコト推察ニ難カラズ輸入品ハ前述ノ如ク綿糸、綿布、石油、麥粉等ヲ重ナルモノトシテ營口、大連ヲ重ナル仕入地トス而シテ民船ニヨリ娘々宮其ノ他沿岸諸港ニ荷卸ス又陸路ニ付テ見ルニ蓋平、熊岳城、得利寺ヲ經テ馬車輸送ニヨルモノハ極メテ少量ナルノミナラス現今ニ至リテハ殆ント皆無ク妻ナルモ大連ヨリスルモノハ鐵道便ニヨリテ瓦房店ニ來リ該處ヨリ馬車輸送ニ依ルモノ逐年増加セリ而シテ其ノ街道ハ復州、魏子窩ヲ連絡スルモノニシテ復州輸入貨物中又魏子窩ヲ經過スルモノ少ナカラサルニヨリ本街道馬車ノ往來中々頻繁ナリ輸出貨物ノ重ナルモノハ高粱、豆油、豆粕、及鹽ナリ高粱及ヒ豆油ハ

皆民船ニ依リテ娘々宮ヨリ山東省ニ輸出セラル豆粕ハ水路ニ由ルモノト鐵道ニ依ルモノトノ二途アリ復州ヨリ娘々宮港迄豆粕一個四錢ノ運費ニシテ瓦房店驛迄ハ六錢ヲ要スルカ故ニ多クハ皆娘々宮ニ向フト雖モ娘々宮ハ民船ヲ泊スルノミナレハ遠ク海外ニ輸出セントスルニハ必ズ大連ヨリ汽船便ニヨラサル可カラサルカ故ニ此ノ分ノミ瓦房店ニ向フモノナリ而シテ此兩地ニ向フ豆粕ノ割合ハ八ト二ノ比ナリ高粱ハ娘々宮ヨリ輸出セラレ年額約一萬餘石ナリ此等高粱豆等ハ各港又ハ復州城内ノ雜穀問屋ヨリ人々各地方ニ派シテ買ヒ集メ大倉庫ニ藏メテ以テ外客ノ需要ヲ俟ツモノナル事敢テ他ト異ルナシ

第七節 工業及鑛業

工業トシテハ油房(豆油、豆粕製造業者)アルノミナリ其ノ數大小合計三十七戸内專業二十一戸兼業十六戸ニシテ原動機使用者ハ全部附屬地内居住業者ニシテ其ノ數十一戸アリ其ノ余ハ舊式ノ作業者ニシテ馬鐵ヲ驅ケ碾子ヲ廻轉シ碾子ニ臺搾子三臺ナルモノヲ最大トス一日ノ產出額平均豆粕四十枚ニシテ新式油房約二百枚ナリ一枚ノ重量我カ四十六斤ニ相當シ代價奉天票二元六七角ヲ以テ普通トス而シテ作業期間ハ一年中三月ヨリ六月迄及十月ヨリ十一月ニ至ル六ヶ月間ニシテ七、八、九ノ三ヶ月ハ原料豆ノ缺乏ノ爲メ十二、一、二ノ三ヶ月ハ豆油ノ搾取量少ナキカ爲メ休業ス而シテ復州ニ於ケル油房業者ハ十一戸全部舊式ノ作業ニ屬シ年產額豆粕約十萬枚豆油約四萬斤附屬地内大正七年末調

查ニ依レハ豆粕三十一萬七千九百個、豆油百四十一萬五千五百斤ヲ產出セリ

鑛業ハ本管内最有望ナルモノニシテ全管内到處鑛脈ノ存セサルナシ殊ニ炭脈ハ豐富ニシテ所々露出スル個所少カラズ金鑛モ亦少ナカラズト雖モ未タ精査ヲ經タルモノナシ以下順次稍々世人ニ知ラレタルモノニ付キ現狀ヲ略述スヘシ

第一款 砒子窩炭礦

砒子窩ハ瓦房店驛ヨリ東一里余リ距離ニシテ途上一小坂アリト雖モ馬車ヲ通スルニ難カラズ而シテ其ノ運賃ハ一噸一圓ナリ元來此地ノ炭坑ハ遠ク乾隆年間ノ發見ニ係リ時ノ地主李麟ナルモノ特許(龍票)ヲ得テ採掘ヲ始メタルニ起リ其ノ後二百年間絶エス土人ニ依リ少量宛採掘シ以テ附近ノ需要ニ應シ居タリシカ此地一度露國ノ占領ニ歸スヤ早クモ露人ハ大ニ當地炭礦ニ嚮望スル所アリ砒子窩ヲ租借地トシ瓦房店驛ヲ一等停車場トナシ兩地ノ間運炭鐵道ヲ布設スル等盛ニ經營ヲ施スニ至レリ是ヨリ先キ光緒二十四年十一月露國ノ技師長ビートンシン及技師ブリンコハ李氏ヲ威嚇シテ該炭礦ヲ占領シ各種ノ採掘機械ヲ据エ附ケタリシカ二十六

第二款 王家屯炭礦

此地前節砒子窩ノ南方二十餘町ニ位シ炭坑山腹ニアリ瓦房店驛ニ至ル三十丁通路ハ砒子窩ノ夫ト敢テ異ルナシ此ノ王家屯炭礦ハ往昔韓國領ナリシ際韓人ノ發見ニ係リ當時直チニ採掘ニ從事シタリシカ遇キ坑口陷落シ一坑夫爲ニ窒息死亡シタリシヲ以テ山神ノ崇リナリトシ採掘ヲ中止シテ以後

何人モ着手スルモノナカリシカ日露戦争後我利源調査員ノ爲メ再ヒ世ニ知ラルルニ至リ明治三十九年頃瓦房店驛勤務員森永傳太郎ナルモノ始メテ試掘ヲナシタルニ地下僅カニ數尺ニシテ炭脈ニ到着シタルニヨリ大ニ望ミヲ囑シ地主蘆景山ト土地租借契約ヲナシ探掘ニ從事シタルモノナリ然ルニ其後森永傳太郎ハ退清命令ヲ蒙リ又一方支那人ノ反對ヲ招ク等ノ事情ノ在スルアリ爲メニ事業ハ此處ニ頓座ヲ來シタリシカ其後引續キ交渉ノ結果森永傳太郎ノ父森永次郎助ト地主トノ間ニ更ニ探炭契約ヲ締結シ探炭ニ着手セシモ經營難ヲ來シ大正二年頃事業ヲ中止シタル後事業者ナク廢坑トナレリ聞ク處ニ依レハ目下大連居住支那人周文貴ハ之ヲ探掘ニ關シ運動中ナリト

今森永次郎助ト地主蘆景山トノ間ニ取り交セル契約書ヲ見ルニ左ノ如シ

契約書

- 一、本契約ニ於テ森永傳太郎代理森永次郎助ヲ甲ト稱シ蘆景山ヲ乙ト稱シ
- 一、甲ハ乙カ支那盛京省王家屯南山炭坑ノ内千世利干其德ノ所有地域石炭探掘權ヲ確認ス
- 一、右探掘權ハ乙カ本契約ニ違反セザル限リ永久ニ存續スルモノトス
- 一、探掘ノ石炭ハ已ニ採取シタルモノト今後採取スルモノトノ別ナク賣却ノ時支那斤量一千斤ニ付キ洋錢三十錢ヲ乙ヨリ甲ニ交附スルモノトス
- 一、該炭坑ニ要スル一切ノ經費ハ乙ノ負擔トス

- 一、乙ニ於テ石炭賣却ノ時ハ規定ノ金額ヲ甲ニ交附スルニアラサレハ運出スル事ヲ得ス
- 一、乙ハ探掘權ヲ他ニ讓與若クハ債務ノ擔保ト爲スコトヲ得ス
- 一、甲ハ本契約ニ基ク權利ヲ他ニ讓與シ若クハ擔保ト爲サントスル時ハ本契約ト同一條件ヲ添付シ且ツ豫メ乙ニ通告スルモノトス
- 一、乙ハ故意又ハ過失ニ依リ炭坑ヲ荒廢ニ歸セシメ其ノ他甲ニ損害ヲ及ボシタル時ハ甲及記名立會人ノ相當ト認ムル金額ヲ賠償セシムルコト
- 一、前記各項ヲ遵守履行スル確保トシテ本契約書四通ヲ作リ一通ハ瓦房店警務支署ニ提出シ甲乙各一通宛テ所持シ一通ハ立會人之レヲ保管ス

明治四十一年十二月十四日
光緒三十四年十一月二十一日

契約者甲 森 永 次 郎 助

同 乙 蘆 景 山

立會人 (日清人合五名略ス)

第三款 五湖嘴炭礦

五湖嘴ハ復州城ノ南六十清里瓦房店驛ノ西南九十清里ニ位スル半島ニシテ東西南ノ三面ハ海ヲ以テ包圍セラレ附近皆鹽田ナリ鎮區ハ東西七清里南北六清里ニ互ル之レヲ東西ノ二區ニ分チ各東拒西拒ト謂フ石塔ヲ建テ兩區ノ境界ヲ明ニス炭層厚キハ五、六十尺薄キモ二三尺ヲ下ラス地下二、三十尺ノ深サニアリ炭質ハ良好ナル無煙炭ニシテ多クハ粉炭

ナリ塊炭ハ十分一ニ過キス時價一噸十圓ヨリ二十圓ノ間ニアルヘキモ今ヤ探炭中止ノ姿ニアリ
此ノ炭坑ノ來歴ヲ按スルニ乾隆二十七年前記東拒ハ現在復州城東二十五清里居住陳柏昌祖先ノ探掘ノ特許ヲ得タルニ始マリ西拒モ同時ニ現在復州城北門外利春福ノ祖先ノ特許ヲ得タルモノナリ然ルニ西拒ノ票頭(特許權者)光緒一十五年礦區煙家山附近ノ池中ニ有望ナル炭層ヲ發見シ從來採用ノ舊式手掘ニテハ掘出シノ見込立タサルニヨリ露國商人「イウドフスキー」ニ資本投下ノ交渉ヲ整ヘ一方探炭機械ヲ据付ケ又一方坑口ヨリ南岸ニ至ル四十二鎮ノ間運炭鐵道ヲ布設スル等一時盛ニ設計ヲ施シタルモノナリ
東拒ニ在リテハ此ノ如キ有望ナル炭層ノ發見ナカリシカ故ニ自然放任シ居リシカ光緒二十七年ニ至リ一露國人ハ票頭隆柏昌ト交渉シ礦區租借契約ヲ成立シ其ノ條件ハ租借料初一年ハ一萬圓二年目ヨリハ毎年探炭額ノ十分ノ二ヲ票頭ニ交附スルコト、シ其ノ契約年限ヲ向フ二十五ヶ年トナシタリ然ルニ右露人ハ光緒二十八年右契約ニヨリ銀六千圓ヲ票頭ニ交附シタルノミニテ其ノ殘額及探炭分配ノ交附ヲ爲サス爲メニ票頭ト露人トノ間紛擾ノ絶エル事ナカリキ此ノ如クニシテ日露戰爭ニ及ヒ西區ノ露人ハ事業ヲ捨テテ旅順ニ避難シタルヲ以テ右票頭ハ此ニ於テ自己勝手ニ探掘ヲ爲シツ、アリキ次テ我軍此地ヲ占領スルニ及ンテハ我軍ハ其ノ探掘權ヲ支岐組ニ移サントシ陳柏昌ニ命ジテ露人トノ契約書ヲ提出セシメテ之ヲ沒收シ更ニ支岐組ト新契約ヲ訂結セシメタル結果三十年間ノ探掘權ハ支岐組ニ移リ報酬トシ

支岐組ヨリ陳柏昌ニ探掘額ノ二割ヲ分配スル事トセリ然ルニ其ノ後明治四十年前記露人ハ陳トノ契約書ヲ我都督府ニ提出シ所有權ノ承認ヲ起訴シタル結果此ノ露人ノ探掘權ハ私有財産整理委員會ニ認メラレ支岐組ノ探掘權ハ忽チ露人ノ手ニ移轉シタリ是ヨリ先又日本人櫻井豪ナルモノ露國人名義ノ下ニ同炭礦探掘ニ從事シタリシカ明治四十年ニ至リ本人ハ入營ノ爲メ歸國スル事トナルヤ石炭約百三十萬斤ノ販賣方及其ノ後探掘ノコトヲ孫新剛ナルモノニ委任シ一先ツ引揚ケタリト云フ此ノ日人ト露人トノ關係ハ果シテ如何ナルモノナリシカ知ルニ由ナシ櫻井ヨリ孫ニ交附セル委任狀ナルモノ今尙存スト雖露人ノ事ニ關シテハ何等ノ言明ナシト云フ然ルニ櫻井ノ引揚當時天津人王星恆ナルモノアリ嘗テ露人經營中坑夫頭タリシモノナリシカ此機ニ乘シ探掘權ヲ横取セントシ芝罘ノ豪商謙益豐ヲ資本主トシ名義主トシテハ露人妻度夫ナル者ヲ月俸三十八圓ニテ招聘シ一方十名ノ兵士ヲ雇用シ反抗者ヲ威服シタリ此ノ如クニシテ東拒ノ票頭ハ探掘權ヲ全ク奪掠セラレタルノミナラス探炭分配ヲモ受クル能ハサルニ至リタルカ故ニ陳柏昌ハ探掘權同取ノ訴訟ヲ奉天交渉ノ爲ニ提起シタルモ是亦敗訴シタリ依テ更ニ日本官憲ノ保護ヲ仰カント欲シ其ノ準備トシテハ先ツ日本トノ關係ヲ深クスルニ如カストナシ陳柏昌、鮑福泉、孫文林等ハ明治四十一年九月ノ間大連美濃町材木商秋田商會ニ探掘權ノ讓渡交渉ヲ開始シ同店ヨリハ實地視察員ヲ派遣シタリシガ契約不成立ニ終リタレバ陳等ハ更ニ大連飛彈町粟田新六等四名ニ交渉シ視察ノ上本人等ハ愈々探掘ニ從

事スルコトナレリ陳ハ現ニ龍票(特許券)ヲ所持スルノミ
ナラス一旦訂結セル露人トノ契約ハ露人ノ積務不履行ニ由
リ當然取消シ得ルモノト主張スルモ本件ニ付キテハ未タ確
然タル判決ナキヲ以テ從ツテ同人ノ權利モ未タ確定セサル
モノ、如シ

其後該炭坑ノ採掘權ハ大正五年七月露人斐度夫ヨリ支那人
馮旭升へ權利讓渡後大業公司ナル株式會社組織ノ下ニ經營
セシカ採掘方法舊式手掘ニシテ設備ノ不充分ナルト販路狹
少ナルトヨリ收益ヲ見ス大正七年ヨリ休業シ翌八年途ニ解
散ノ已ムナキニ至レリ其ノ後同地ニ於ケル有力者奉天省省
議員王書之ハ此採掘權收得ニ關シ運動中ナリト云フ要スル
ニ此地ノ炭礦ハ海運ノ便重大ナルノミナラス採掘ニ付テモ
困難少ナキヲ以テ小資本ヲ以テスルモ比較的多大ノ收益ヲ
見ルヲ得ヘシ

第四款 萬家嶺ノ金礦

當砂金嶺ハ萬家嶺驛ノ北方桃樹溝山ノ中腹桃樹溝村落一帶
ノ地ニシテ驛ヲ距ル事一里三十丁ナリ元來當地ノ砂金ニ富
メル事ハ夙ニ近郷ニ知ラレタル所ナレ共未タ大規模ノ採取
ヲ試ミタルモノナク單ニ地方土民又ハ旅行者カ時ニ採取ヲ
試ムルモノナリト雖其ノ結果常ニ不良ニシテ當地ノ砂金ハ
遂ニ風評ニノミ止マルノ狀態ナリシカ嘗テ露國カ滿洲經營
ニ着手スルヤ「エニセイスク」ノ某技師實地踏査ノ結果稍望
ミヲ囑シ試掘ヲ爲サントスル際恰モ日露開戰トナリ爲ノニ
其ノ計畫モ遂ニ實行ニ至ラザリキ其ノ後何等ノ消息モ傳ヘ
ザリシカ明治四十一年八月ニ至リ日本人遠藤長利ナルモノ

五、連家溝 同

東方約一里 東南方約十五町

等ハ重ナルモノニシテ現在採掘經營者若クハ大連多田組及吉
田組ノ兩組ニシテ現業監督ノ爲メ邦人五名ヲ試遣シ居レリ
石工約二百名ヲ使役シ作業ニ從事セリ大正八年採掘石材ハ
十萬四千五百餘ニシテ價格十二萬二千七百餘圓ナリ此等石
材ハ重ニ滿鐵沿線各地ノ建築用トシテ使用セラレ採石工一
日ノ賃銀ハ平均一圓十錢ニシテ冬期十一月以降ハ結氷期ニ
入り工事ヲ中止シ春暖ノ候ニ至リ作業ヲ開始スルヲ普通ノ
狀態トス

第七款 製鹽、石灰、煉瓦製造業

鹽ハ南海岸ニ於ケル特産ノ一ニシテ就中小島、白家口、羊
官堡、望海店、娘々宮ノ地方尤モ有名ナリ年產額約二十萬
石ニシテ販路ハ重ニ北滿地方一帶ニシテ田家、瓦房店等ノ
驛ヨリ鐵道ニヨルモノト民船ニヨリ營口ニ至リ北滿ニ向フ
モノト又營口ヨリ汽船ニヨリ浦潮ニ廻漕セラレ、モノトア
リ而シテ吉黑採鹽局備船タル一千噸級ノ汽船二艇ハ營口、
五湖嘴、小島、娘々宮間ヲ往復シテ鹽運ニ從事シ民船ニヨル
モノ極メテ稀ナリ而シテ浦潮行キハ單ニ復州産ノ鹽ニ限ラ
ス其他蓋平製鹽ヲモ輸出ス製法ハ天日製鹽ニシテ一回四、
五日又ハ六日ヲ要ス而シテ鹽田ハ一般ニ長方形ヲ劃シ周圍
ニ濠ヲ圍ラシ潮水ヲ貯フルニ備フ此ノ一劃縱五十六間幅十
五間ヲ普通トシ之レヲ鹽田(鹽塘、鹽池トモ稱ス)一副ト
稱シ鹽田計算ノ單位トス一副鹽田ノ產出額ハ上田二百石乃
至三百石中田二百石乃至二百五十石下田ハ百石乃至百五十

熱心ニ實地ヲ視察シ採取計畫ヲ立テ支那官憲ヨリ其ノ許可
證ヲ得タリシカ元來當地ハ水利ニ乏シク運搬ノ便亦乏シキ
ヲ以テ小資本ナル同人ノ起業不能ニヨリ所々資本金ノ調達
ニ奔走シタリシモ成ラズ遂ニ十一月初旬ニ至リ大連方面ニ
退去シテ事業ヲ放棄シタリ元來當砂金嶺ニ付テハ精密ナル
調査書ナキヲ以テ其ノ收益ノ有無速カニ判斷シ難シト雖少
量ノ砂金ハ常ニ容易ニ採取シ得ルヨリ推セハ更ニ精密ナル
調査ト熱練ナル技師ノ力ニ俟ツ時ハ將來決シテ無望ナリト
云フ可カラス目下ノ處其ノ地方住民カ降雨ノ際少量ノ砂金
ヲ採取スルノ外他ニ就業計畫ヲ爲スモノナシ

第五款 其ノ他ノ金礦

田家驛ノ西十丁林家屯ハ古來金礦アリト云ヒ傳ヘラレ全村
ノ岩石皆有色ニシテ一見礦産ニ富メルヲ思ハシムルモ未タ
正式ノ試驗ヲ經ス唯タ此等ノ岩石ハ金嶺ナリト土人ノ確信
スル處ナリ得利寺一帶ノ地亦金嶺ヲ賦スト云フ地表面ニ
ハ露出シタル處ヲ見スト雖其風説ニハ林家屯ヨリモ事口有
望ナリト云フ勿論未タ調査或ハ事業經營ノ計畫アルモノ
ナシ

第六款 花崗山

南滿ノ地遼東平島ニ近ク石山ニ富ム特ニ萬家嶺附近ハ良好
ナル花崗岩ノ產出多シ其ノ地名ヲ舉クレハ左ノ如シ
一、廟 溝 萬家嶺驛ヨリ東南約一里十五町
二、三臺溝 同 東南約三里
三、別家溝 同 約十三町
四、羅家溝 同 約十五町

石ナリト云フ而シテ鹽田ノ賣買價格ハ一圓九百元ヲ普通ト
シ一石ノ生産費銀三角餘ヲ賣價(諸稅ヲ除ク)約銀七角ニ
シテ約四百ヲ產出ス此等製鹽ハ支那舊來ノ方法ニヨルモノ
ナレ共是カ改良ヲ計ル時ハ收入現時ニ倍スルモノアル可
シトハ實地視察者ノ確信スル所ナリ石灰煉瓦ノ製造ハ瓦房
店附近大ニ盛ニシテ附近工事ノ需全ク瓦房店ニ於テ製造供
給スルモノニシテ外部ヨリ輸入ヲ用ヒス
煉瓦總計十個ノ中四個ハ現ニ作業中ナリ他ノ審モ小修繕
ヲ加フレハ直ニ使用ニ堪フヘシ當地ニ於ケル煉瓦製造費ハ
次ノ如シ、一審一回ノ製造高ハ一萬五千個乃至五萬個ニシ
テ日數ハ紅色煉瓦一週間黑色煉瓦五日間ヲ要シ燃料ハ一萬
個ニ付キ石炭四噸余リヲ要ス時價千個ニ付キ一等三十二元
二等二十八元ナリ而シテ土壤製造及詰メ込ミ取り出シ等一
審ノ人夫十名乃至二十名ニシテ一日工夫賃銀一元内外ナリ
石灰窯ハ三個アリ毎四日乃至七日ニ一審一回一萬斤乃至四
萬斤ヲ產出スヘシ一萬斤ヲ燒クニ石炭約一千斤ヲ要シ使用
人員六名内外ニシテ人夫一日ノ工賃銀一元ナリ石灰時價ハ
一千斤ニ付キ上物十二元普通物十元ニシテ石炭一千斤ノ價
格八十元ナリ

第八款 五湖嘴粘土事業

一、位置 奉天省復縣ニ屬シ復州城内ヲ去ル南方約六十清
里關東州普蘭店ニ至ル東方約五十清里瓦房店へ東北方約
八十清里ニシテ渤海灣ノ内海普蘭店灣ヲ狹ミ關東州ニ對
ス略々半島形ノ地ニシテ約二十餘個村ノ總稱アリ東南西
ハ内海ニ面シ共ニ鹽田アリ當地特産物鹽及粘土ノ搬出ニ

ハ多ク船便ヲ利用シ約千噸級ノ汽船ヲ入港セシメ得ルモ遠淺ニシテ航路狹ク入港汽船ハ積出揚ヨリ約十丁餘ノ沖合ニ碇泊ス此ノ外粘土ハ小戎克船ニヨリ關東州普蘭店及石河ノ沿岸ニ陸揚シ鐵道便ニヨリ大連或ハ奧地ニ輸送セラル

一、沿革 此地粘土ノ表土ハ元來支那人ノ手ニヨリ粗陶器ノ製造ニ用キ來リシモノニシテ耐火粘土トシテ採掘シタルハ南滿鐵道露國經營當時同國人カ當地ニ於テ耐火煉瓦ヲ製造ナシタルモ廣ク耐火粘土トシテ採掘搬出ヲ始メタルハ明治四十三年頃日本人某カ滿鐵試驗場ニ於テ該粘土ノ耐火度ヲ驗シ至極良好ニシテ從來品ニ比シ頗ル優良ナルト認メ採掘搬出販賣ヲ開始セシモノナリ當時ノ採掘事業ハ單ニ地主トノ間ニ粘土賣買契約ヲナシタルノミニシテ採掘搬出ヲ爲セシカ後鐵業條令ニ抵觸セルモノトシテ問題ヲ惹起セシ事アリ從ツテ採掘額モ僅少ニシテ年産額約千噸ニ及ハザリシモ漸次同業者ヲ増シ殊ニ歐州戰亂ノ影響ヲ蒙リ益々販路ヲ擴張シ大正六、七年ニ至リテハ年産額約五、六萬噸ニ達セリ現在ニ於テハ邦人ニヨリ經營セラレ同業者四戸アリ該粘土ハ主トシテ鐵業用熔鑪爐ノ構造ニ用ユル耐火煉瓦ノ製造ニ使用スルモノナレハ鐵業ノ盛ナルト共ニ益々發展スヘキモノナリ

一、泥質 泥質至極良好ニシテ世界無比ト稱セラル其耐火度約三十五六番ヨリ四十番以上ノモノアリ表土ニテモ二十五六番ニ達スルモノアリ

一、用途 用途ハ主トシテ耐火煉瓦ヲ製造スルノ外「シヤ

モット」モルタル」ノ原料トシテ耐火ノ用ニ供ス

一、販路 其ノ販路ハ產額ノ七、八分ハ當滿洲ニシテ其ノ他ハ内地ナルモ未タ外國輸出ヲ見ス

一、採掘其ノ他一般ノ狀況 該粘土ハ廣キ層ヲナシ其ノ厚サ約四五尺ヨリ八、九尺ニ至ル主ニ傾斜層ヲナシテ其ノ一端ハ外部ニ露出スルヲ以テ此處ヨリ漸次表土ヲ取り除ケツ、掘下クルモノニシテ未タ手掘ノミナリ粘土ノ價格ハ賣約金表土取り除キ金採掘及運搬賃等ニ依リ定マルモノニシテ傾斜層ヲ掘リ下クルニ從ヒ經費ノ増大ヲ來スカ爲メ現在ノ販賣價格ニ匹敵スルニ至レハ該層ノ採掘ヲ中止シ地層ニ移ルカ故未タ掘リ盡シタル層ナシ南滿鐵道株式會社ニ於テ視察報告スル所ニ依レハ粘土總額約九百九十萬噸ニシテ豐富ナリト稱セラル

一、人夫賃 人夫ハ全部支那人苦力ニシテ日給額ハ約銀五十錢ナリ

一、採掘量 年産採掘量ハ一定セス需要ニ從ヒ増減アリ大正七年度年産總額ハ約五萬噸ニ達セリ

一、使用人夫 使用人ハ一噸ノ採掘ニ對シ約七八名ヲ要スルカ故ニ年産總額ヲ五萬噸トスレハ延人員約三十五萬人ヲ使役スルノ有様ナリ

一、價額 價額ハ品質ニヨリ一定セサルモ現在ニ於テ當地渡シ一噸約六、七圓ナリトス

第八節 農業及牧畜

復州ノ地タル赫土礫礫ニシテ地味頗ル疲瘠シ上中下田ノ

差別アリト雖モ他州縣ニ比スレハ下田ニモ及ハス其ノ產額一天上田三石中田二石下田一石未滿ナリト云フ然ルニ他州縣ニ於テ上田平均十石ヲ產出シ得ルカ故ニ其復州ノ疲瘠セル想見ニ難カラス上中下田ノ反別比例ヲ算スルニ總耕地百四十萬五千七百七十畝中殆ント皆山丘ナルヲ以テ上田ニ算スヘキモノ三割中田下田合シテ僅カニ一二割ニ過キス故ニ總產額ハ約三十萬石ト見テ大差ナカル可シ又消費ヨリ見テ一人平均七斗トシ住民三十萬トセハ其ノ輸出五六萬石ト見做シテ加算スル時ハ合計二十六、七萬石ニシテ是亦產額三十萬石トシテ大差ナキカ如シ

耕作物ハ高粱ヲ第一トシ粟、包米、荳、蕎麥等は二次ク但シ復州城附近一帶ハ野菜ヲ主產物トス其額二十餘萬斤ナリト云フ次ニ地主ト小作人トノ關係ニ三様アリ一ハ地主ノ計算ニテ農作夫ヲ雇用スルモノ二ハ土地ノ貸與シテ小作人ヨリ小作料ヲ收ムルモノ三ハ地主ヨリ土地農具馬疋等ヲ給與シ小作人ハ耕作勞力ヲ提供シ兩者ノ協同耕作ニ由ルモノノ三是ナリ第一ノ場合農夫ノ給料ハ四十圓ヨリ七十圓ノ間ニアリ第二ノ場合ニアリテハ上田二石内外ノ小作料ヲ普通トシ第三ニアリテハ收穫高ノ四分ノ三ヲ地主、四分ノ一ヲ小作人ニ分配スルモノトス農夫一人ノ仕事額ハ十天地ヲ定メトス一天地ハ十畝、一畝ハ二百四十弓、一弓ハ略我カ一坪ナリ

土地ノ賣買價格ハ上田一天地奉天票五百元中田三百元内外下田百五十元内外トス然レトモ元來支那ノ風習トシテ土地家屋等不動産ニ付テノ賣買貸借ノ如キハ甚々稀ニ見ル處

ニシテ若シ必要ニ遇ヘハ「典」ナル方法ヲ用フ是抵當ニシテ貸借スルモノナリ是支那人ハ農業者ノミナラス商人ニ在リテモ比較的ニ永續的性質ニ富ムカ故ニ借地借家スルモノモ此ノ抵當方法ニテ使用契約ヲナスモ何等不便ヲ見出サザルナリ又不動産所有者ニアリテモ永年抵當ニ入ルル時ハ殆ント賣渡シト同格位ノ金錢ヲ得ルニ難カラスシテ一方土地家屋ヲ賣却スルノ不名譽ヲ荷フ事ナキヲ得又借主ニアリテモ永久ニ毎年一定ノ賃銀ヲ支拂フヨリモ一時ニ抵當貸受クル方反ツテ有利ナルニヨリ兩者共ニ便利ナルカ故ナリ復州ノ山ハ皆秃山ニシテ樹木アルヲ見ス而シテ耕地ニ乏シキカ故ニ復州ニ於テハ各山ノ頂迄モ開墾シテ耕地ニ用ユル有様ハ到底他州縣ニ見ル能ハス

管内外人ノ居留地トシテハ鐵道沿線ノ附屬地アルノミ面積管内沿線合計五千萬坪餘居住戸口大正八年末現在戸數一千六百十八戸人口七千四百〇三人邦人戸數六百五十五戸人口二千二百二十人支那人戸數九百六十三戸人口五千八百八十三人ニシテ漸次増加ノ傾向アリ復州ニテハ牛ヲ重ナル耕作作用トス驢之ニ次キ馬ハ甚多カラス是飼料高價ナルニ由ル獸疫ニ對スル検査豫防等ノ設備ナシ又屠殺場ノ設ナク食肉衛生全ク不完全ナリ牛馬ノ賣買ハ毎年六、七兩月最盛ニシテ月額四萬圓ノ多キニ及フト云フ而シテ此等ノ牛馬ハ皆管内各地方ノ產生ニ係リ他ヨリ來ルコトナシ牛馬稅ハ其賣買毎ニ價額百分ノ五ヲ徵收シ外ニ一分ヲ手数料トシテ徵收ス豚ノ賣買ハ二分ヲ徵スル事他州縣ト異ナラス賣買價格ハ馬上百八十圓中百二十圓下六十圓内外トス驢子ハ馬ト大差ナキモ

上等ノモノハ稀ニ二百圓ヲ越スモノアリト云フ半ハ上八十
五圓中五十五圓下二十圓内外ニシテ五湖嘴附近産ヲ以テ尤
物トス驢ハ上二十五圓中ハ二十圓下ハ五、六圓ニ下ル
邦人經營ノ農園ハ瓦房店、得利寺等ニ於テ重ニ鐵道附屬地
貸下ヲ受ケ約三四萬坪ノ面積ヲ有スルモノ九名アリ何レモ
包米、高粱、大豆、野菜等ヲ耕作シ相當ノ收益アリ殊ニ數
年前ヨリ果樹栽培熱勃興シ目下植栽樹數約二萬五千本ニシ
テ果樹ノ重ナルモノハ苹果、梨、水蜜桃ナリ現今多少果實
ノ收穫アルモ樹齡尙若ク未タ收支ヲ償フニ足ラス
右土地一ヶ年ノ借料ハ上地一坪三厘下地二厘ナリ

第九節 水産業並ニ獵業

特記スヘキモノナシ

第十節 金融並ニ度量衡

市場流通貨幣ハ奉天官銀號札、中國銀行交換券ヲ主トシ小
銀貨、奉天公濟市錢號銅元銅貨之ニ次キ一厘錢ハ漸次其ノ
姿ヲ沒シツ、アリ而シテ商賈發行ノ票子ハ盛ニ發シテラ
流通盛ナルモ手形(票子)ノ不渡又ハ破産等ニ由ル金融界ノ
恐慌ヲ惹起スル事ナク常ニ市場ノ平穩ヲ保チ得レトモ一方
ヨリ見ルトキハ市場ノ景氣上手形發行ノ必要ナク甚シク賣
買取引ノ沈滞ニシテ活氣ナキヲ知ルヘシ面シテ大取引ニ付
テハ常ニ現銀ヲ以テ計算スルモノニシテ此ノ銀塊相場ハ大
連相場ヲ基準トシ毎日一回早朝之レヲ開キ昂ヲ以テ其額ヲ
定ム昂ハ一厘錢百六十個ニシテ十六個ヲ一百ト稱シ十百ヲ

二四四

即チ一吊ト云フモノナリ一般ニ交換媒介物トシテハ昂其物
ニアラスト雖モ價格ノ尺度呼聲ハ常ニ昂ヲ以テスルモ此ノ
風潮ク衰微ノ兆アリ取引ハ銅元(銅貨)又ハ小洋錢(小銀貨)
ヲ換算シテ之レヲ爲スモノトス其換算率ニ至リテハ一定セ
スト雖モ左ニ其ノ概要ヲ述フル所アルヘシ
一圓 七吊、一圓銀貨ハ十錢銀十枚、十錢銀ハ一錢銅貨十
一枚ト一厘錢二枚故ニ一圓ヲ銅銀ニ換フル時ハ百十二枚ト
ナル一圓ヲ七吊ト換算セルハ理論上ノ事ニシテ事實一厘錢
ナルモノノ錢質大小善惡不同ニシテ七吊即チ一厘錢千百二
十枚ノ實價ハ不定ナルカ故ニ更ニ此ノ善惡質混同シテ計算
スル時ハ七吊ヲ改メテ九吊六トス是レ實ニ取引價格ナリ一
錢銅貨ハ一厘錢十四枚ナリ表示スレハ左ノ如シ
一圓銀貨 十錢銀貨 一錢銅貨 一厘錢
一圓 一枚 十枚 百十二枚 千五百三十六枚
而シテ一錢銅貨百二十枚、一厘錢千六百八十枚ニシテ十錢
銀貨一枚ハ銅貨十一枚ト二厘ナル故十錢十枚ハ銀貨百十枚
ト一厘錢二十枚ナリ故ニ悉ク之レヲ一厘錢ニ換算スルトキ
ハ千七百四十枚トナル此ノ如ク彼此交換額ニ於テ差異ヲ生
スルモノアルハ全ク一厘錢ナルモノノ大小善惡等ニ依ルモ
ノトス元來復州ハ商取引不活潑ニシテ手形ノ發行等殆ント
無ク他所向キ爲替ノ如キ到底取組メノ方法ナク商人ハ商品
ノ需要ニ度シテ其ノ都度現銀ヲ携帶シテ仕入元ニ行カカ或
ハ隨時商品ヲ注文シテ年末一回現銀ヲ持テ勘定ヲ行フモノ
ニシテ其ノ不便甚クシキモノナリ

第十一節 交通及通信

復州城ハ南滿鐵道線ヨリ西六十清里海岸ヨリ東四十清里ノ
内地ニ在リ然モ管内到所丘陵河川多ク交通不便ナリ瓦房店
ヨリ荷馬車ヲ通スヘシト雖四五ヶ所ノ坂道アリテ一臺二千
斤以上ノ運搬力ナシ且馬車道ハ急坂ヲ避クル爲メ迂回スル
ヲ以テ人道ニ比シ十五六清里ノ遠距離ヲ踏マサルヘカラス
然レトモ本街道ハ瓦房店ヨリ東魏子窩港ニ直通スルヲ以テ
馬車ノ往來稍頻繁ナリ復州城ヨリ得利寺ヲ經テ熊岳蓋平ニ
通スル一線亦馬車ヲ通スヘシト雖モ一急坂アリテ運輸ニ便
ナラス復州城ヨリ西南五十清里娘宮ニ通スル道路ハ馬車
ノ往來最モ頻繁ニシテ輸入貨物ノ過半ハ本道ニヨルモノト
ス然レトモ一小坂ヲ越エサルヘカラスハ地形上止ナキ處
ナリ前述ノ如ク復州管内ハ馬ヲ飼養スルモノ少ナキカ故ニ
馬車ノ數甚タ少ナリ大約合計三百餘臺ニ過キス牛車約一千
臺アリ皆鐵輪ヲ嵌ム地方農家ノ馬車ハ普通馬車ト異リ車輪
ニ鐵輪ヲ嵌メサルモノニシテ遠路ノ運搬ニ用ヒス單ニ耕作
地ト農家トノ間ノ往復用ニ止マリ之レヲ牽クモノモ亦牛驢
等ヲ使用シ馬ヲ用ユルモノ少ナシ最近復州城内瓦房店間自
働車ヲ往復セシムルノ計畫ヲ爲シシモノアルモ實現不能ナ
ルモノノ如シ
海港ハ良好ナルモノ少ナシト雖一般ニ海岸線ハ出入ニ富ム
カ故ニ到ルトコロ船ノ碇泊ニ適ス而モ山東直隸ノ沿岸ト相
對スルヲ以テ海運ノ便甚タ備ハレリト云フヘシ唯復州ハ商
業地ナラサルヲ以テ未タ大船巨舶ノ輻湊スル港灣ノ發展ヲ

見サルノミ若シ一朝必要ニ迫ル時ハ決シテ港灣ノ乏シキヲ
憂ヘサルヘシ
鐵道ハ管内ノ中央ヲ縱斷スルヲ以テ運輸ノ便至大ナルト云
フヘク地方ニ輸出セラルル鹽ノ如キハ多ク鐵道便ニ依ルモ
ノニシテ從前ノ如ク營口ニ輸出シテ更ニ營口ヨリ北方ニ馬
車ノ返リ品トシテ積出サルモノ漸次減少シツ、アル姿ナ
リ其ノ他石材ノ如キハ專ラ鐵道ノ便ニヨリ發展スルモノナ
リ此外鐵道便ニヨリ輸出セラルルモノニ豆粕アリ元來豆粕
ハ產出多カラシテ皆娘宮ヨリ民船ニヨリ山東省ニ輸出
サレ來リシカ近年漸ク日本ニ輸出サル、ニ至ルヤ汽船便
ニ依ルノ必要上一旦瓦房店迄馬車運送シ是ヨリ鐵道便ニヨ
リ大連ニ運輸サルモノ有ルニ至レリ復州城ヨリ娘宮迄豆
粕一個運賃四錢ニシテ瓦房店迄六錢ヲ要ス鹽ハ田家驛又ハ
瓦房店ヨリ鐵道ニヨリ東北滿洲ニ輸出セラル、外民船ニヨ
リ直ニ營口ニ輸入セラレ更ニ一方陸路北滿ニ行クモノト一
方汽船ニヨリ浦潮ヲ經テ西北利亞内地ニ向フモノトノ別
アリ
郵便電信等ノ通信機關トシテ復州城内ニ二等郵便局アリ娘
宮ニ代理店一アリ瓦房店ト復州城諸官衙間ニハ電話直通
ト瓦房店舊市街ニハ電話交接受局アリ從來ニ比シ稍、便益ヲ
得タルモ設備未タ充分ナラス鐵道沿線ハ皆我郵便電信ニヨ
ルモノナリ官衙公文書ノ送達ノ如キハ其ノ都度特使ヲ派遣
スルモノナルカ故其ノ不便甚クシト云フ可シ

第十二節 公私ノ施設

二四五

一、復縣公署 在城內
 二、審判廳及検査廳 同
 三、鹽務局 同
 四、復州城守尉 同
 警察事務所 (城內) 巡警數 馬數
 復縣警察第一區 (永寧洞) 三三三 二〇
 同 第一分駐所 (馬家岑) 二二二
 同 第二分駐所 (松樹) 二二二
 同 第三分駐所 (泉水村) 二二二
 復縣警察第二區 (劉家屯) 三三六 二
 同 第一分駐所 (娘々宮) 二二二
 同 第二分駐所 (五湖嘴) 二二二
 復縣警察第三區 (瓦房店) 三三六 二
 同 第一分駐所 (小寺廟) 二二二
 同 第二分駐所 (真武廟) 二二二
 復縣警察第四區 (一拉塔) 三三六 二
 同 第二分駐所 (四平街) 二二二
 合 計 四〇六 二八
 五、復縣警察隊 員數 馬匹
 復縣警察隊 (瓦房店) 四二 二〇
 同 第一分隊 (李家村) 二二 一
 同 第二分隊 (老爺廟) 二二 一
 同 第三分隊 (八家碾子) 二二 一
 同 第四分隊 (韭菜園子) 二二 一
 計 一三一 二四
 六、復縣巡防隊 在城內
 巡防員二名馬匹二十五頭アリ皆歩兵トス以上ノ外自衛上警防機關トシテ保甲團ナルモノヲ組織セリ此等警察軍隊等事務分掌ノ區別明瞭ナラス單ニ地方彈壓盜賊拿捕ヲ其職トスルニ過キスシテ高等警察衛生警察等ニ對シテハ何等效果見ルヘキモノナシ
 七、學堂 (城內七個アリ)
 高等學堂 一 生徒數 三百名
 中 學 堂 一 同 百名
 師 範 學 堂 一 同 百名
 僧 立 學 堂 一 同 百名
 九 旗 學 堂 一 同 百名
 初 等 學 堂 一 同 四百名
 女子 (高等、中等、初等) 學 堂 一 同 百九十名
 此ノ外管内各地ニ初等學堂ヲ有シ教育ノ普及ヲ獎勵セル結果漸次就學者ヲ増シツツアリ
 元來復洲ノ地タル土地貧困ナルカ故ニ地方繁榮策ハ名人土ヲ頼テ熱心ニ精究セラレツツアリ而シテ其ノ有力家ノ意見トシテハ先ツ學ヲ起シ蒙ヲ開キ文明ノ道理ヲ闡明シ實地ノ經驗ヲ得テ以テ殖産興業ノ實ヲ學クルニ如カスト爲シ現ニ奉天勸業道ノ指導ニ遵ヒ耕地改良山地植林ノ法ヲ講シ奉天農林學堂ニ學生ヲ留學セシメタリ是等學生ノ卒業ヲ俟テ復洲ニ農林實習所ヲ開キ廣ク地方有志ノ子弟ヲ招致シテ實地講

習ヲ爲シ以テ一般實業ノ基礎ヲ樹立セントスルモノノ如シ
 八、商業會議所(商各分局)
 復洲城ノ内外商業團體ノ會議所ニシテ當時ハ物價及貨物ノ輸入需用供給等ヲ研究シツツアリト雖其ノ實績未タ擧ラヌ僅ニ毎日ノ銀塊相場其ノ他諸物價ノ製表等ヲ事トスルニ過キス
 九、稅捐局
 復洲稅捐局ハ蓋平稅捐總局ノ分局ニシテ製鹽地ニ於ケル鹽務局ヲ除クノ外城內紗包子、松樹、風房店、松木島、娘々宮ノ六ヶ所ニ分カアリテ輸出入諸物貨ニ對スル諸稅捐ヲ徵收セリ其ノ稅率ハ銷場稅二分、出產稅一分五厘、穀物稅ハ出入共ニ一分但大豆ハ三分、牛馬稅五分、鹽稅二分五厘、猪稅二分、羊稅一頭ニ付キ五毛ナリ
 十、病院 ナシ
 十一、教會
 耶蘇教會堂一ヶ所アルモ信者少ナク又外人宣教師ノ居住スルモノナク甚タ振ハス
 第十二節 土地家屋ノ賣買並ニ 賃貸借價額
 土地上田一天地五百元中田三百元下田百五十元内外ナルモ市街地ニ於テハ稍高シ家屋ノ賣買ハ其ノ構造ニヨリ差異アルモ一間房風房子百五十元草房平房九十元内外トス家屋ノ賃貸借ハ市街地ニ於テ一間房一等三元二等一元五角三等七角ナリ

第十四節 勞働者並ニ婢僕ノ賃銀

大工、左官、鍛冶等技術ヲ有スル職工一日ノ勞銀ハ八九毛日雇勞銀ノ如キモ一日五角ニシテ食事ハ自分持チナリ商家ノ傭人ハ何レモ徒弟タリ其ノ他官衙ノ衙役日本人雇傭ノ支那人ハ月給十元内外ニテ普通トス

第十五節 物 價

物價左表ノ如シ(大正八年十一月調査)

品 目	單位	價格
糯米	一斗	六、〇〇〇
小 米	同	三、二〇〇
大 米	同	二、〇〇〇
小 麥	同	三、〇〇〇
大 麥	同	三、〇〇〇
蕎 麥	同	三、〇〇〇
高 粱	同	一、二〇〇
精 高 粱	同	一、七〇〇
麥 粉	一袋	五、〇〇〇
蕎 麥 粉	百斤	八、〇〇〇
食 鹽	一石	一四、〇〇〇
燒 酒	一斤	二四、〇〇〇
羊 肉	同	三五、〇〇〇
牛 肉	同	二五、〇〇〇
石 灰	百斤	八、〇〇〇
黃 豆	同	二、四〇〇

芝	同	三、一〇〇
香	一斤	四〇〇
豆	同	二六〇
石	一箱	一〇、〇〇〇
石	百斤	一、二〇〇
木	同	三、〇〇〇
薪	同	一、〇〇〇
砂	一俵	三、〇〇〇
豚	一斤	三、五〇〇
雞	同	二、八〇〇
鹽	同	二、〇〇〇
洋	一疋	七、五〇〇
土	同	七、八〇〇
棉	一斤	一、〇〇〇
煉	百個	一、四〇〇
瓦	百枚	七、〇〇〇
石	一車	一、六〇〇

第十六節 邦人ノ着眼スヘキ事業

以上ノ如キ形勢ナルニヨリ何等有望ナル事業ヲ見ス鑛業ニ至リテハ獨リ稍々矚望スルニ足ルト雖モ事未タ精査ヲ行ハサルモノ多キカ故ニ速ニ其ノ手段ヲ講シ難シ從來支那政府ノ方針トシテ鑛山ノ調査ヲ嚴禁シ來リシカ故ニ鑛山ニ關スル支那人ノ智識甚タ幼稚ニシテ少シク斯道ニ經驗アル人ニ遇ヘハ自由ニ説破サルル狀態ニ在ルヲ以テ利權ヲ事前ニ占

有スル事ヲ得ルハ容易ノ業ニシテ苟モ忽諸ニ附ス可ラサルナリ
其ノ他些細ナル事業ニ付テ見レハ地方ハ機械業盛ナラス又染工ノ方法其宜シキヲ得サルヲ以テ原料藍ノ安キニ拘ハラス染物類ハ甚タ高價ナリ又衛生思想乏シク偶一二開業醫アリト雖モ何レモ漢法ニシテ其用藥草根木皮ナレハ其奏功甚タ少シ故ニ邦人ニシテ藍ヲ耕作シ染物屋ヲ開キ賃機ヲ織リ木綿ノ製造ヲナシ兼テ醫術賣藥ヲ業トスル時ハ漸次土地ノ發展ニ伴フテ新事業ノ利益ヲ掌握スル事ヲ得ヘク柞蠶ヲ原料トスル各種製造業並ニ水田事業ハ共ニ有望タルヲ失ハス唯恐ルル所ハ何事業タルニ拘ラズ支那人ノ生活程度吾人ニ比シ甚タ低キヲ以テ凡テ生産費ヲ節約シ得ルノ一事ニアリ是レ吾人ノ競争上最モ注意スヘキ點ナリトス

第四章 錦州府

第一節 地勢面積人口及職業ノ大要

錦州府ハ錦縣、北鎮縣、義縣、與城州、綏中縣、權民廳、鎮江縣ノ七州縣ヲ管轄シ東ハ遼河流域ニ連リ南ハ全面海ニ濱シ西北兩邊ハ邊疆ヲ以テ直隸及蒙古ニ接ス地勢山岳沼川ニ富ミ邊疆川脈ヨリ緩漫ナル勾配ヲ以テ海岸ニ向ツテ傾斜シ而モ其ノ傾斜面自身ハ東ヨリ西ニ向ツテ十數級ノ波狀ヲ成シ邊疆山脈ト直角ニ交叉シナカラ遼河水域ヨリ南スルニ從ツテ漸ク高ク山海關ヨリ北スルニ從ツテ亦漸ク高ク管内

中央部錦州城附近ニテ兩高程相合致スルモノノ如シ地質ハ「リーズ」層ニシテ一見黃色灰燼ノ推積セルカ如キ觀アリ彼ノ風ナクシテ十丈ノ紅塵ヲ漲ラシ雨アリテ三尺ノ泥濘ヲ布クモノ由來北清地方ノ特徵ニシテ此ノ地方モ亦其ノ例ニ洩レサルヲ見ル故ニ勢ヒ數多ノ川沼其ノ間ニ生シ波狀ヲナセル土地ノ四部ハ皆此等ノ川沼ノ底ヲナスモノナリ然モ此等河川タル多クハ平常水涸レテ徒ラニ夏季雨水ノ流溢ノ跡ヲ認ハシムルニ止マリ稀ニ常ニ流水アル河川アルアリト雖モ水深ク砂洲河幅ノ半ヲ填ムルノ有様ニシテ管内最長最大ナル大凌河ノ如キスラ尙全ク舟楫ノ便ヲ缺ク
面積ハ東西五百清里南北二百清里ト稱スルノミニシテ正確ナル反別數目ヲ知ルコト能ハス從テ山地田畝ノ區別廣狹等據査スルニ由ナキモ管内一體ニ平野ニ乏シク全ク平丘陵地ニ屬スルヲ以テ平地ト山岳トノ比例ハ相半スト看テ大差ナカルヘシ且ツ堤防ノ設ナキ河川ハ縱ニ此等平野ヲ侵蝕スルカ故ニ耕作地ハ蓋シ廣大ナラサルヘク殊ニ良田ノ如キハ極メテ稀少ナリト思科セラル
錦州市ハ北緯四十一度二十一分四十五秒東經百二十一度十二秒ノ地點ニ在リ小凌河右端ニ位シ京奉線ヲ境ニ東西北方一帶里餘ニシテ蜿々長蛇ノ如キ無名山岳重疊シテ錦州ヲ覆ヒ遠ク邊外ニ通スル幾條路アリ往々急峻ナルモ漸次鐵路ニ接近スルニ隨ヒ傾斜シ來リ起伏ノ平野之ナリ鐵路以南小凌河畔一帶ハ地形緩除ニシテ概ネ平地ナルモ時ニ波狀ノ谿谷アリ城ノ半ハ西南一帶弓狀ヲナシ小凌河ニ包擁セラレ茫漠タル平野三十餘里ヲ隔テ渤海ニ相對ス遠ク營口驛ヲ隔

ル九十七哩奉天二百四哩ニシテ山海關百十四哩アリ當地ハ遼西中而モ京奉線鐵路線中屈指ノ都市ニシテ常ニ殷盛ヲ極メツツアリ
當錦州ハ遠ク秦漢時代ヲ起源セル都市ナルヲ以テ其ノ周圍ヲ繞レル城壁ノ如キハ頗ル不規律ナル狀ヲナス即チ明ノ漢武二十四年指揮曹某命ヲ奉シテ舊來ノ城壁ニ一大修築ヲ加ヘ周圍五支里三百二十步高サ二丈五尺トナセリ次テ成化十二年都指揮王鎬増ナル者更ニ南北四十五丈東西九十五丈ヲ展張シ弘治十七年時ノ參將胡忠併ナル者各門ノ一部ニ修繕ヲ施シ形ヲ變シテ若盤(圓形)トナセリ故ニ俗ニ盤城地ト稱ス又周圍ヲ七里五百七十三步濶サ三丈五尺深サ三丈七尺ニ改メタリ今日ノ城壁ハ即チ之レナリ四方ニ城門各一門宛アリ東門ヲ寧遠南門ヲ永安西門ヲ廣順北門ヲ鎮北ト稱ス
市街ノ中央ニ鐘樓アリ各門ニ大道ヲ通シ東街、西街、南街、北街ト稱ス、道幅狹隘ニシテ常ニ雜沓ヲ極ム東西ノ二丈街ハ大商賈櫛比シ最モ繁華ナリ日商陳列館ハ東街路北ニ在リ南北大街ハ茶舖、雜貨店多クシテ整然タルニ街衢ハ雜鬧シ東西街ニ及ハス此街鐘樓附近ニハ日支合辦ノ正隆銀行支店アリ
錦州ハ前記ノ如ク城圓比較的狹隘ナルヲ以テ各城門外ニ大ナル發展ヲナシ就中東西兩關ハ最モ繁華ナリ東關ハ穀物商多クシテ錦州ニ販運セラルル穀類ノ大半ハ此處ニ集來ス西關ハ小凌河ヲ界シ河西河東ニ分タル河東ハ磁陶器舖皮店等多ク河西ハ雜穀商多ク共ニ蒙古方面ヨリ來ル特産物ノ集散地ナリ北關ハ牛馬ノ市場タルモ他ハ製紙木等多キニヨリ比

較的活氣ヲ缺ケリ南關ニハ遊廓アリ苦力ヲ集合スル處ニシテ多數ノ露店見世物等相集リテ常ニ雜沓ヲ極ム
人口ノ如キモ未ダ精査シタルモノ存セサルヲ以テ其ノ實數固ヨリ知ルニ由ナシ錦州城内外ノ人口ハ城内三、城外七ノ割合ニシテ支那人側ハ精確ナル統計ノ示スモノナキモ大略左ノ如シ(大正八年八月末調査)

種別	戸數	人口
日本人	六七	一九五
外國人	三	九
支那人	一一、〇〇〇	六〇、〇〇〇
合計	一二、〇七〇	六〇、二〇四

備考

日本人中ニハ朝鮮人戸數九、人口十九ヲ含ミ外國人中主ナルハ英國人ニシテ佛國人戸數一、人口一ヲ含ム
職業比例ニ付テハ在留邦人ハ殆ント商ニシテ外國人ハ宣教師及鐵道從事員ニシテ支那人ノ割合ハ商六、工四ノ割合ナリ

第二節 管内ノ特長

管内ノ特長トシテハ雜穀產出ヲ除クノ外他ニ何等著名ナルモノナシト雖遼西一帶ニ於ケル鑛山、邊境山地ニ於ケル果實ノ如キ聊カ説明ヲ要スルモノアリ後段各項目ノ部ニ譲ラン

第三節 衣食住ノ狀態

料タル洋線ハ大部分日本産ニ仰キ土人自ラ紡ケル土線ハ一部分ニ過キス洋線ノ産地輸入經路ハ洋布ト同シク土線ハ都テ義州ニ産スル棉花ヲ用ユ洋線ト洋布トノ輸入額ハ相匹敵ス
帽子ハ羊絨ヲ以テ作りタル半球形ノモノヲ普通トス毡帽ト稱シテ代價一個二十五錢ヨリ三十五錢内外ナリ稍上等ナル帽子ハ鼠類ノ毛ヲ以テ製シ帽線ヲ折り返シトナシ防寒兼用ニ供スルモノニシテ一個一元乃至二十元内外ヲ普通トス靴ハ布製ヲ最モ多トシ皮製ノモノハ雨天用長靴ニ限レリ而シテ支那人ノ性質トシテ雨天ニ外出ヲ嫌ムカ故ニ皮製靴ハ販路甚タ狭少ナリ地方労働者ハ「ウラー」靴ト稱スル一種ノ防寒靴ヲ使用ス牛皮ノ粗製短靴ニシテ靴ノ内ニ「ウラー」草ノ乾燥セルモノヲ填メテ温ヲ保タシム靴ノ價ハ布製短靴九角アリ編揚製一元四毛位マテ同長靴ハ三元九毛ヨリ五元八毛位ニシテ皮製ノモノハ十八元乃至三十元内外ヲ普通トス「ウラー」靴ハ二元五角ヨリ三元位マテナリ以上ハ男子用靴ナルカ女子ハ多ク外出セサルカ故ニ多ク布製短靴ヲ用キ偶ニハ皮製ノモノモ見受ク形狀ハ纏足ノ爲メ甚タ異狀ヲ呈シ恰モ兩端ヲ斜ニ切りタルハ竹筒ノ如キモノナリ材料ハ布絹油等ニシテ其ノ甲ニハ華美ナル繡文ヲ施セルモノ多シ靴ハ皆城内靴舖ヲ製作ニ係ルモノニシテ年々流行ヲ模倣ス元來靴ヲ作ルコトハ支那婦人ノ主要ナル職務ノ一ニシテ夫ノ靴ト自分ノ靴トヲ作り得サル者ハ恰モ邦婦人ノ裁縫ニ熱セサルト均シク耻辱トセラル故ニ其ノ日常穿ツモノハ皆自家製ニ限ラレ居リ特ニ婦人靴ノ如キハ慣習上之レヲ他人ニ見ラ

衣服ハ男女共四時多クハ綿布ヲ用キ袖ヲ用ユルモノアレ共中等以上ノ小數者ニ限ル染色ハ十中八ハ紺、淺黃、水色(彼等ノ呼ビ名稱ニ從ヘバ青、毛藍、干藍)ハ無地ニシテ飛白又ハ模様付キハ十中一ニシテ他ノ一割ハ白色ナリ綿布ニ至リテハ其ノ種類頗ル豊富ニシテ地合概シテ華美ナリ然レ共之ヲ常用ニ供スル者ハ極メ稀ニシテ單ニ上流社會人婦人等ノ外出用衣服ニ用ユルニ過キス冬期ハ防寒ノ爲ニ皮襖ト稱スル長衣ニシテ毛皮ノ裏附ケシタルモノヲ着ス其ノ表ハ木綿ヲ用キ裡面ニ羊皮ヲ附スルヲ普通トス中等社會モ概シテ羔皮ヲ用キ其ノ裏皮ヲ附スルカ如キハ殆ント見サル所ナリ此等毛皮ノ價格ハ年ニ依リ一定セサルモ羊皮概テ六七元ヨリ二十二三元迄羔皮十七元ヨリ五十五元内外ナリ羆皮ニ至リテハ百二十元ヨリ三百元内外ヲ普通トス此等ノ毛皮ハ皆邊外蒙古地方ノ産ニシテ一度大商人ノ手ニ依リテ張家口ニ集リ更ニ山海關ヲ迂廻シテ輸入セラルルモノニシテ直接邊門ヲ入り來ルモノハ産地稀ナリト云フ棉布ハ洋布、土布ノ二種アリ洋布ハ天竺本綿、金巾(袴連布其布)ヲ重大ナルモノトシ一尺ノ價二十錢アリ三十錢内外アリ其ノ花模様アルヲ花洋布ト稱ス吳服類ハ凡テ他地ニ比シ稍々高價ナリ衣一枚ヲ作ルニ七尺ヲ要シ衣袴共ニ一丈三尺位ヲ要スト云フ土布ニ大巾物、小巾物ト別アリ大巾物ハ一尺三寸小巾物ハ一尺ナリ價ハ洋布ト大差ナシ洋布ハ元英國產獨占シ居リシモ歐洲戰亂ノ結果輸入途絶シ現今ニ於テハ全部日本産ノ物ニシテ其ノ輸入經路ハ營口ヲ第一トシ天津、秦皇島、奉天等之ニ亞ク土布ハ土人ノ織ルモノニシテ其原

ルスヲ婦人ノ耻辱トスル處ナルカ故ニ其ノ之ヲ作ルヤ必ス自家用ニ於テスルモノナリ故ニ城内外數個ノ靴店アリト雖女靴ハ陳列シアルハ男靴ニ比シ割合ニ少シ
食物ハ上中下ヲ通シテ大差アリ常食ハ主ニ高粱米ニシテ副食物ハ白菜、大根、味噌、豆腐、馬鈴薯、葱等ニシテ稍々上流ニ至テ牛、豚、羊等ヲ併用スルニ止マル故ニ普通ニケ月六七圓ヲ有スレハ糊口シ得ルト云フ上流官紳等ノ食物ヲ見ルニ高等ナルハ支那米又ハ粟等ニ鶏肉卵其ノ他ノ肉類トヲ用ユ又自麵ト肉類ニテ製シタル餃子(肉餡頭)ヲ用ユルカ如シ肉類ノ消費額ハ屠獸場其ノ他ニ付キテ見ルニ概テ一ケ年牛四千九百餘頭豚九千餘頭羊五千餘頭ヲ屠殺シ夏期ハ豚及羊ノミニテ牛ハ屠殺セズ秋期九月初旬頃ヨリ屠殺シ六月初旬ニ停屠ス是等豚羊ハ地方農家ノ副業トシテ飼養スルモノニ係ル牛ハ蒙古產ヲ最モトス其ノ小賣リ相場ハ牛肉一斤二十錢ヨリ二十六錢位豚肉二十五錢ヨリ三十錢位羊肉ハ二十二錢ヨリ二十五錢位ナリトス
家屋ハ土壁瓦石等ヲ以テ建築セラレ木造ノモノニ至リテハ少シ蓋シ此地方ハ木材乏シキヲ以テ凡テノ家屋ハ木材使用ニ付キテハ甚タ節減ヲ加ヘタリ室内ハ寒國ニ普通ナル「ランドロ」式ニシテ床ヲ用ヒス此ノ「ランドロ」燃料トシテハ多ク高粱稗ヲ以テ最上等トス一タ三捆ヲ焚ク時ハ優ニ製朝マテ暖氣ヲ保チ得高粱稗一捆ノ價ハ二錢五厘内外ナリ建築用木材ハ安東縣ヨリ廻送セラルル鴨綠江材ニシテ從前ハ營口ノ木材商ヲ經テ其ノ供給ヲ仰キシモ方今ハ城内外ニ木材商多數開店セルヨリ鴨綠江材ヲ直接搬送シ來ルカ故

ニ價格ハ比較的ニ安價ナリト云フ左官、大工等ノ工賃ハ日々食料備主持ニテ三十錢乃至五十錢位ニシテ人夫賃ハ三十錢ヲ普通トス

第四節 氣候竝ニ衛生

錦州地方ハ北緯四十一度二十一分四十五秒東經百十一度七分十二秒ノ地點ニ在リ一年中秋期ヲ除ク時ハ概テ烈風多ク黃塵ヲ飛ハシ天地爲メニ晦冥咫尺ヲ辨セザルコト屢々アリ雨雪ノ量ハ大陸的ニ三塞四温ノ影響ヲ受クルコト多ク一體ニ乾燥セル方ナルモ夏期ハ比較的雨量多ク又冬期ハ數回ノ降雪アルモ其ノ推積寸餘ニ及フコト稀ナリ最モ冬期ニ於テハ攝氏零度以下二十四、五度ニ降リ其ノ最モ酷烈ナルハ一月中旬ヨリ二月中旬ノ間トス春期ニ至レハ一般氣温急速ニ上昇シ草木ノ如キモ一時ニ發芽シ間モナク開花スルニ至ル又六七月ノ候ニ至リテ氣温著シク上昇スルニ伴ヒ水量漸次増加シ七八月ノ候ニ至リテ氣温ハ八月ニ至リ最モ高ク攝氏三十四五度ニ昇ル此ノ高温ハ晝間ノ少時ニ止マルヲ以テ人身ニ大ナル苦痛ヲ感セシメス同中頃ニ至リテハ最早盛夏ノ期ヲ脱シテ氣温著シク低下シ九月下旬ニ入レハ秋冷ヲ覺エ初霜ヲ見ニ至ル從ツテ降水量甚シク減シ俄ニ冷氣ヲ知覺シ冬期ノ狀態ニ急遷スルカ故春秋兩期ハ冬期ヨリ甚シク短キ盛ナリ之レヲ要スルニ一般ノ氣温ハ滿蒙中概テ温暖ニシテ奉天營口ヨリハ高温天津北京ヨリハ低温ナリトス支那人ノ衛生觀念ハ古來官民共ニ頗フル幻稚ナリ近時交通權關ノ發達ト共ニ對外關係ニ刺戟セラレ公衆衛生上ノ設備ノ如

キハ稍々其ノ面目ヲ改メ來ルカ如キ感アルモ未タ因襲ノ久シキ容易ニ弊害ヲ脱スルコト能ハス諸般ノ施設ハ何レモ形式ニノミ流レ其ノ實ヲ具備セザルノ狀態ニ在リ當地ノ氣候比較的溫和ニシテ土地乾燥ナルカ故自然風土病其ノ他傳染病等ノ他ノ地ニ比シ少ナキハ天幸ナリ公衆衛生上ニ付テハ知事ノ下ニ警察事務所長ナル機關アリテ常ニ衛生警察事務ヲ掌ル然レトモ甚タ衛生智識ヲ缺クルト經費ノ不足トニヨリテ何等施設ノ見ルヘキモノナシ傳染病及獸疫ノ流行ノ際ノ如キハ消毒法ハ形式ニ施行スルモ患家ノ如キハ入口等ニ石灰ヲ撒布セハ事足レルモノノ如ク思惟シ患家患畜ノ隔離手當交通遮斷死體ノ所置患者、患畜ノ使用シタル飲食器具衣服等ハ何等ノ消毒方法ヲ講セス從テ常ニ檢疫醫、隔離所等ノ設備ナシ又城内外ノ消費スル獸肉ハ北關ニ唯一ノ屠獸場アルモ之レ亦設備不完全ヲ極メ肉ノ需要常ニ多キニモ拘ラス其ノ不潔言語ニ絶ス屠肉ニハ檢印ノ判アルモ元來肉食衛生上ニ必要ニ出タルモノニ非スシテ單ニ收稅ノ目的ニ重キヲ置キ知事カ徵稅ノ一方法トナスニ過キサルカ故ニ檢査獸醫及警察官等ノ常置ナク常ニ收稅吏ヲ派遣セシメ回々數僧侶ノ執刀ニテ屠殺シ市場ニ搬出スルモノナリ從ツテ賣肉ノ如キモ販賣者ハ常ニ路上ニ露出シ蠅擾等ヲ爲サス塵埃ニ塗レシメテ販賣シ購買者モ亦之レヲ介意スルコトナク購買スルノ狀態ナリ賣肉ヲ檢査スル等ノ制ナキカ故其ノ危險甚シキモノナリ

搾乳業ハ當地ニ知事ノ經營シ居ルモノ一アリ經營上衛生設備ヲ見ルニ牛舍搾乳場ノ構造設備不完全ニシテ常ニ市乳ノ

檢査ヲ爲サス其ノ容器ノ不潔ニ搾乳人夫ノ不取締牛乳ノ消毒法等一トシテ目ヲ驚カササルモノナシ、飲料水ハ城内外芝井戸水ニシテ質絶良ナリ其ノ構造舊式ニシテ不完全ヲ免レズ井桁ヲ用ヒサル爲メ降雨ノ際ハ汚水流失ス晝間ハ常ニ掩蓋ヲ爲サス夜間ノミ掩ハシメ其ノ危險ヲ防カシム年ニ一回洵井スルモ水質ノ檢査ハ絶テ爲シタルコトナシ城内外ノ道路ノ溝渠排水等ノ設備モ亦不完全ナリ最近東門口ヨリ稍々城壁ニ沿ヒテ南關マテ小凌河ニ排水道ノ溝渠ヲ設備シ西關外河畔ニ築堤スル等稍々公共的設備ニ擡頭シ來リタルハ幸福ナリ道路ハ城内概シテ整然タルモ道幅狹ク稍々見ルヘキモノハ東門口ヨリ停車場ニ通スル商埠局管理ノ馬路ナルモ近來經費不足ニテ修築ヲ加ヘサル爲メ破損ケ所多ク其ノ他ノ裏道小道ハ荒廢シテ雨天ノ際ハ步行困難ナリ

第五節 貿易

錦州城ハ僻遠ノ一都會ニ過キサルヲ以テ外國貿易ノ項目ニ於テ説明スヘキモノナシ沿岸貿易モ直接ニ錦州城ニ關係スルハ僅ニ東門外天橋廠ノ一港ノミ此ノ港ハ直隸山東ノ諸港ニ輸出スル雜穀ノ船積港ナリト雖其ノ輸出數量多カラス特ニ説明スルノ價值ナシ

今少シテ陸路通商ニ付テ記サンニ錦州城ニ於ケル一年間貨物ノ輸入高ヲ其ノ正確ナル數ヲ知ル能ハスト雖今雜貨稅局ノ概算ニ依レハ土貨三百萬圓洋貨二百萬圓内外ナリト云フ雜貨稅ニ土、洋貨共ニ落地稅ヲ入出城ノ時賣買價額ノ百分ノ二ヲ徵收スルモノナリト雖雜穀ニ對シテハ百分ノ一ヲ徵

第六節 商業及市場

目下市場ノ影響其ノ不振ニシテ物價ノ高騰甚シク鎮路大ニ減少セリト雖高價品ノ賣行多ク從ツテ商店ノ利潤大ナルモノアルモノノ如シ當舖(質屋)錢莊(兩替店)燒鍋(釀酒店)棧房(穀物間屋)雜貨店ニハ稍々大ナルモノ少カラス

元來當地方ノ民度未タ開ケス故ニ最モ賣行キヨキモノハ日用品ニシテ殆ト衣食住ニ于スル物品ニ于ラレタリ唯馬具屋ノ多キハ清國地方都邑ノ特色ニシテ錦州城ノ如キ亦之ノ例ニ洩レス貨物ハ内外ノ産出タルヲ問ハス入城スル時ハ一律課税セラル即チ荷主ハ品目價格數量ノ明記シタル届書ヲ雜貨稅局ニ提出シ規定ノ税金(百分ノ二)ヲ完納シ領收證ヲ受ケ以テ後日ノ證トナス而シテ稅局ヨリハ常ニ吏員ヲ市場ニ殘シ各商買ニ於テ任入帖ヲ檢査セシメ脫稅ニ關シテハ寸毫モ假借セス

牛馬稅ハ賣買ノ成立スル毎ニ買主ヨリ代價ノ百分ノ五ヲ徵收スルノ規定ナルモ其ノ實賣渡人買受人ニ於テ之レヲ分擔スルヲ普通トス

豚ハ一頭四吊ノ一定稅ヲ課ス事ニハ一頭四百文小豚ニハ二百五十文ヲ課スルモノナリ牛馬豚ノ賣買モ亦冬期三ヶ月間最モ盛ナリ

第七節 工業及鑛業

A、工業

一、燒鍋
燒鍋トハ燒酒製造所ニシテ當地ハ寶隆泉(資本二十六萬吊六班ヲ有ス)同盛金(十五萬吊四班ヲ有ス)ノ二戸アルノミ一班トハ即チ一桶ニシテ之レニ要スル職工ヲ五名トス此ノ一班一日ノ製造高ハ約三百七十八斤内外ト稱シ居レリ之レニ對スル原料高粱二石八斗及粕子百塊(百六十二斤)ヲ要スルモノノ如シ作業ハ毎年三四月頃ヨリ春

口ニ於テ製造ニ着手スルヲ普通トス今上記二戸カ餘力ヲ注キ釀造スル場合ハ左ノ成績ヲ見ルヘキナリ

生酒 高 三、七〇〇斤
高粱酒 高 三、八〇〇斤
油子消毒 一、六二〇斤

民國五年度ニ於ケル釀造高ハ約一十萬斤内外ナリ是等燒酒ノ銷路ハ殆ト當地方一帶及溝旁子黑山縣トス現下ノ酒價ハ一斤ニ付キ卸賣百十六吊文小賣二百二十八吊文トス製造方法ハ滿洲各地同一ナルヲ以テ略ス

二、油房

當地ニ於ケル油房ハ目下作業中ナルモノ十戸トス何レモ舊式ニ屬ス

屋號	資本高	年産額	碾子數
德王慶	100,000	15,000	二
錦降棧	100,000	10,000	三
德源廣	90,000	11,000	三
益原油房	110,000	12,000	三
全記	80,000	18,000	二
李席舖	100,000	16,000	二
永德源	80,000	15,000	一
意記	150,000	35,000	三
慶順和	70,000	15,000	二
福源合	60,000	10,000	一

碾子トハ石臼ヲ云フ合計十二班半アリ
一班トハ二個ノ碾子ト一臺ノ標杆子壓搾器トヲ備ウルモ

ノヲ云フ一班ニ要スル職工ハ六名ニシテ外ニ驛馬十二頭ヲ使役ス即チ一碾子ニ付キ驛馬二頭トス一日三回交代ノ方法ヲ講ス今一班ニ付キ一日ノ製造高ヲ見ルニ

大形豆糟(五十二斤ノモノ) 百枚
豆油 六百斤

原料大豆消費高 十四石
大形豆糟ハ大部分營口ニ輸出セラル相場不釣合ノトキハ小形豆糟(二十五斤)ニ製造ス小形豆糟ノ多クハ南支那ニ仕向ラル毎年六、七、八ノ酷烈ノ候ハ作業困難ト原料不足トノ爲メ製造ヲ停止スルヲ以テ普通トス
上記十戸一日ノ製造高ヲ計算セハ實ニ一千五百枚ニシテ一年ノ作業日數ヲ二百日ト假定セハ年産額三十萬枚トナル而シテ普通一年ノ産出額ハ約二十萬枚ニ過キス殊ニ營口相場ニヨリ大形豆糟ノ製造高ニ變化ヲ生スルコト多シ
一班ニ要スル苦力並ニ勞銀ヲ見ルニ

着碾子 二人 一人ニ付キ年三十元乃至六十元
裝豆 一人 一人ニ付キ年五十元乃至百十元
雜夫 三人 一人ニ付年三十元乃至六十元
但シ食費ハ雇主ニ於テ負擔トス

三、染房

錦州ハ水質良好ニシテ染布業ニハ最モ適地トス從テ染布業ノ頗ル旺盛ナルヲ見ル染房ハ之レヲ別テ二トス即チ染行及紅線染行是ナリ前者ハ藍色青色(黑色ノコト)ノ二色ノミ取扱ヒ後者ハ五彩色ヲ染メ揚ゲ得ルモノナリ
當地ハ染行十五戸紅線染行十六戸アリ今主ナルモノヲ列

擧セザ左ノ如シ
(イ) 染行

屋號	資本高	年染上高	職工數
廣源長	100,000	95,000	三〇
X永德長	50,000	28,000	二五
巨金盛	40,000	8,000	二八
益興增	10,000	7,000	一九
德興長	15,000	4,000	一六
榮發合	12,000	6,000	一〇
萬興隆	10,000	4,000	一四
長源盛	15,000	5,000	二二
福益盛	15,000	4,000	二三
裕隆盛	10,000	6,000	一一
益增盛	15,000	5,000	一八
區發長	35,000	8,000	一九
增源厚	25,000	10,000	二〇

X印ハ布店ヲ兼スルモノニシテ其ノ賣上高ヲ含ム
(ロ) 紅線染行

屋號	資本高	染上高	職工數
永和	15,000	35,000	五
同升和	10,000	6,000	九
福德永	10,000	8,000	三
永廣成	15,000	5,000	八
同順利	10,000	7,000	二〇
東興長	14,000	5,000	六

二五五

永義號	17,000	30,000	16
合記	10,000	8,000	8
玉德盛	10,000	7,000	2
天與永	14,000	30,000	9
×印ハ布店ヲ兼スルモノニシテ綿布賣上高ヲ含ム			
今染行ニ於ケル染賃ヲ示セハ			
色合	大尺巾	花巾	套布
大藍	300	400	16
石藍	400	400	18
正藍	400	130	100
魚白	400	50	50
紫綠	400	160	80
灰黃	400	160	80
各布トモ一尺ノ染賃ナリ			
四、水膠行			
水膠行ハ我膠製造所ニシテ當地ニハ皮舖烏拉舖(農民用靴製造所)皮靴舖鞍靴舖(馬具店)等其ノ數極メテ多ク從ツテ彼等ノ使用スル皮類ヨリ自然皮屑ノ生スル蓋シ少數ナラス茲ニ於テカ水膠行ハ即チ是等廢物ヲ利用シテ事業ヲ經營スル當地ニ於ケル水膠業ヲ示セハ			
屋號	資本高	製造高	錫數
成順	15,000	40,000	4
福源	10,000	40,000	4
萬發	15,000	30,000	4
合記	10,000	26,000	3

榮增源	11,000	25,000	3
長裕谷	16,000	11,000	3
魁發號	10,000	16,000	3
德成	8,000	10,000	3
水膠ハ毎年二月ヨリ四月頃迄及八月ヨリ立冬過ノ間ニ於テ製造セラルルモノニシテ酷暑酷寒ノ候ハ殆ント休業スルヲ常トス			
今原料タル屑皮ノ相場ヲ開クニ百斤ニ付キ十四吊文ヨリ十五吊文内外トリトス皮屑七十斤ヲ以テ水膠十斤ヲ得ルナリ其ノ精製セラレタル水膠ハ百斤ニ付約三十吊文乃至六十吊文トス年産額普通二十萬斤内外ニシテ過半數ハ天津方面ニ仕向ケラレ内三割ハ少商ニ賣却セラレ			
五、磨坊			
磨坊トハ土產製粉工場ヲ謂フ當地ニ於ケル磨坊ハ其ノ數合シテ百四十餘アリ多クハ油房ノ兼業ニ係レリ其ノ主ナルモノヲ擧ケレハ			
屋號	資本金	磨數	碾數
福成和	6,000	1	1
天與長	5,000	1	1
福與隆	8,000	1	1
益增與	10,000	1	1
益原號	8,000	1	1
復成興	8,000	1	1
德發成	5,000	1	2
德與隆	5,000	1	1

同與合 5,000 1 1
慶順長 15,000 2 2
德與永 8,000 1 1
福陞湧 6,000 1 1
公合德 10,000 2 1
順益永 10,000 1 1

此等磨坊ヨリ製出サルル麥粉年産額約二百二十萬斤内外ニシテ製法ハ總ヘテ驪馬ノ微力ニ依ルモノニシテ未タ火力及電力ヲ使用スルモノナシ一磨ニ付キ驪馬四頭職工二名ヲ普通トス今一石ノ小麥ヲ製粉セントセハ之レヲ五斗宛ニ二分シ其ノ一半ヲ一套トシ普通驪馬四頭ヲ使役ス殘リノ一半即チ五斗ハ更ニ他ノ驪馬四頭ヲ要ス而シテ一套(五斗ノミ)ヲ製粉シ終ルニ約六時間ヲ要セリ若驪馬三頭ヲ使役スル場合ハ一套ヲ四斗トシ約五時間ヲ要スルカ如シ故ニ當地磨坊ニ於テアハ一磨ニ付キ一日三套以上ヲ挽クコト殆ント無シ即チ一磨ニ付キ一石ノ麥粉ヲ得ルハ困難ナリ職工ハ一磨ニ付キ二名ニシテ一名ハ看磨ニシテ一名ハ篩ノコトニ當ル

B、鑛業

(イ) 大窰溝坑

本坑ハ錦西縣大窰溝ニ在リ中日合辦株式ニテ三百萬圓ノ資本ナリ大正八年一月一日ノ設立ニ係リ總局ヲ天津ニ置キ錦西縣大窰溝ノ有煙炭ヲ採掘シ及之カ販賣事業ヲ經營スルモノニシテ中日合辦錦西大窰溝煤礦有限公司ト稱ス邦人側ノ投資者ハ安川敬一郎、杉本健治郎等ニシテ支那

人側ハ羅玉金張勳陳應南等ナリ目下礦物經營者ハ礦長技師工學博士松村茂擔當シ以下技師、醫師、事務員等十二人ノ邦人在勤シ使用人員(大正八年六月末調)採礦夫四百三十七人、苦力百七十二人、坑外使用人員三百五十七人、機械課員百三十六人外ニ事務員トシテ三十八人ノ支那人ヲ使用ス

同礦ノ礦區ハ三百萬餘坪ニシテ一日ノ採炭量僅ニ百噸乃至百五十噸ニ過キス現時同公司ハ創業當時ニシテ計畫時代ニアリ從來舊通裕公司經營當時ノ採掘箇所ヲ續行採炭セルニ過キス目下自家用以外ハ附近及錦洲地方ノ燒鍋各種密業及榨油業支那人家事用トシテ販賣セルノミニシテ其ノ業務ノ成績ニ至テハ舊經營時代ノ坑内亂掘ノ整理ニ從事中ナレハ其ノ完了ヲ見ルハ茲一二年ヲ要スヘク從テ採炭量ノ如キモ僅々自家用及附近部落ノ生活用ニ供スルノミニシテ同坑一ヶ月ノ經費三萬二千餘ナルニ反シ石炭收入ハ一月ヨリ五月迄五萬圓餘ニ過キサル狀態ニシテ利益時代ニ到着スルニハ前途遠ナリト云フヘシ

(ロ) 大窪子ハ大窰溝ヨリ六支里ニ位シ切糕甫ハ其ノ西南三町ノ地點ニ在リ何レモ大正六年舊二月通裕公司ノ擴張セシ礦區内ニ在ルモノトス

是等礦山ハ義縣札木林ノ人馮振西並錦西岳屯人荆樹堂等二名ノ經營ニ保ルモノニシテ大正四年冬十一月資本金十五萬吊ヲ投シ最初大窪子ニ於テ採炭ニ着手シタルモノナリ當時井坑五個ヲ開キ六七十名ノ苦力ヲ使役シ盛ンニ採掘ヲ行ヒ日々隆盛ノ氣運ニ向ヒツアリシニ大正五年秋

期ニ入ルヤ地下水湧出シ各坑共廢掘ノヤムナキニ至リシモノナリ

茲ニ於テ手經營者ハ不抄損失ヲ蒙リ之カ補充ヲ計ランカ爲メ同地ヨリ西南僅ニ三丁ヲ距ル切糶甫ヲ選ヒ再探炭事業ニ着手シタルモノナリ切糶甫ハ井坑二個ヲ開鑿シアルモノケ所ハ間モナク侵水ノ爲メ廢坑トナリ現業中ノモノ僅ニ一井ニ過キス從テ使役若力ハ坑内外ヲ通シ千名内外ス凡テ紛炭ニシテ一日ノ出炭高約三噸トス井坑ノ深サハ各坑共約四百六十尺内外トス(但シ四十五度ノ傾斜)炭價ハ百斤ニ付キ二吊文ニシテ附近村落ニ消費セラル

(ハ) 鐵礦山 本坑ハ大窪子ヨリ東北三支里大西溝ノ南方一支里ノ地點ニ在リ苦力六名ヲ使役シテ一日ノ探炭高四噸内外井坑三ヶ所深サ四百尺ニ達ス

(ニ) 北缸地 本坑ハ鐵礦山ノ北方二支里ニ在リ大正五年頃ノ探炭地ナリシカ湧水ノ爲メ一ヶ年ニシテ停止セリ

(ホ) 大坑地 二佛袖ノ東南約一支里ノ地點ニ在リ目下資本金缺乏ノ爲メ探炭停止中ナリ

(ヘ) 小平地 本坑ハ二佛袖人吳老泉ナル者ノ經營ニシテ井坑一ヶ所ナリ小量ノ探炭ヲナシ來リシモ大正五年頃湧水ノ爲メ廢坑トナレリ

(ト) 尖山子 本坑ハ二佛袖ノ西南一支里小凌河畔ニ位ス小西溝人都巨堂ナルモノノ經營ニ係ル資本金二百五十元ヲ投シ大正五年頃探炭ニ着手セリ井坑一ヶ所ニシテ峻險ナル高山ノ中腹ヲ開鑿シタルモノニシテ深サ一百尺ト稱セリ苦力僅ニ四五名ニシテ一日ノ探炭十五六噸ト稱ス

(チ) 義縣北大平 義縣管内ニ屬シ松嶺門ノ北方十五支里ニ位シ缸窰口ヨリ北約八支里ノ地點ニ在リ元廣西省ノ尹千少蘭(北京人)及勾德成(天津人)ノ合資ニテ三萬兩ノ資本ヲ有ス礦區ハ山凌河ヨリ北方石灰窰子ニ至ル十五支里東西ノ廣サ約六丁炭層約六、七尺炭質良好撫順炭ニ酷似ス但塊炭ハ風化シ易シ光緒三十三年探炭ニ着手セシモノニシテ毎年井坑一二ノ改廢ヲ行ヒ使用苦力ハ季節ニヨリ一定セズ冬期多キモ四五十名ヲ出テ春夏秋ノ雨季ハ地下水増加ト地方ノ消費高減少及農繁期ノ爲メ探炭量減少シ一日約七千五百斤内外ニシテ春冬ハ一日約三萬斤ヲ搬出ス

(リ) 缸窰溝 本坑ハ小凌河々畔ニ位シ北大平ト同ク勾德成等ノ經營シ來リタルモノナリシモ大正四年夏季頃ヨリ地下水ノ湧出セシ爲メ廢坑トナリシモノナリ

(ス) 大拉子山 本坑ハ沙鍋屯ノ西四支里ノ地點ニ在リ經營者ノ更迭頻繁ニシテ毎年十月ヨリ探炭翌年三四月ニ至リ停止セシメツツアリ

(ル) 頭道溝 大紅拉子山ノ西五丁ノ地點ニ在リ二個ノ井坑ヲ有シタル形跡アリ

(ヲ) 二道溝 頭道溝ノ西五六丁沙鍋屯ノ西南七支里ノ地點ニ在リ資本二百五十元十名ノ合資組織ニシテ井坑一ヶ所ヲ有ス經營者ハ苦力ヲ兼ネ一日ノ出炭量約四千五百斤ナリ

(ワ) 三道溝 頭道溝ノ西南ニ位シ順次三丁或ハ四丁ヲ距テ二三四道溝アリ是等大江拉子山ヲ初メ頭道溝四道溝ハ

前途ノ如ク礦山主及探掘權利者ハ梁老兆ナルモノニシテ毎年其ノ經營者ヲ異ニセリ即チ探炭ヲ爲サントスルモノハ最初梁老兆ト商議ヲ遂ケ分配割合ヲ協定シ探炭ニ着手セルモノナレハ例年其ノ條件ヲ變更スルモノノ如シ而シテ是等經營者ノ多クハ地方農民ノ副業トセルモノニシテ毎年九月十月ノ交開坑シ翌年三四月ニ至リテ停止スルヲ常トス

(カ) 後富隆山 本坑ハ沙鍋屯ノ西南約十支里ノ地點ニ在リ今ヲ隔ル十五六年前富隆山一帶ノ小資本家相集リテ幾多ノ小坑ヲ開鑿シ相當ノ利益ヲ擧ケ來リシモ經營兩三年ニシテ坑内ニ火ヲ失シ各坑共閉塞ノ止ムナキニ至リ爾來再興ノ企圖ナシ炭脈ハ富隆山屯ノ北端ヲ西南ニ走リ砂金溝ノ西端ニ出テ朝陽管内葦子溝ニ至ル

(ヨ) 葦子溝 本坑ハ朝陽管内ニ屬シ沙鍋屯ノ西南十五支里暖池塘ノ西北十五支里ノ地點ニ在リ此ノ地一帶ハ元蒙古土點特具子ノ管轄地タリシモ今ヲ隔ル十五六年前京奉鐵路ノ買收スル所トナリ遂ニ歸シタルモノナリ京奉鐵路ハ本礦區ニ對シ營口人張明丹ニ經理ヲ依頼シ附近土民ニ探炭票ヲ附加シ各々其ノ探炭高ヨリ料金ヲ徵收シツ、アリ而シテ京奉鐵路ハ地方探炭民ノ便宜ヲ計リ葦子溝及三家子ニ礦油收捐局ヲ置キ礦區ノ監督並ニ料金徵收ノ事務ニ當ラシム其ノ納金ノ定メハ小擔及大擔ノ二種ニ分ツ小擔トハ規模小ニシテ一年ヲ通シテ探炭セルモノニシテ出炭額ノ二分ヲ納メ大擔トハ稍規模大ニシテ排水ヲ行ヒ一ヶ年ヲ通シテ探炭スルモノニテ出炭額ノ一分ヲ納

ム現下探炭ニ從事スルモノ大小合シテ七十餘戸其ノ中大擔十五戸アリ各一坑ヲ有ス此ノ地ノ礦區ハ廣大ニシテ炭層亦厚ク品質良好ナリト謂ヒ難キモ概シテ大密溝炭ニ類似セリ一日ノ出炭量不明ナルモ約二十噸内外ナルヘシ又販路ハ附近ハ勿論遠ク暖池塘、綿西縣一帶ニ至ル廣大ナル地域ニ搬出セラル

(タ) 大嶺後房溝 本坑ハ暖池塘ノ東南十五支里虹螺峴ニ至ル西方二十五支里ノ地點ニ位ス光緒三十年頃マデハ地方土人ノ小資本家隨所ニ於テ探掘セシモ官許ヲ得サル探掘ヲ禁止セシ以來敢テ探掘ヲ試ミントスル者ナク全ク廢坑ノ儘今日ニ至レリ然ルニ大正六年藩庄子人張老明及高老玉之カ探掘ノ權ヲ得タリト謂フ

(レ) 二道溝 大嶺ヨリ東北五支里虹螺峴ノ西北十五支里ノ地點ニ在リ

(ソ) 臥龍泉 虹螺峴ノ東北八支里前藩庄子ヨリ二支里ノ東ニ位ス礦區ハ東西二百七十弓南北六十弓ヲ限界トセリ井坑ハ二ヶ所アリ通風兼吸水井坑一ヶ所ヲ有ス井坑ノ深サ四百尺見當ニシテ炭層ハ約六尺ニシテ牆壁等ノ障害物更ニナシ炭質稍、撫順炭ニ酷似ス使役苦力ヲ三班ニ分チ一班ハ十名トシ現在一日平均五六噸アリ冬期ニ於テ十噸ヲ探掘ス本礦區ハ民國二年探炭手續ヲナシ民國三年ノ夏葉亮郷ナル者其ノ探掘許可ヲ受ケ冬期探掘ニ着手セルモノトス本坑ノ總辦ハ葉亮郷ナルモノ、經營スル所ニシテ大正七年ノ春邦商小寺洋行ノ投資ニテ現在ニ至ル拾數萬圓ヲ投シ同行ハ邦人技師一機關夫一ヲ派遣シ監督ノ任ニ當ラン

メ將來合辦事業ノ實ヲ擧ケント若々企畫中ナリシカ隣礦
愛商煤礦公司トノ間ニ礦區ノ紛爭ヲ生シ小寺洋行ヨリ愛
商公司ニ對スル數回ノ折衝モ甲斐ナク今尙其ノ實ヲ擧ク
ルニ至ラサル中本年五月奉天省長ノ命ニヨリ鐵業法違反
トシテ錦西縣行政官及第三區官出張シ同礦ヲ強制封鎖シ
尙紛議中ナリ

(ツ) 哈蟆溝(官密) 虹螺峴ノ西北七支里ノ地點ニ在リテ
愛商煤礦公司ノ權利ニ屬シ大正五年四月起工同年十月停
止セシモノナリ當時採炭井坑二個ヲ開鑿シ四五十名ノ苦
力ヲ使役シ土法ニヨリ盛ニ採掘シ來リシニ礦區ハ廣ク且
大而モ炭層比較的厚キヲ以テ將來有望ノ地ト見做シ茲ニ
事業擴張ヲ企圖シ或ハ輕便鐵道敷設或ハ機器應用或ハ資
金ノ調達等東奔西走シ各種機器ノ材料ヲ買収シタリシモ
如何ニセシ資金之ニ伴ハス起工幾何ナラスシテ停止ノ止
ムナキニ至リタリ然レトモ東公司ハ如何テカ此有望ナル
炭礦ヲ見棄テシヤ其ノ後營口方面ニ於テ更ニ資金調達ニ
奔走シタル結果大正六年舊七月頃再ヒ作業ニ着手セリ而
シテ大正六年未蒸氣機關一臺ヲ据付ケ其ノ他炭礦用材料
モ天津上海方面ヨリ求メ將來大ニ擴張セントスルモノノ
如シ

(ネ) 缸密 連山ノ西北四十支里錦西縣城ノ南方二十五支
里ノ地ニ在リ山地ハ缸密村會ノ所有ニ屬シ未タ採掘權ヲ
得タル者ナク凡テ縣行政公署ノ下附セシ探票ニヨリ土人
ノ任意採炭シ來リシモノニシテ民國三年頃缸密人裴存厚
ナルモノ小資本ヲ投シテ採炭ヲ行ヒタルモ間モナク資本
約期間ハ毎年六月一日ヨリ起算シ翌年五月末ニ至ル一ケ
年トス斯ノ如キ方法ナルヲ以テ探票ニ對スル名義料モ例
年變更アルヲ免レス尙且ツ一年ヲ通シテ採掘スルコトナ
ク普通ハ八九月ヨリ翌年四五五月ニ至ルヲ採炭期トス井坑
數出炭量等ハ其ノ經營者ニ依リ増減アルモ一日一萬五千
斤乃至三千斤ノ出炭アリ

(オ) 榆樹溝(老虎勾) 現在若力十數名ヲ使役シテ一新坑
ヲ開鑿シ採炭中ナルモ多量ノ採炭ヲ爲スニ至ラサル狀況
ナリ

(イ) 利樹溝 利樹溝ハ錦西縣暖池塘ノ東南三支里ノ地點
ニ位シ東南西南ノ三方山ヲ廻ラシ山ハ女兒河ニ瀕シ銀鑛ハ
其ノ溪谷ニ横ハルモノ、如シ今ヲ去ル凡ソ十五六年前山
間ヲ流ル、溪水ハ何時シカ自然地下銀鑛床ヲ露出シ附近
鄭家屯ノ農民ニヨリ發見セラレ密カニ之ヲ採掘ヲ爲シヤ
直ニ各地方民間ノ評判トナリ先キヲ爭フテ採掘ヲ爲シタ
ルニ僅ニ三十尺餘ニシテ全ク其ノ鑛床ヲ失スルニ至レリ
地方人ハ今尙銀鑛脈ノアルモノト信シ居ルモ之ヲ試掘ヲ
ナス者絶ヘテナシ

ノ缺乏ト地下水ノ湧出ニヨリ遂ニ停止セルモノナリ礦脈
約四五十アリ

(ナ) 白楊木溝 缸密ノ西方八支里ノ地點ニ在リ大正五年
八月ヨリ同六年四月迄白楊木溝人王某外數名ニテ交通
極メテ不便ナル高山ノ頂上ニ數ヶノ井坑ヲ開鑿シタルモ
ノナルモ今ヤ停止中ナリ

(ル) 黑魚溝 缸密ノ西方九支里錦西縣ノ西南三十餘支里
ニ在リ大正五年八月ヨリ同六年四月ニ至ル間與城縣人趙
永義及官明揚ノ名義ニ係ル探票ニヨリ採炭シタリト井坑
ハ一ヶニシテ深サ四百尺内外當時苦力七名ヲ使役シ粉炭
一日四千五百斤内外ヲ搬出セシモ目下事業停止中ナリ

(ム) 雜樹溝 黑魚溝ノ西一支里與城縣下ニ位ス大正六年
一月二十四日ヨリ採炭シ四月十五日ニ停止シタルモノナ
リ井坑一ヶ所ニシテ深サ百五十尺内外苦力十名ヲ使役一
日粉炭四五千斤ヲ産出ス

(ウ) 尖山子 與城縣ヲ隔ル北方五十餘支里新大門ノ東南
三十五支里ノ地點ニ在リ炭脈ハ錦西縣内ヨリ流レ來リ此
ノ地ヲ起點トシテ約八支里餘リノ環形ヲ畫キテ終レリ全
部官有ニシテ未タ採掘權利者ナク凡テ探票ニ依リ採炭シ
居レリ而カモ探票所有者ニ於テ直接採炭ヲ爲スニ非スシ
テ更ニ地方人ニ對シ一年間ノ期限ヲ以テ下請ヲ爲サシメ
自ラハ名義料トシテ出産ノ幾分ヲ徵シ居ルニ過キス以下
各炭礦ノ採炭方法ハ此ノ方法ト見テ可ナリ
本尖山子炭礦ハ錦縣人張小石及與城縣上義何人當戸巨等
ノ名義ニ係ル探票ニ依ルモノニシテ土民等ノ採炭下請契

(ロ) 青石嶺 錦西縣城東南十五支里重疊タル山間ニ在リ古
來當地ニ銀鑛ヲ産スト傳フルモ未タ何人モ採掘ヲ企圖ス
ルモノナカリキ然ルニ錦西縣傳屯住民馮老郭某買某外
十餘名共同シテ之ヲ採掘ヲ企テ資本金五十元ヲ投シ大正
五年十月七日ヨリ起工シ苦力六七名ヲ使役シ各所ヲ開鑿
シタルニ少量ノ鑛石ヲ採取シタルノミニテ廣大ナル鑛脈
ヲ發見スルニ至ラス遂ニ大正六年五月頃中止ノ止ムナキ
ニ至レリ

(ハ) 夾樹溝 夾樹溝ハ錦西縣城南四十支里新臺門ノ東南
二十支里ノ地點ニ在リ大正六年十月十六日新民縣打虎山
人列某ナルモノ此ノ地ニ來リ銀鑛アルヲ發見シ採掘ヲ企
畫シ苦力十五名ヲ伴ヒ來リ採掘ニ着手セントスルヤ此ノ
地官有ニ屬シ隨意試掘ヲ許サスト官憲ヨリ中止命令ヲ受
ケ止ムナク揚家張子林ニ苦力ヲ留メ採掘出願ノ手續ヲ爲
セシニ日ヲ經ルモ何等ノ通告ヲ得サル爲メ工事經營人一
名ヲ殘シ置キ一應苦力ノ解散ヲ爲シタリ然ルニ其ノ後尙
ホ許可書ノ下附ナク五月下旬同經理人モ亦タ歸郷セリ其
ノ果シテ銀鑛ナルヤ否ヤ不明ナリ

石 棉 鑛
本鑛産地ハ錦西縣トノ東南二十五支里連山ノ西約四十支
里ノ馬家溝一名拉子溝ト稱スル地ニ在リ同石棉鑛ハ各地
ニ産スル石棉鑛ノ如ク石塊ヲ爲シヲラス恰モ半中皮ノ如
ク板狀ヲナシ赤土ノ中ニ埋没シアルモノナリ故ニ土人ハ
之ヲ土棉ト稱シ居レリ而シテ此ノ土地ハ馬家溝林居住ノ
農民孫玉財ナル者ノ所有ニ係リ半ハ山地ニシテ半ハ耕地

ナリトス地下僅ニ二尺ニシテ此ノ土棉ヲ見ル十五六年前
大降雨ノ爲メ地崩レノ際牛皮大ノ土棉ハ雨水ニ浮ヒテ流
下セシヲ土人發見シ其ノ何タルヲ解セズ牛皮ノ風化セシ
ルモノナルヘシト信シ敢テ講究スルモノナカリシニ其ノ
後山地ヲ開拓スルニ當リ時々小形ノ出ツルヲ見テ始メテ
土棉礦タルヲ知り得タルカ如シ大正四年七月頃奉天黃寺
ノ喇嘛僧ニシテ此ノ地ニ來リ當地ノ買收ヲ圖リ之カ採掘
ヲナサント試ミタルニ馬家溝林會ハ其ノ用途其ノ他ノ事
情ヲ解シ得サルニ不拘只利慾心ヨリシテ村會ニ於テ採掘
スヘキモノナリト稱シ責却ニ應セサリシト云フ

礦

錦西縣城ヨリ西南四十五支里新臺門ヨリ東南六十五支里
ノ老虎洞ナル地ニ礦鐵ヲ見ル凡ソ十年前錦縣礦局此ノ
地ニ礦鐵ノ採掘ヲナシ約三年間經營シタル後停止シタル
モノニシテ爾年今日ニ至ルマテ繼續經營スルモノナリ此
地附近溪谷ニ其ノ礦床顯レアルヲ以テ地下一帶礦石亦少
カラサルモノノ如シ

石灰石

石灰ハ錦西、義興城(寧遠)ノ各縣管内至ル處產出ヲ見ル今
其ノ主ナル地方ヲ擧ケンニ

(イ) 青佛山 沙鍋屯ノ北一支里ノ地點全山皆石灰石ヲ以
テナル

(ロ) 鉛銅子溝 沙鍋屯ノ東南三支里ノ地點ニ在リ全山石
灰石ヨリナリ洞元内ニハ幾多ノ鐘乳石垂レ而モ洞ノ周圍
ニハ一面方解石ノ結晶ヲ見ル

第八節 農業及牧畜

農業

(一) 概説

前記兩地ニ於テ石灰製造ニ從ハンカ通裕公司鐵道及石灰
ノ豐富ナルアリ最モ有望ナル事業ト思料セラル
(ハ) 尖山子 興城縣管内ニ在ル尖山子ニシテ石灰坑ヲ以
テ名アリ其ノ炭脈ノ東方一帶地下總テ石灰石ヨリナリ目
下約三四十個ノ石灰窯ヲ設ケ盛ニ石灰製造ヲ行ヒツ、ア
リ製品ハ遠ク各地ニ搬出セララル
(ニ) 缸窯 錦西縣ニ在ル缸窯ニシテ此ノ地方山岳殆ト石
灰石ヨリ成リ各所ニ於テ任意ニ石灰窯ヲ役ケ日々相當ノ
石灰製造アリ其ノ石灰ハ主ニ附近村落ノ屋根垣壁等ニ用
キラル
(ホ) 前記外義縣管内北大平一帶及錦西縣洲金溝、青石嶺
白楊木溝等一帶ノ地方ハ凡テ石灰ヨリナル小岳ニシテ各
地共土民ノ任意ニ石灰窯ヲ設ケ之カ製造ニ從事シ居ルヲ
見ル上述ノ石灰窯ハ概ネ石灰產出地ニ接シセルヲ以テ燃
料ノ供給自由ナルノ利益アルト共ニ該地方ハ勿論遼西ノ
地タル煉瓦家屋極メテ少ナク如何ナル貧家ト雖大部分ノ
モノハ石ヲ以テ築キ家根垣等多ク石灰ヲ用ユルヲ以テ
其ノ消費高蓋シ少ナカラサルヘシ是レ各地石灰製造ノ盛
ナル所以ナリトス

常錦縣ニ於ケル耕地全面積ハ十萬八千天地ト稱ス一天地
ハ十畝ニシテ一畝ハ二百四十弓トス而シテ一弓ハ營造尺

五尺二十方地ナルヲ以テ一畝ハ吾カ六畝〇六八七七ニ相
當ス地味ハ西北一帶ハ山地ニシテ小石多ク河川ノ沿岸ハ
又砂土アリ比較的平原地ナリト雖遼河流域ノ如ク良好ナ
ル地味ニハアラス終レ共關裡一帶地ニ比スレハ遙ニ優リ
タルカ如シ作物ハ高粱ヲ主トシ之ニ次ク大豆、粟、包
米トス

(二) 植付反別

植付反別ハ高粱約四割大豆約二割粟約一割二三分ニシテ
其ノ他雜穀ノ割合ナリ而シテ農作ハ輪還作ノ關係上年々
其植付反別ニ増減アルハ數ノ免レサル所ナリ然レ共年一
年ト高粱大豆等多少増加シ包米、雜穀ノ漸次減少スルノ
傾向アリ且山地ヲ整理シ耕地トナシツ、アルヲ以テ年々
追フテ作付反別ノ増加スルヲ見ル前年度ニ於ケル穀類ノ
價格竝ニ消費地タル直隸山東等ニ接近セル爲メ其ノ地方
ノ需要關係モ植付反別ヲ支配スル一因ナリ
歐洲戰爭後油ノ騰貴セシ結果本年度藍草ノ植付多キヲ見
ルモ明白ノ事實ナルヘシ今其ノ植付歩合ヲ示セハ

年 度	大豆	高粱	粟	包米	雜穀
大正二年	七	四〇	一五	三	七
同 三年	二〇	四五	一五	三	七
同 四年	二〇	四五	一七	三	五
同 五年	一五	五〇	一〇	二	一〇
同 六年	一五	四三	二〇	三	一〇
同 七年	二〇	四〇	一五	一〇	一五
同 八年	一八	四二	二〇	三	九

植付反別ヲ示セハ

大正二年	九〇〇、〇〇〇
大正三年	一、〇八〇、〇〇〇
大正四年	一、〇八〇、〇〇〇
大正五年	九二〇、〇〇〇
大正六年	八五〇、〇〇〇
大正七年	七六、〇〇〇 (沙水災害)
大正八年	八四、〇〇〇 (爲減害)

(三) 播種

播種ハ南滿地方ニ於ケルト同一ニシテ耕作上拵トシテ前
年作物ノ舊株ヲ拔キ去リ犁杖ト稱スル我國ニ於ケルト同
型ノ鋤ヲ二頭ノ騾馬若ハ牛馬ニ曳カシメ土壤ヲ耕耘シ次
テ壟溝ヲ設ケ種子ノ撒布ヲ行ヒ其ノ上ニ壟土ヲ覆フノミ
ナリ
種子ハ一畝地ニ付高粱約八合大豆約一升二合粟約五合包
米一升二合見當ナリ播種ノ季節ハ降雪ノ如何ニヨリ土壤
ノ濕潤乾燥ニ關係アルヲ以テ遲速一定セサルモ普通高粱
粟ハ清明節大豆ハ立夏後ニ播種ス
大正二年ハ四月上旬ヨリ始メ同月中旬ニ終ル
大正三年ハ四月下旬ヨリ始メ五月上旬ニ終ル
大正四年ハ四月下旬ヨリ始メ五月中旬ニ終ル
大正五年ハ三月下旬ヨリ始メ四月下旬ニ終ル
大正六年ハ四月上旬ヨリ始メ同月下旬ニ終ル(閏年)
大正七年ハ三月下旬ヨリ四月下旬ニ終ル
大正八年ハ三月下旬ヨリ始メ四月上旬ニ終ル(閏年)

(四) 肥料及除草

肥料ハ總テ土糞(所謂堆肥)ニシテ一畝地ニ二車ヲ要ス一車ハ其ノ積量二千斤乃至三千斤ナリ之レヲ拾堆ニシテ耕地面ニ撒布ス除草ハ五月節前後ニ於テ行ハレ家中ノ者全部出テテ除草ニ從事スルハ勿論數多ノ臨時苦力ヲ雇備ス除草ハ殆ト人力ニ依ルモノト鋤頭(一種ノ鋤)ヲ使用シテ雜草ヲ刈リ去ルトノ二種アリ除草終ルヤ再ヒ犁杖ニヨリ溝溝ヲ耕シ次テ作業ヲ終ル

(五) 收穫

收穫期ノ最モ早キハ粟ニシテ舊八月一日前後トス高粱ハ八月中旬ヨリ下旬ニ亙リ大豆及包米ハ九月一日前後ヲ以テ普通トス
收穫ハ土地ノ良否ニヨリ一定セサルモ平年作ニシテ普通一畝地ニ於テ高粱五斗乃至六斗、大豆三斗乃至四斗、包米八斗乃至一石小米四斗乃至五斗ナリ

(六) 地價及小作方法

地價ノ地味ノ上下ヨリ差異アリ
上田地一畝ニ付 二千吊文(二百元内外)
下田地一畝ニ付 四百吊文(六十元内外)
小作法ハ一様ナラサルモ錢納ハ一田地ニ付キ百五十吊文ヨリ八十吊文(二十元乃至四十元)穀納ハ普通收穫高ノ半數ヲ地主ニ納ム但一切ノ器ハ總ヘテ小作人ニ於テ負擔ス一家五六人ノ家族ニシテ牛馬ノ三、四頭ヲ有スルモノハ約二十六天地ヲ小作シ得

牧畜

ノ腐敗物糞尿等ヲ採ラシメ豆腐糟豆糟ノ糖糟ヲ以テ飼料トシ羊及山羊ハ山野ニ放牧シテ雜草ヲ食セシム冬期ハ主ニ粟穀及雜草ノ乾燥シタルモノニ食鹽ヲ混シテ食セシム

(二) 牧畜ノ方法

春秋夏冬ノ間ハ日中ハ主ニ山野及住宅附近ニ放牧スルヲ常トス是等畜類ハ性頗ル柔順ニシテ十數頭多キハ數百頭ノモノヲ一二名ノ牧夫ノ意ノ儘ニ遊牧シ居ルヲ見ル而シテ羊、山羊ヲ牧養スルノ方法ハ牛、馬、騾、驢ノ牧養ト稍々趣ヲ異ニセリ牛、馬、騾、驢ハ日中山野ノ放牧終レハ邸宅内ノ厩舍ニ乾燥シタル雜草ヲ敷キ之レニ起伏セシムルモ羊、山羊ハ日中山野ニ放牧中厩舍ハ一旦清潔ニシタル後乾燥シタル砂ヲ撒布シテ厩舍内ヲ乾燥セシメ之ニ起臥セシムルモノニシテ數百頭ヲ牧養スルモノハ夏期ハ遠ク山野ニ放牧スルカ故ニ山麓附近ニ假厩舍ヲ設ケ附近村落ノ信用アル農民ニ糞尿ヲ供シテ同期間ノ牧養ヲ依託スル慣習アリ

第九節 金融並度量衡

錦州城内外通用貨幣ハ一厘錢、帖子、龍元、官銀號票小銀貨ノ數種ニ止マリ一錢銅貨ハ稀ニ見ル所ニシテ其ノ價格七厘内外ナリトス其ノ最モ普通ナルハ一厘錢及帖子ニシテ帖子ニシテ帖子トハ常備(本來質屋業ナルモ漸次銀行ヲ營ムニ至レリ)ヲ振り出セル一覽拂手形ヲ云ヒ額面ハ吊ヲ以テ記載ス吊トハ制錢百六十個ノ謂ニシテ六吊文ヲ以テ一元ト

牧畜ハ大部分農家ノ副業トシテ行ハレ是等農家ハ少キハ數頭多キハ十數頭ノ牛、馬、騾、驢、豚、羊ヲ飼養ス就中豪農ニ至リテハ數百頭ノ豚羊ヲ牧畜スルモノアリ而カモ其飼養畜類ハ各農家ノ財産ノ一部トシテ貴重セララル

(イ) 種類

牛馬ノ種類ハ蒙古產ヲ最多トシ豚羊及小羊ハ支那在來ノ產ニシテ羊、山羊ノ質ハ他地方ニ比シ稍優良ナリ是レ氣候地勢水質ノ關係ト稱セラル今錦州ニ於テ食用トシテ屠殺セララル豚羊一ヶ年ノ總計ヲ舉クレハ牛四千九百餘、豚九千餘頭、羊五千餘頭ニシテ就中夏期ハ豚羊ノミニシテ牛ハ殆ント食用ニ供セサルカ爲メ其ノ影ヲ見ス今錦州管内ニ於ケル最近調査ニヨル飼養頭數ヲ掲クレハ左ノ如シ

Table with 2 columns: Animal Type and Headcount. Rows include 牛 (8,000), 馬 (1,300), 騾 (2,600), 驢 (3,800), 豚 (8,500), 羊 (4,200), 山羊 (1,000).

(ロ) 飼料

牛ハ春秋ヨリ秋期ニ至ル間ハ主ニ山野ニ放牧シ野生ノ雜草ヲ飼料トセシメ耕耘ノ際ハ粟穀及豆餅ニ少量ノ食鹽ヲ混シテ飼料トシ馬、騾子、驢子ハ以上ノ外麸子酒糟高粱豆面等ヲ採ラシム又豚ハ主ニ住宅附近ニ放牧シテ下水溝

ス帖子額面ハ二吊以上數十種アリ帖子振出常備ト現今十一軒ニシテ總振出額五十萬吊位ナルヘシ此等帖子ハ僅ニ錦州城内外ニ於テノミ通用スルモノナルカ故ニ他所拂ノ爲ニハ爲替ノ制ニ據ルヲ要ス
爲替ヲ取扱フ店ヲ滙兌莊ト云ヒ民間ノ私書ニ係ルモ信用鞏固ニシテ其發行ニ係ル滙票ヲ買ヒ入レ之レヲ指定地ノ指定錢莊ニ提出シテ其ノ他流通現貨ヲ受取ルモノナリ
度量衡ニ至リテハ他地方ト大差ナシ但尺度ニ於テ一言センニ大凡支那ニ普通用イル一尺ハ我カ九寸餘ニ過キスト雖モ錦州城内別ニ一種ノ尺度アリ其ノ一尺ハ我一尺二寸五分ニ相當ス是レ重ニ白色上布ノ尺量ニ用ヒラル

第十節 交通及通信

交通ニ付キ説明ヲ要スルモノハ陸上交通ナリ水路ハ單ニ中後所ノ一港ニヨリテ上海ト直接交通アリ其ノ他二三ノ小港アリト雖モ汽船ノ出入ナク僅カニ十數隻ノ民船ノ往復セルノミ陸上交通機關トシテハ鐵道及馬車アリ關内外鐵道ハ管内ヲ縱斷シ北ハ營口新民屯、奉天ニ直通シ南ハ山海關ヲ經テ天津北京ニ通スヘシ一日二回ノ客車ト四回ノ貨車往復アリ馬車ヲ通スル主要道路ハ鐵道ニ沿ヘル縱貫線ト錦州城ヨリ義州ニ至リ一ハ清河門ヲ出テ蒙古地方ニ入リ一ハ分レテ九關臺邊門ニ入リテ直隸ニ出ツルモノトアリ更ニ義州ニ起リテ廣寧ヲ經テ遼河水域ニ沿ツテ吉林黑龍兩省ニ通スルモノアリ管内馬車現在數ハ精數ノ據ルヘキモノナシト雖モ一年

中錦州城ニ出入スル馬車ハ約一萬ニシテ内五六臺ハ小車ニ屬ス車指ハ年一回ノ徵收ナリ
通信機關トシテハ電信局郵便局ニアリ一ハ城内ニ一ハ停車場ニ在リ北京奉天其ノ他主要各都市ト直接ノ通信自由ナリ但シ官署ノ公文ハ尙舊慣ヲ改メス特使ニヨルモノ多ク其ノ電信郵便ニ依ルモノハ急速己ムヲ得サルモノニ限ラル

第十一節 公私上ノ施設

A 本邦側

(イ) 警察官吏派出所

大正五年三月頃迄ハ在留邦人ノ數僅カニ五名内外ニ過キナリシモ同五月ニ至リ俄然約百三十名ニ達シタリ然ルニ從來地方ノ治安維持ノ任ニ當リ來リタルハ時ノ日本人會長石光眞清及駐在武官等ニ於テ臨機其ノ衛ニ當リツツアリシモ時勢ノ推移ニ伴ヒ茲ニ完全ナル警察機關ノ必要ヲ感シ同會長石光眞清其ノ他有志ノ清願ニ基キ同年七月一日城内西二道街ニ警察官吏派出所ノ開設ヲ見ルニ至レリ
巡查一名ヲ派遣シ居リシモ翌月更ニ巡查一名ヲ増員セリ然ルニ在留民ノ數モ次第ニ増加シ來リ之ニ伴ヒ種々ナル警察事故相次テ激増ノ傾向ヲ生シタル結果同年九月警部補一名ヲ増置シ諸設ノ治安維持ニ任スルコトトセリ次テ同六年四月四日城内西二道街應舍ヨリ東關外門齊藤駐在武官跡ノ現應舍ニ移轉シ今日ニ及ヘリ

(ロ) 商品陳列館

本館ハ滿蒙貿易株式會社ノ經營ニ屬シ十名ノ株主ヨリ成

普ク一般支那人ニ知ラシムル爲メ錦州南街ニ日本赤十字社錦州救療所ヲ設置シ所長トシテ陸軍三等軍醫正山崎敏男ヲ派遣シ大正五年十月五日開所式ヲ舉行セリ職員ハ所長ノ外支那人助手二名ニシテ本社ヨリハ一定ノ手當ヲ與ヘ救療所ニ當ツヘキ家屋及診察器具ノ一部ヲ貸與シ一方ニ在リテハ博愛ノ趣旨ヲ説キ地方貧民病者ニ救療券ヲ交付シ治療セシメツツアリ救療券ノ交付ハ豫メ縣知事又ハ警察事務所長ニ委託シ貧民病者ニ交付セルカ其ノ交附方適當ナラサル爲メ多少遺憾ノ點アリ而シテ所長ハ銳意救療所ノ發展ニ努メ地方上流者ト交際シ又ハ屢々各要路ニ貼紙廣告スル等有ユル手段ヲ爲スト雖滿鐵沿線等トハ異リ日本醫術ノ進歩ヲ認ムル者極メテ少數ニシテ嘗テ日本病院又ハ日本醫師ノ住セシ地ニ在リタル者等ヨリ遂次治療ヲ受クルモノノ増加スル状態ナリ一面邦人側ニ於テハ救療所所設置以來更ニ不自由ヲ感スルコト現在ノ状態ニ在リテハ日ヲ追フテ良好ノ發展ヲ遂ケツツアルモノノ如シ

(ニ) 株式會社正隆銀行錦州支店

本銀行ハ中日合辦株式會社正隆銀行錦州支店トシテ大正七年五月十五日城内北街ニ設立セラレ行員邦人二名支那人三名ヲ以テ一般銀行業務ヲ營ミ業務ノ成績ハ開店日尙淺ク且特種ノ土地柄トシテ營業上困難ナル事情ナルモ行員ノ忍耐努力ニヨリ漸次發展ノ域ニ向ヒツヽアリ

(ホ) 錦州日本人會

當錦州ニ邦人ノ居住シタルハ大正元年八月三井洋行出張

リ本社ヲ東京々橋區築地二丁目ニ置キ神戸市眼ノ濱二丁目及仙臺市定禪寺通り櫛町ニ出張所ヲ設ク錦州商品陳列館ハ大正五年七月支店ノ一部トシテ開設セラレ主トシテ國產ノ輸入紹介並ニ販路ノ擴張ヲ旨トシ多少ノ損失ヲ顧ミス國產ノ紹介ヲ主眼トセルモノナリ即チ薄利多賣主義ニ依リ且有望國產ニ對シテ見本品無料陳列ヲ認許ス關東應ノ補助ノ如キ亦實ニ此ノ重大ナル使命ヲ敢行セシメンカ爲ニ外ナラス

同社ノ資本金ハ十萬圓ニシテ目下四分ノ一ノ拂込ニ過キスト雖モ社長ハ數百萬圓ノ資産家ニシテ資金ノ融通圓滿ナルカ爲メ増資其ノ他資金ノ必要アル時ハ主トシテ借入金ノ形式ニヨラサル方針ニシテ已ニ百五十萬圓迄ハ何時ニテモ借入得ルノ契約成立セリ開設後已ニ大略三四十萬圓ノ資金ヲ要セリ單ニ「デパートメントストア」トシテ而カモ開業以來日尙淺キニモ拘ラス如上ノ資金ヲ要シタル如キ所謂國產ノ紹介上管ニ賣行良好ナル商品ノ仕入ノミニ限ラス廣ク各般ノ商品仕入ヲ爲シタルタメ多大ノ資金ヲ要シタルナリ尤モ現在ニ於テハ單ニ國產ノ輸入ヲ爲スニ止リ滿蒙物産地ノ輸出事業ニ手ヲ染メス徐々ニ擴張スルノ方針ニテ基礎薄弱ニテ一獲千金ヲ夢ミルノ射倖ノ方法ヲ避ケ着實ヲ旨トシ地方人士ノ信用ヲ得テ後活動スヘキ計畫ナリ

(ハ) 赤十字救療所

當錦州ニハ支那醫師ハ多少アルモ別ニ邦人醫師アラザリシカ日本赤十字社滿洲委員會部ニ於テハ本社博愛ノ趣旨ヲ員川村房次ヲ以テ嚆矢トス爾來同四年十月ヨリ翌五年三月ニ至リ漸ク五名ノ邦人ヲ數フルニ過キナリシモ同年五月ニ至リテハ俄然戶數三十人口百二十名ニ激増シタリ然ルニ從來在留民間ニ於テ其ノ親睦融和ヲ圖ルノ私的機關トシテ俱樂部的ノ日本會ナルモノアリシモ時ノ會長陳列館主豫備砲兵少佐石光眞清ハ意義アル代表機關ヲ設立シ外部ニ活動シ日支國交ノ融和ニ資シ公共團體トシテ邦人ノ發展ヲ期セント欲シ同會長ノ發意ニ基キ同年六月二十七日第一回總會ヲ開キ規約二十五條ノ大綱ヲ決議シ役員ノ選舉ヲ完了シタル後其ノ細目ノ加除訂正ハ役員ニ一任スルコトトシ同年七月二十一日駐錦日本武官所ニ役員全部參集遂條審議ヲ逐ケ之ヲ管轄長官タル在牛莊領事館三宅領事代理ニ申請爾來數度折衝ヲ重ネタルモ同則其ノ他ニ不備ノ點アリ只書面ノ往復ハ意思ノ疏通ヲ缺クノ嫌アリ決定ヲ見ル能ハサルカ爲會長ハ評議員ノ決議ニ基キ同年九月六日營口ニ出張シテ親シク當地ノ事情ヲ具陳シテ請願スル處アリタル結果會則中ノ一部分ヲ訂正シタル後默認セラレルコトニ決定シ茲ニ漸ク日本人會ノ設立ヲ見ルニ至リタルモノニシテ爾來會長副會長ノ更任スルコト數度幾多ノ干餘曲折ヲ經テ今日ニ至レリ

(ニ) 日本人會附屬小學校

錦州小學校ハ日本人會ノ附屬經營ニシテ大正六年五月二十日開校セラレタルモノニシテ當時ノ石光會長ハ在外指定學校ト爲スヘク數度事情ヲ具シテ當局ニ陳情スル所アリシモ特種ノ事情アリテ實現スルニ至ラス今日ニ至レル

モノナルカ開校當時ノ教員生徒ハ女教員一生徒三名ニシテ翌年四月ノ學期始ニハ生徒十三名ニ増加セリ本年四月ニハ九名ニ減セルモ同期ヨリハ幼稚運動場ヲ新設シテ八名ノ幼兒ヲ收容シ居レリ此ノ間教員ニ移動ヲ生シ現在男教員一名ニテ熱心教職ニ當リ居レリ

B 支那側

名	稱	位	置	長又ハ管理者
第二十八師々合部	東關双岔子	師長	汲金純	
第五十六旅師合部	城內考縣衙門胡同	旅長	乳瀾洲	
第一百一團本部	八家子	團長	崇山	
錦縣行政公署及協領衙門	城內東街路	知事	王文藻	
警察事務所	南街東三道街胡同	所長	列鴻漢	
稅捐總局	西街路家胡同	局長	齊允殆	
地方審判廳	東街路北	廳長	趙佛青	
地方檢察廳	東街路北	廳長	倪文藻	
錦縣商埠局	車站馬路傍	局長	趙世基	
電報局	南街	局長	許曉初	
二等郵便局	南街	局長	高順堂	
巡查練習所	南門街	所長	陳真芳	
京奉線鐵路警察署	車站	署長	范思慶	
錦縣商務會	西二道街	總理	列繼武	
錦縣農務會	財神廟胡同	總理	張子倫	
模範教育所	南門街	所長	徐子聘	
地方收捐所	大牆胡同	總理	徐子聘	

二六八

鹽務緝製局	老縣衙門前胡同	局長	謝義源
常關稅分局	車站馬路	局長	陶曼兆
錦縣保甲總局	財神廟	總董	李芝尙
西路清鄉行局	東街路北	兼務	王知事
貧民教養工廠	東門外	廠長	馬相廷
奉天第六模範監獄	北門外	典獄	思錫三
錦州電燈股份有限公同	財神廟胡同	總辦	徐晉賢
田氏醫院	南門街	院長	田遇春
縣立第一高等小學校	東關石柱街	知事	管理
縣立第二高等小學校	北關某王廟後	知事	管理
縣立第三高等小學校	西關小車行傍	同	上
縣立第四高等小學校	文昌院後街	同	上
縣立師範學校	同後胡同	同	上
省立第二中學校	城內大人府胡同	同	上
省立第一女子中學校	東關双岔子	同	上
國民第一女子國民學校	東關藥王廟東	同	上
國民第二女子國民學校	西關外河西	同	上
國民第三女子國民學校	南門外密坑邊	同	上
國民第四女子國民學校	同	同	上
縣立模範女學校	城內元寶胡同	同	上
清真國民中學	北門外	同	上
同(同々教)	北門外	同	上
私立國民學校	北門外	同	上
私立達成高等小學校	城內牌樓角	同	上

第十二節 葫蘆島(連山灣)港

第一款 地勢

閩使張作霖氏ハ奉天省ト交通部トノ合辦事業トシテ續行スルコトニ決定シ九年三月周肇祥氏ヲ開埠督辦ニ新任シ工事着々進捗シツ、アリ

第四款 背後地トノ關係
葫蘆島ノ背後地ハ所謂遼西及熱河ノ特別行政區域ニシテ當地方ノ貨物ハ營口ヨリスルモノ多ク錦州ヲ經赤峰ヲ以テ其ノ大集散地トス今若シ錦州、赤峰間葫蘆島錦州間、洮南錦州間、錦州乃至葫蘆島間ノ鐵路完成セラレタリトセンカ商業經路全ク一變シ遼西、赤峰及開魯ニ到ル區域ハ當然葫蘆島港ヲ以テ其ノ各吐港トスルニ至ルヘキハ必然ノ結果ナリトス

今熱河特別區域ヲ見ルニ人口四百五十萬面積一萬二千方里ヲ有シ雜穀千餘萬石ノ過剩力ヲ有スルモ現下ノ交通甚タ不便ニシテ錦州、喜峰口、張家口方面ヨリ纔ニ貨物ヲ運搬スルニ過キス東蒙ノ發展ヲ促進スルカ爲ニハ勢葫蘆島築港ト相俟テ背後地ノ交通機關完備ノ要アルヲ認ムルニ至リタル亦宜ナリトス

第五款 開港後他港ニ及ホス影響

本港完成後ニ於ケル各港ノ受クル影響ハ一ニ葫蘆島背後ニ於ケル交通機關設備ノ程度如何ニ依ルモノナルモ直接影響ヲ受クルヘキハ恐ラク營口ヲ以テ最トスヘシ將來遼西、赤峰方面ニ於ケル商業關係ハ舉テ葫蘆島ニ奪ハルヘク前途暗曠タルヲ覺ユ第二ニ影響ヲ蒙ルヘキハ芝罘ニシテ大連港ニヨリ仲繼港ノ價值ヲ減セラレ而カモ葫蘆島港ニシテ完成セハ本港ノ遼西沿岸貿易ハ皆無トナルヘク秦皇島ハ受クル影

葫蘆島ハ錦縣ノ南端連山灣ヲ包繞シ北角ノ西海口ト相對シ南方ニ突出セル狹長ナル突角ニシテ北緯四十四分東經百二十一度一分ニ位シ連山驛ヲ隔ル七哩餘、營口ヲ隔ル百三十五哩奉天ヲ隔ル百八十五哩天津ヲ隔ル二百六十六哩ニシテ海路ヨリスレハ營口六十三哩大連百八十五哩天津九十八哩秦皇島九十八哩ノ地點ニ在リ連山驛附近ニ於テ南方ニ高キ茨兒山ヲ望ミ望海寺附近ヨリ半島ヲ形成シ丘陵起伏シ西門山附近ニ於テハ幅員一丁餘ノ地峽トナリ再ヒ大孤山、葫蘆山等ヲ起シテ渤海ニ入ル突角附近ハ磊々タル岩石ニシテ樹木ヲ見ス背後ノ地勢丘陵小丘多シト雖大部分農耕牧畜ニ適ス

第二款 水深並風波

水深ハ西門山附近ニ於テ干潮面十八尺内外海岸アリ四千呎ノ地點ニシテ二十四呎乃至二十七呎干淺ノ差十九呎風向ハ冬季概シテ北風多ク夏季ハ南風西南風多シ波浪ハ南風ノ際約十四五尺ニ達ス

第三款 築港沿革

本港ハ專ラ大連港ニ匹敵スルハ不凍港ヲ開設スルニ在リ光緒三十四年(明治四十年)奉天勸業道黃開文ヲ總辦ニ任シ英人ヒューズヲ技師長ニ聘シ明治四十三年十月ヨリ工事ニ着手シ南海ニ長ク五千呎ノ堅牢ナル防波堤ヲ築造シ港口内干潮面三十呎ノ深サトシ鐵道ヲ敷設シ北海ヲ埋没シテ市街地經營ヲ策シタルモ四十四年革命ノ爲中止シ民國二年再ヒ起工シタルモ之亦中止シ大正五年通裕鐵路公司總辦陳應南ヨリ該築港ヲ出願セシモ却下セラレ民國八年ニ至リ東三省巡

影些細タルヘク天津港ハ畜産物ヲ奪取セラルハノ嫌アルモ其ノ經濟的勢力上微々タルニ止マルヘシト察セラル

第十二節 土地家屋ノ賣買並 賃借價格

遼西中當地方ハ遼陽辟廠ノ地ナルヲ以テ特ニ舊慣ニ馴レ交通上其ノ他ノ刺戟ニ依リ改化遷善スルノ風習ニ乏シク今尙諸種ノ舊習慣ヲ墨守スルコト堅固ナリ本項目ノ賣買及賃借價格等ハ他地方ニ比シ比較的低廉ニシテ同賣買賃借ノ標價ハ何レモ吊建トシ居レルモ稀ニハ契約ノ上特ニ大洋建ノ標價ヲ以テ取極ムルコトアリ

- (イ) 土地賣買價格
- 市街地 每畝ニ付 八百吊内外
 - 同田畑地 上等地每畝ニ付 二百吊内外
 - 同 中等地 同 四百四十吊内外
 - 同 下等地 同 四十吊乃至九十吊
- (ロ) 土地賃借價格
- 土地田畑地 上等地 每畝ニ付一ヶ年二十吊内外
 - 同 中等地 十二吊内外
 - 同 下等地 三吊乃至八吊
- (ハ) 家屋賣買價格
- 市街中心地(商家) 上等每一間房ニ付四千吊内外
 - 同 中等 同 二千二百吊内外
 - 同 下等 同 一千五百吊内外
- 市街辟廠地(商家) 上等每一間房ニ付二千吊内外

- 二七〇
- 同 中等 同 一千五百吊内外
 - 同 下等 同 一千二百吊内外
 - 商家ニアラサル家屋上等每一間房ニ付三千吊内外
 - 同 中等 同 二千吊内外
 - 同 下等 同 一千吊内外
- (ニ) 家屋賃借價格
- 市街中心地(商家) 上等每一間房ニ付一ヶ年七百吊内外
 - 同 中等 同 五百吊内外
 - 同 下等 同 三百吊内外
 - 市街辟廠地(商家) 上等每一間房ニ付一ヶ年四百吊内外
 - 同 中等 同 三百吊内外
 - 同 下等 同 二百五十吊内外
 - 商家ニアラサル家屋上等每一間房ニ付一ヶ年
 - 同 中等 同 一百五十吊内外
 - 同 下等 同 八十吊内外
 - 同 下等 同 六十吊内外
- 一間房トハ慣習上各間ヲ指スモノニシテ三四尺ナルモノアリ又ハ七八尺ノ大間等アリテ一定セス
- 一畝トハ當地方ノ慣習ハ二百四弓トシ一弓ハ五尺ナリトス
- (ホ) 慣習
- 土地家屋ノ賣買ニ當リテハ先ツ賣主又ハ買主ヨリ仲介人ニ申込ミ仲介ハ双方ト商議シタル上賣渡契約成立シタル時双方ヨリ賣買價格百元ニ付キ約三元ノ手数料(實際ハ之ヨリ以上ノ手数料ナリ)ヲ仕拂フノ慣習ナリ面シテ代金取引完了ノ上ノ賣渡人ニ於テ關係者一同ヲ招宴ス

又同時ニ賣渡證書ヲ作成シテ在來ノ地券ト共ニ名義變更ノ登記願ヲ知縣ニ申達ス(此ノ際賣買價格千元ニ付約大洋五千元ノ手数料ヲ納入ス)而シテ後同應ヨリ賣渡登記濟ノ承認ヲ受ケタル後ハ更ニ新地券ノ下附願ヲ申請スルモノニシテ此際租稅トシテ一回限リ價格一千元ニ付キ大洋六千元ヲ納入スルモノトス此ノ手續完了シ始メテ賣買手續取引ヲ終ルモノトス

家屋ノ賃金賃借ニ關シテハ仲介人ヲ要スルモ要セザルモ隨意ニシテ若仲介人アルモ報償等ヲ與フコトナク直接家主ト契約シ得ルモノニシテ家賃ハ契約ニ依リ吊建或ハ小洋建トシ陰借一ヶ年契約ヲ普通トス八月ヲ契約ノ始期トシ翌年七月ヲ以テ終期トス又合意ニヨリ更ニ改約スルモノナリ賃銀ハ前渡ニシテ一ヶ年又ハ半年分トシ家屋外部ノ修繕ハ家主側ニテ家屋内部ノ修繕ハ借主ノ負擔トスルヲ普通トス

第十四節 労働者並僕婢ノ賃金

戰後諸物價ノ暴騰ニ伴ヒ生活難ノ厄ハ當地方各労働者間ニ瀰蔓シタル結果同盟罷工又ハ傭主ニ賃銀値上ノ強要ヲナシタル爲メ戰前ニ比シ約二三割乃至五六割ノ騰貴ヲ見居レリ

農耕作人夫 一年 五十元乃至百十元

農作雜役人夫 一年 三十元乃至六十元

瓦 匠 一日 三毛

木 匠 一日 三毛

書 匠 一日 四毛

小靴	一日	一毛半乃至二毛半
靴	一ヶ月	百七元乃至百十二元
毡靴	一ヶ月	八元乃至十四元
銅器	一ヶ月	五元乃至九元
鐵子	一ヶ月	七元乃至十元
銀細工	一ヶ月	四元乃至十元
紙	一ヶ月	七元乃至十二元
裁縫	一ヶ月	六元乃至九元
染工	一ヶ月	九元乃至十一元
膠工	一ヶ月	六元乃至十元
錫器洋鐵工	一ヶ月	八元乃至十二元
印刷職工	一ヶ月	四元乃至八元
理髮人	一ヶ月	八元乃至十一元
烏拉靴工	一ヶ月	六元乃至九元
毬子工	一ヶ月	五元乃至十元
白皮	一ヶ月	六元乃至十元
黑皮	一ヶ月	七元乃至十三元
皮	一ヶ月	六元乃至十元

第十四節 物價

以上食料ハ何レモ傭主持ニシテ一日一毛半乃至三毛見當ナリ以上ノ外地方官紳富豪等ノ僕者ハ一ヶ年五十元乃至百元婢ハ三十元乃至八十元ニシテ外ニ童僕ヲ雇用セルモノアルモ稀ナリ此等童僕ハ多ク徒弟トシテ無給ナリ婢ハ幼時ヨリ購買シテ使用スルノ習慣アリ

歐洲戰亂ノ結果經濟界ノ好況ニ伴ヒ當地方ノ物價ニモ多大ノ影響ヲ受ケ戰前ニ比シニ倍乃至三四倍ノ暴騰ヲ見ル今邦人側販賣ノ物價ヨリ支那側ニ及ヒ最後ニ支那人側ノ日用必需品ニ付キ戰前ト戰後トノ比較ヲ掲記シテ參考ニ資セントス

本邦製品物價表(大正八年八月末調)

品目	單數	價
白米	一畝(三斗入)	三〇〇〇
醬油	一斗	五〇〇〇
味噌	一貫目	四〇〇〇
葡萄酒	一本	二〇〇〇
晒酒	一本	二〇〇〇
パン粉	一本	二〇〇〇
香水	一瓶	二〇〇〇
茶碗	一個	三〇〇〇
土瓶	一個	七〇〇〇
花瓶	一個	二〇〇〇
同	一枚	一〇〇〇

品名	單位	價
石鹼	個	九〇〇〇
髮油	本	五〇〇〇
毛布	枚	三〇〇〇
美濃紙	打	四三〇〇
便箋紙	冊	四二〇〇
茶正喜撰	斤	二〇〇〇
靴下	足	一〇〇〇
靴下	足	一〇〇〇
ズボン	枚	一〇〇〇
腿帶	足	一〇〇〇
木綿半巾	枚	一〇〇〇
絹半巾	枚	一〇〇〇
白粉	瓶	三〇〇〇
ネクタイ	本	六〇〇〇
洗粉	袋	二〇〇〇
洋釘	斤	三〇〇〇
タオル	枚	二〇〇〇

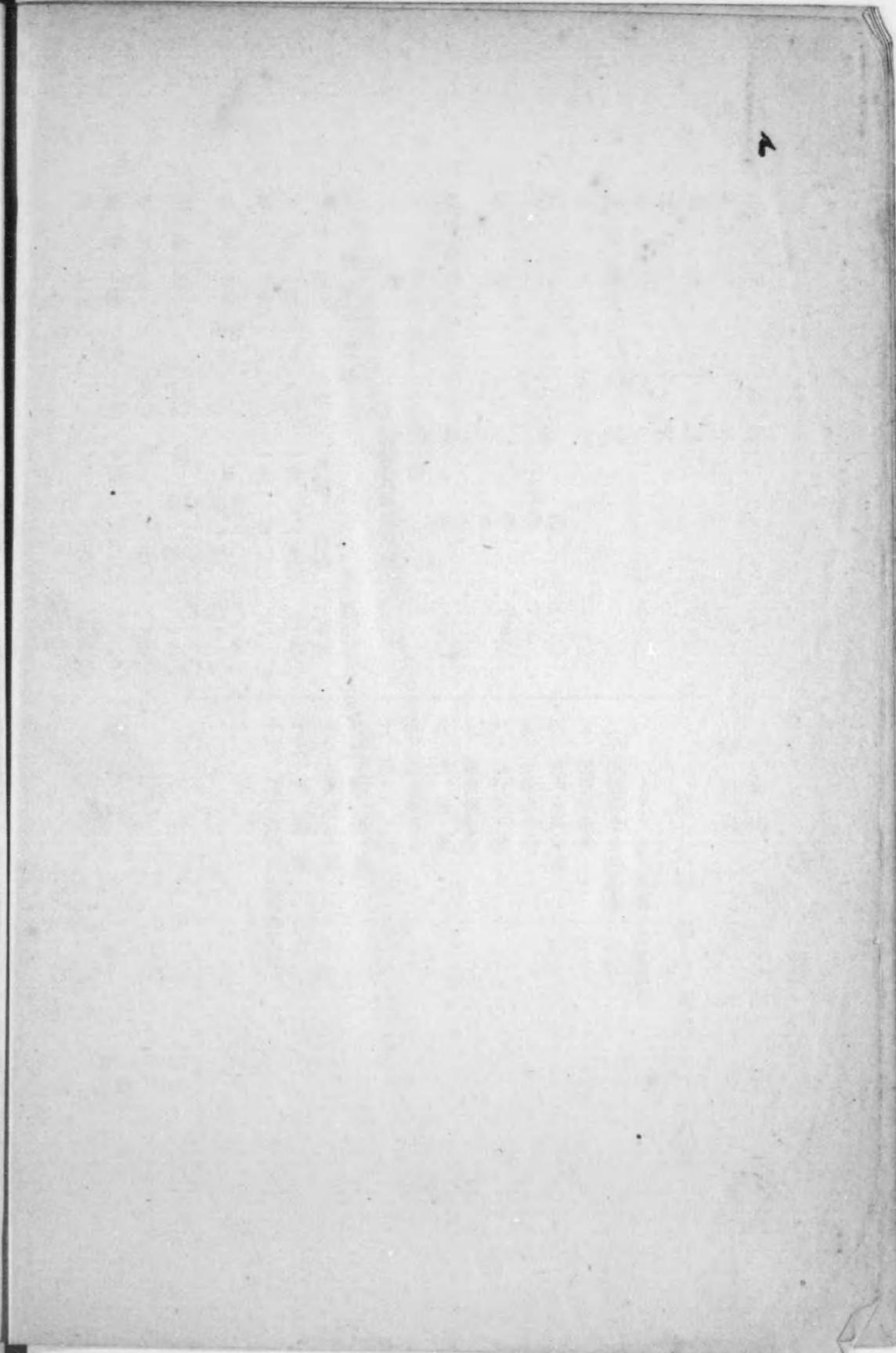
品名	單位	價
麥酒	四打	一八七〇〇
豆粉	一袋	二〇〇〇
梅干	百	三〇〇〇
奈良	同	四〇〇〇
片栗粉	一箱	一八〇〇
サイダ	四打	九二五〇
椎茸	百	二二〇〇
ウキスキ	一	四一五〇
干瓢	百	六〇〇〇
昆布	百	六〇〇〇
酢淋	一	六〇〇〇
半紙	同	六〇〇〇
茶川柳	一	一〇七〇
楊子	一	三〇〇〇
刷子	一	三〇〇〇
靴墨	一	五二〇〇
カラシ	一	三〇〇〇
カラシ	一	四〇〇〇
鐘詰	一	六二五〇

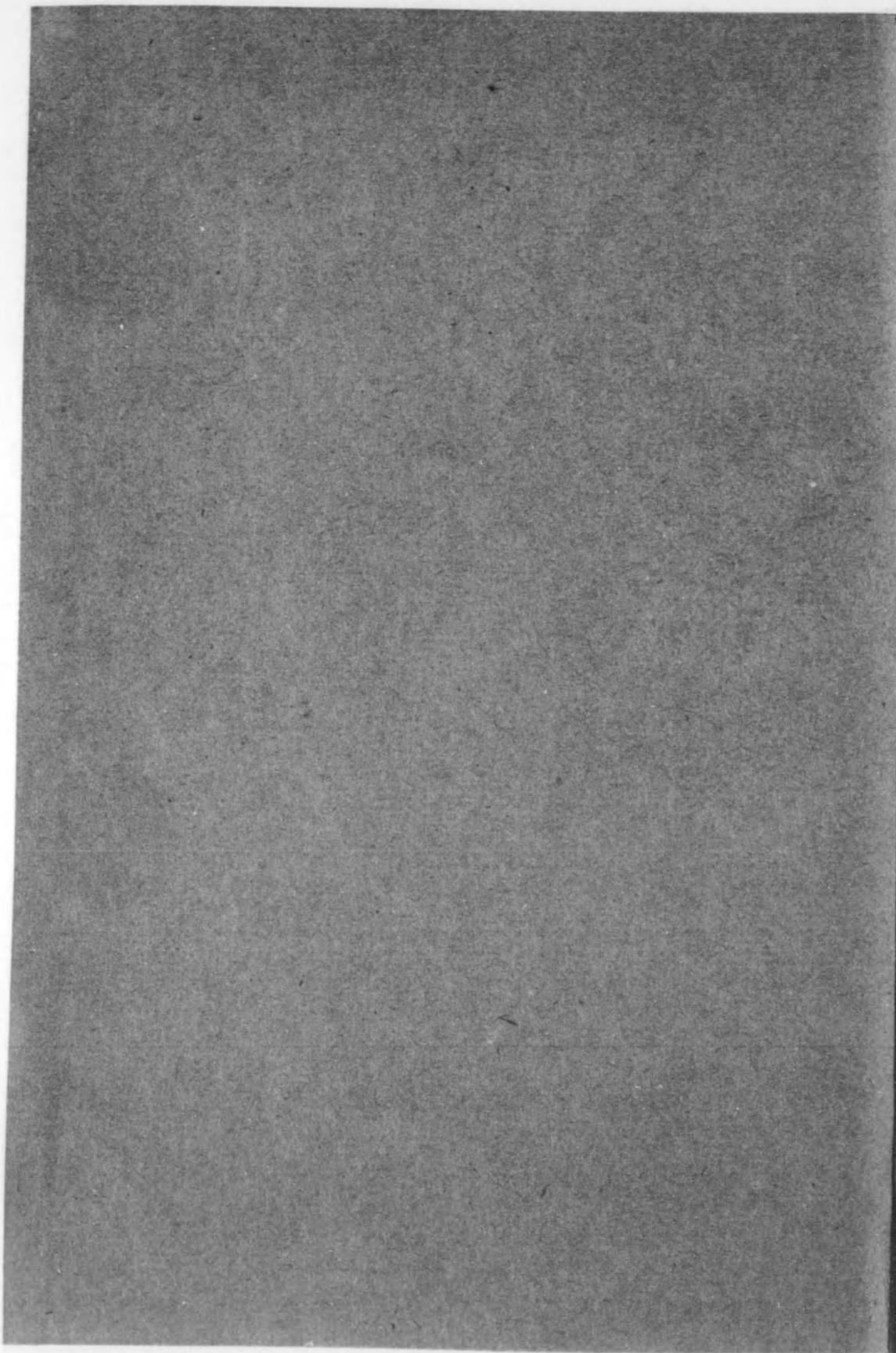
品名	單位	價
齒磨	個	三〇〇〇
敷布	一	四一〇〇
雜記帖	一	二一〇〇
鉛筆	一	〇〇〇〇
手帖	一	三〇〇〇
封筒	百	六二〇〇
日傘	一	五五〇〇
下駄	一	三五〇〇
硝子	一	一〇〇〇
同	一	一〇〇〇
品目	一	一〇〇〇
麵粉	一	四四七〇
砂糖	一	四二〇〇
冰糖	一	四二〇〇
氷糖	一	四二〇〇
粗糖	一	二四〇〇
棉糸	一	二〇〇〇

品目	戰前ノ價格		現在ノ價格		增減
	單數	價格	單數	價格	
白鷄	一斤	〇一〇	一斤	〇五〇	〇四〇
豚肉	同	二五〇	同	二八〇	一三〇
牛肉	同	二〇〇	同	二四〇	二〇〇
果實	一斤	〇三〇	一斤	〇四〇	〇一〇
粟	一升	〇九〇	一升	一〇〇	〇一〇
高粱	一升	〇八〇	一升	一〇〇	〇二〇
玻璃器製	一個	—	一個	二二〇	二五〇
石鹼	一兩	—	一兩	八〇〇	七二〇
蠟燭	一兩	—	一兩	七〇〇	七四〇
木炭	一斤	—	一斤	七〇〇	八〇〇
洗面器	一個	—	一個	一八〇	一八〇
手拭子	一打	—	一打	七八〇	七八〇
腿帶	一打	—	一打	一六〇	一六〇
綿布	一疋	—	一疋	七五〇	七五〇
木綿白布	小包一個	—	小包一個	〇七〇	〇七〇

戰前ト現在トノ物價比較
(大正八年八月調)

- 二七四
- 羊肉 同 二〇〇
 - 雞肉 同 二五〇
 - 一、コークス製造及其ノ附帶事業
 - 二、絨氈製造及織布業
 - 三、酒糖釀造業
 - 四、倉庫兼問屋業
 - 五、石鹼製造業
 - 六、柳行李工場
 - 七、醬油釀造業
 - 八、採皮業
 - 九、高粱精米業
 - 十、油坊
 - 十一、牧畜業
 - 十二、石棉工場
 - 十三、電燈業
 - 十四、諸毛獸骨買出及加工業
- 第十七節 邦人ノ着眼スヘキ事業





310
/m

321
95

終